

い組ろ組松組梅組等ト稱スル一團ニ依リ一定ノ口數ト一定ノ給付金額ヲ定ムルヲ以テ無盡業法施行細則第二條第三號乃至第十號ノ方法カ重大ナル意義ヲ有シ殊ニ一組ノ口數カ一定シテ動カスヘカラサルカ故ニ中途解約又ハ不履行ノ爲缺口トナリタル場合ノ處理ニ付嚴重ナル定ヲ爲シ無盡會社ニ之カ責任ヲ負ハシムルコトトナセルモ本件被告人等ノ爲ス貸付方法ニハ前述ノ如ク一定シタル口數ノ組ナルモノ存スルコトナキヲ以テ中途解約者又ハ退會者ノ有ルモ缺口ヲ生セス既ニ貸付ヲ爲シタル者ヲ除キタル他ノ希望者ノ一人ニ對シ借主ヲ定ムルヲ以テ足ルカ故ニ所謂去ル者ハ之ヲ追ハス入ル者ハ之ヲ拒マズ其ノ口數竝ニ其ノ組ハ常ニ新陳代謝ス又無盡ニ在リテハ一口毎ニ各掛金者ニ給付ヲ爲スコトヲ要シ縱令一口ト雖空口アルコトヲ許ササルモ口數ノ一定セサル本件事業ニ付テハ斯ノ如キコトナシ次ニ(ロ)定期ノ掛金ト謂フハ定期金ノ性質ヲ有スルモノニシテ即チ時ノ經過ニ伴ヒ規則的ニ回歸スル豫定ノ時期毎ニ爲サルヘキ一定數量ノ金錢ノ給付ナラサルヘカラス本件ノ掛金ハ毎日十錢又ハ二十錢宛ヲ日積又ハ掛ケ返シヲナスモノナルヲ以テ定期ナル觀念ノ存スルコトナシ右ノ次第ナルヲ以テ原判決ハ法律上一定シタル口數竝ニ定期ノ掛金ヲ拂込マシメサル取引ニ付純然タル無盡ト誤認シ被告人ノ所爲ヲ無盡業法ニ違反セルモノト斷シタルハ重大ナル事實ノ誤認ニシテ且法令ニ違反シタル不法アリ破毀セラルヘキモノト思料スト云フニ在レトモ

【要旨】

所論ノ點ニ付キ原判決ノ確定シタルトコロハ被告人ハ判示ノ如キ會名ニテ會員ヲ募集シ加入者ニハ一

口ニ付毎日十錢宛九百日間掛込マシメ三十日目毎ニ一口ニ付金三圓ノ掛込ヲ了シタルモノ三十口ヲ一組トシ一口毎ニ入札又ハ抽籤ノ方法ヲ以テ金六十圓以上金九十圓迄ノ範圍内ニ於テ右掛込者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲シ又滿期ニ至ル迄右ノ給付ヲ受ケサル者ニ對シテハ金九十圓ヲ給付スル方法ニ依リ金融ヲ得シムル仕組ナリト云フニ在レハ其ノ行爲カ無盡業法第一條ニ所謂無盡ニ該當スルコト疑ヲ容レズ蓋シ法第一條ニ一定ノ口數トハ本件ノ如ク入會後三十日間毎日金十錢宛ノ掛込ヲ爲シタルモノ三十組ヲ一組ト爲シ之ヲ其ノ無盡ノ單位ト爲スモノヲモ包含スト解スヘク之ヲ目シテ口數ノ一定セサルモノト爲スヘキニ非ス又其ノ掛金ノ如キハ一口ニ付毎日金十錢ノ掛込ヲ爲サシムルモノニシテ其ノ掛金カ定期ノ支拂ニ屬スルコト辯ヲ須タサル所ナレハナリ記録ニ徵スルモ其ノ點ニ關スル原判決ノ認定ニハ誤認アルコトヲ疑フヘキ事由アルモノニ非ス然ラハ原判決カ原判示ノ事實ヲ認定シ之ヲ無盡業法第三十六條ニ問擬シタルハ違法ニ非ス論旨採ルニ足ラス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○麻薬取締規則違反幫助被告事件(昭和八年(九)第一九二七號 同九年三月七日第三刑事部判決 棄却)

【被告人】 被告人 松岡勇一郎 辯護人 (古賀元吉 岡田喜一郎)

【第一審】 神戸區裁判所 【第二審】 神戸地方裁判所

○判示事項

薬種商ト麻薬密輸出罪ノ從犯

○判決要旨

薬種商ヲ營ム者ト雖麻薬ノ輸出ニ付内務大臣ノ許可ヲ受ケサル者カ麻薬ノ密輸出ヲ爲スコトヲ知りナカラ之ニ麻薬ヲ賣渡スニ於テハ麻薬取締規則第二十一條第一項第十條第一項ノ違反罪ノ從犯ヲ以テ論スヘキモノトス

【参照】 麻薬取締規則第十條第一項 麻薬ヲ輸出又ハ移出セントスル者ハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ仕向地當該官憲ノ發給ニ係ル輸入若ハ移入許可證明書又ハ保税倉庫搬入許可證明書ヲ添ヘ主タル業務所所在地地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クハシ

- 一 品名及數量
 - 二 荷受人ノ氏名(法人ニ在リテハ名稱)又ハ商號及業務所所在地
 - 三 輸出又ハ移出ノ期間
 - 四 送荷ノ方法
 - 五 輸出又ハ移出港名(郵便ニ依ル場合ニ在リテハ郵便局名)
- 同規則第二十一條第一項 第二條第一項第三條第六條第一項第九條第一項又ハ第十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス
- 刑法第六十二條第一項 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人松岡勇一郎ヲ懲役一月ニ處スル旨判決シタリ

被告人ハ肩書地店舖ニ於テ薬種商ヲ營ムモノナルトコロ昭和七年十月中旬ヨリ同年十一月下旬迄ノ間三回ニ互リ原審共同被告人土井長一三カ内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ支那方面ニ密輸出スルノ情ヲ知リ乍ラ同人ニ對シ前示店舖ニ於テコカイン七百瓦入五罐三千五百瓦ヲ賣却シ因テ同人カ其ノ都度内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ右コカインヲ自ラ又ハ原審共同被告人糸長政人ノ手ヲ經テ孰レモ神戸港ヨリ長崎丸又ハ上海丸ニテ上海ニ携行陸揚ケシテ爲シタル密輸出ヲ容易ナラシメテ幫助シタルモノニシテ右ハ意思繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ麻藥取締規則第二十一條第一項第十條第一項刑法第六十二條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ從犯ナルヲ以テ同法第六十三條第六十八條ヲ適用シ法定ノ減刑ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ主文ノ如ク量刑處斷スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人松岡勇一郎辯護人古賀元吉岡田喜一郎上告趣意書第一點原審判決ニハ擬律錯誤ノ違法アリ原審判決ノ理由ニヨレハ「被告人ハ肩書地店舗ニ於テ藥種商ヲ營ムモノナル處昭和七年十月中旬ヨリ同十一月下旬迄ノ間三、四回ニ互リ原審共同被告人土井長一三カ内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ支那方面ニ密輸出スルノ情ヲ知り乍ラ同人ニ對シ前示店舗ニ於テコカイン……ヲ賣却シ同人カ其ノ都度内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ右コカインヲ自ラ又ハ原審共同被告人糸長政人ノ手ヲ經テ孰レモ神戸港ヨリ長崎丸又ハ上海丸ニテ上海ニ携行陸揚シテ爲シタル密輸出ヲ容易ナラシメ幫助シタリ」ト判示シ「判示行爲ハ麻藥取締規則第二十一條第一項第十條第一項刑法第六十二條第一項第五十五條ニ該當ス」ト問擬シタルモノナル處藥種商即チ藥品營業者タル被告人ハ「支那方面ニ密輸出スルノ情ヲ知ル」ト雖モ其ノ者ニ「コカインヲ賣却スル」能ハサル義務ヲ負フモノニ非ス同規則ノ規定ニヨレハ被告人カ「支那方

面ニ密輸出スルノ情ヲ知ル」ト否トニ論ナク同規則第十七條所定ノ「證明アル文書」ヲ提出スル者ニ對シテハ自由ニコカインヲ賣渡スコトヲ許サレ居ルモノナリ果シテ爲ラハ前示ノ如キ判示事實ニ對シ麻藥取締規則第二十一條第一項同第十條第一項刑法第六十二條第一項ノ罪アリト問擬シタルハ明ニ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト云ヒ」第二原點審判決ニハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由乃至理由不盡ノ違法アリ原審判決ハ藥品營業者タル被告人カ内務大臣ノ許可ヲ受ケス支那方面ニ密輸出ヲスルノ情ヲ知り乍ラ其ノ者ニ麻藥ヲ賣却シ其ノ者カ密輸出ヲ遂ケタルコトカ麻藥密輸出ノ幫助ナリト事實ヲ認定シタルモノナル處藥品營業者タル被告人ハ麻藥ノ購買ヲ求ムル者ニ對シ麻藥取締規則第十七條所定ノ「證明アル文書」ヲ徵スヘキ義務ヲ負フニ過キササルモノニシテ若シ藥品營業者タル被告人ノ所爲ニシテ麻藥密輸出ノ幫助トナルヘキ因果關係有リトセハ「開ハ「證明アル文書」ヲ徵セサリシ事ニ在ルヘク單ニ藥品營業者トシテ麻藥ヲ「賣却」シタルコトニ在ルヘキモノニ非ス然ルニ藥品營業者タル被告人カ麻藥ヲ賣却シタルコトノミヲ指示シテ其レカ麻藥密輸出ノ幫助ナリト事實ヲ認定シタルハ其ノ認定ニハ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シタルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由ヲ存スルモノト云フヘク尠クトモ理由不盡ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト云ヒ」第三點原審判決ノ事實ノ認定ニハ誤認アリ原審判決ハ藥種商タル被告人カ密輸出ノ情ヲ知り乍ラ麻藥ヲ賣却シタルコトヲ麻藥密輸出ノ幫助ナリト事實ヲ認定シタリ然レトモ麻藥取締規則ニヨル麻藥ノ密輸出

トハ麻薬所持ノ状態カ國境ヲ踰越スルコトヲ指スモノト解スヘク右密輸出ノ幫助トハ麻薬ノ代理所持
 乃至所持ノ加擔ノ行爲ヲ以テ國境踰越ヲ容易ナラシムルコトヲ指スニ過キサルモノトス被告ノ所爲ハ
 所持ニ原因ヲ爲シタルニ止リ所持ニ對スル幫助ニ非ス尙被告人カ「密輸出ノ情ヲ知レリ」トハ單ニ被告
 人ノ推定ニ止ルモノナリ原審判決ハ其ノ理由中(三)ニ於テ「孰レモ支那方面ニ内密ニテ持行カルル
 モノナルコトハ承知ノ上之ヲ賣リタル次第」トノ被告ノ供述ヲ援用スルモ右ハ昭和七年七月二十二日
 附被告ニ對スル檢事ノ聽取書中「海員風ノ者カコカインヲ買フト云フノテアルカラ多分船ニ積ンテ支
 那方面ヘ内密テ持ツテ行クノニ違イナイト思ヒマシタノテ私ハ麻薬證明書ノ様ナモノハ無論持ツテ居
 ラヌモノト考ヘ此事ハ口ヘ出サス賣渡スコトヲ承諾シタノテアリマス」ト供述セルモノヲ論述化シタ
 ルニ止ルモノナリ所詮密輸出ニ對スル被告ノ主觀ハ「知り」タルニ非ラスシテ「推定」シタルモノナ
 リ推定ナルカ故ニ其ノ結果ハ密輸出トモナルヘク國內消費トモナルヘク一定セサルモノナリ斯ル心理
 的狀態ハ刑法ニ所謂「故意」ニ非ス然ルヲ原審判決カ密輸出ノ情ヲ知リ乍ラコカインヲ賣却シタルコ
 トヲ密輸出ノ幫助ナリト事實ノ認定ヲ爲シタルモノハ明カニ事實ノ誤認ナリト云フヘク破毀ヲ免レス
 ト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

縦令藥種商ヲ營ム者ト雖麻薬ノ輸出ニ付内務大臣ノ許可ヲ受ケサル者カ麻薬ノ密輸出ヲ爲スコトヲ知
 リナカラ之ニ麻薬ヲ賣渡スカ如キハ密輸出行爲ノ遂行ニ便宜ヲ與ヘ之ヲ容易ナラシムルモノナルヲ以

テ麻薬取締規則第二十一條第一項第十條第一項刑法第六十二條第一項ノ犯罪成立スルコト疑ナク所論
 ノ如ク單ニ麻薬ノ代理所持乃至所持ノ加擔行爲ヲ以テ國境踰越ヲ容易ナラシメタル場合ニ於テノミ幫
 助罪ノ成立ヲ認ムヘキモノト爲スヲ得ヌ又藥種商ヲ營ム者ト雖前敍ノ如キ密輸出者カ麻薬ノ密輸出ヲ
 爲スニ當リ其ノ情ヲ知リナカラ之ニ麻薬ヲ賣渡シ密輸出ヲ容易ナラシメタル以上ハ其ノ者ヨリ同取締
 規則第十七條所定ノ警察署長ノ證明アル文書ヲ徵シタルト否トヲ問ハス該密輸出行爲幫助ノ犯罪ヲ構
 成スヘク唯右證明アル文書ヲ徵セスシテ同規則第十七條所定ノ者ニ麻薬ヲ讓渡スルニ於テハ別ニ同規
 則第二十二條違反ノ罪ヲ構成スルコトアルヘシト雖之カ爲麻薬密輸出罪幫助ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得
 サルモノト云ハサルヘカラス而シテ原判決ノ認定シタルトコロニ依レハ被告人ハ藥種商ヲ營ム者ナル
 トコロ判示期間内ニ犯意ヲ繼續シテ三回ニ互リ土井長一三カ内務大臣ノ許可ヲ受ケスシテ支那方面ニ
 密輸出スルノ情ヲ知リナカラ同人ニ對シ判示コカインヲ賣却シ因テ同人カ其ノ都度内務大臣ノ許可ヲ
 受ケスシテ右コカインヲ自ラ又ハ系長政人ノ手ヲ經テ孰レモ神戸港ヨリ判示各船舶ニテ上海ニ携行陸
 揚ケシテ爲シタル密輸出ヲ容易ナラシメタリト云フニ在ルヲ以テ被告人ハ土井長一三カ麻薬コカイン
 ノ密輸出ヲ爲スヘキコトヲ知悉シナカラ之ヲ容易ナラシムル意思ヲ以テ同人ノ密輸出行爲ヲ幫助シタ
 ルモノニ外ナラス而カモ右事實ハ原判決援用ノ證據ニ依リ優ニ之ヲ證明スルニ足り記録ヲ精査スルモ
 原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フヘキ事由アルコトヲ認メ得サルノミナラス右事實ハ麻薬

取締規則第二十一條第一項第十條第二項刑法六十二條第一項第五十五條ニ該當スルコト明白ナルヲ以テ之ヲ右各法條ニ問擬シタル原判決ハ正當ニシテ原判決ニ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ孰レモ其ノ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○村會議員選舉罰則違反被告事件 (昭昭八年(れ)第一九六九號 同九年三月八日第一刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人、角久間千幾藏

【第一審】 竹田區裁判所 【第二審】 大分地方裁判所

○判示事項

戸別訪問ト相手方ノ應答

○判決要旨

投票ヲ得ル目的ヲ以テ連續シテ戸別ニ選舉人ヲ訪問シ投票方ノ依頼ヲ爲ス以上ハ相手方ニ於テ應答ヲ爲ササルトキト雖戸別訪問ノ罪ヲ構成スルモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個個ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

町村制第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條第九十二條第九十八條第九十九條第二項、第一百條及第四百四十二條ノ規定ヲ準用ス

同制第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

○事實

第二審裁判所ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間被告人ヲ勞役場ニ留置シ被告人ニ對シテハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサル旨ノ判決ヲ爲シタリ

戸別訪問ト相手方ノ應答

被告人ハ昭和八年四月二十五日施行ノ直入郡豊岡村村會議員選舉ニ當リ議員候補者トナリタルモノナル處其ノ投票ヲ得ル目的ヲ以テ連續シテ

一 同月十一日午前七時半頃同村大字會々選舉人佐藤吉登方ニ到リ同人ニ對シ「之ヲ頼ム」ト言ヒテ同人及同人父選舉人佐藤辰藏ニ宛テタル投票依頼ノ趣旨ヲ記載セル立候補ノ挨拶狀二通ヲ交付シテ暗ニ被告人ニ投票方ヲ依頼シ

一 同日午前十時頃同所選舉人中野照夫方ニ到リ同人ニ對シ「之ヲ」ト云ヒテ同人ニ宛テタル右同様ノ挨拶狀一通ヲ交付シテ暗ニ被告人ニ投票方ヲ依頼シ

以テ戸別訪問ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ町村制第三十六條ノ二第三十七條參議院議員選舉法第九十八條第一項第百二十九條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ主文ノ刑ヲ量定處斷スヘク刑法第十八條ニ依リ其ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル勞役場留置ノ期間ヲ定ムヘク尙町村制第三十七條同選舉法第三百三十七條第二項ニ依リ被告人ニ對シテハ情狀ニ因リ町村制第三十七條同選舉法第三百三十七條第一項ノ規定ヲ適用セサルヲ相當ト認ム

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書一、被告ハ無罪ノ御判決ヲ確信シテ居リマス二、中野照夫 佐藤吉登兩人ノ簷下テ推薦狀ヲ投ケ込ミマシタカ中野照夫ハ其ノ時不在テアリマシテ家族ノモノモ家中ニハ居リマセンシタ佐藤吉登方ニ親子二通ヲ一纏ニシテ投ケ込ミマシタカ本人吉登ハ門口テ鍋ヲ洗ツテ居リマシテ被告カ投ケ込ンタノモ見向キモセス其ノ儘洗ヒ續ケテ居リマシタ此ノ家ハ飲食店テアリマシテ四、五人ノ客モ居リマシタ吉登ノ父辰藏ハ不在テアリマシタ被告カ此ノ多人數居ル前テ「宜シク頼ム」ト言フ譯カ常識カラ考ヘテモ有ル筈カアリマセン中野照夫 佐藤吉登ノ調書ニヨツテモ明瞭テアリマス推薦狀ハ二重封筒テ密閉シ宛名丈ケ記シテアリマシタ三、警察ハ被告カ當時肅正會委員テアリ又二十年近クモ政黨員テアツタコトハ情實ニ何等寛大スル處カナイト御考ヘテアリマスカ之ハ被告ノ考ヘル處ト大ナル相違カアリマス肅正會委員ヲ昭和八年四月十日ニ招集サレマシテ其ノ席上署長ノ話テハ此ノ度ノ選舉ニ對シテハ第一金錢ニ依ル不正ヲ根絶取締ルヲ主眼トシ第二現政府ノ方針ニ基キ節約主義ヲ守ルコト此ノ二條件ヲ主題ニ長々ト説明ヲ聞カサレマシテ殘餘ノ條文ニ付テハ單ニ法ノ示ス處ニ從フヘキテアルト簡單ニ言ハレマシタ丈ケテ詳細ナル違反トナル事項ニツキテハ被告等常ニ法律ヲ研究セサルモノカ正當ナル解釋ノ出來ルモノテハアリマセン被告ノ考ヘテハ如此僅ナル點ニ對シテ本件ヲ惹起シタルハ聊カ署長ニ親切ノタラヌ點モアリハシナイカト思フノテアリマス被告ハ説明サレタ此ノ二項ニツ

キマシテハ最モ嚴守シテ居リマス費用ノ如キ總テテ金十三圓シカ使ツテハ居リマセヌ推薦狀ノ如キモ自分テ騰寫シタ位テアリマス又被告ハ今日政黨ハアリマセン警察ノ被告ニ對スル執拗ナル訊問ニ對シマシテ被告ハ「宜シク頼ム」ト別ニ有權者ニ申サストモ本村ノ者ハ被告ノ立候補シタコトハ能ク了解シテ居リマスト傲語ニ涉ツタ點ハアリマスカ當時被告ハ二十五日ノ開選日ヲ控エテ二十日ヨリ二十二日迄モ留置サレ氣カ氣テナク最モ興奮シテ居ル時テアリマシタカラ自然ニ發シタ言テアリマシテ恒平常ノ精神カラテハアリマセン四、檢事局テハ本件ハ僅ノ事件テ別ニ公衆ニ害ヲ與ヘタト言フノテハナイ同情ハスルカ止ムナク法ノ手續ヲセネハナラント申サレマシテ「宜シク頼ム」ト別段ニ相手方ニ言ハストモ推薦狀ニハ頼ムト明記シテ居ルカラ矢張頼ム心テアツタロウカト申サレマシタ此ノ事ハ一審ノ裁判モ二審ノ裁判モ共ニ聞カサレマシタ點テアリマス此ノ點ニ對シ被告カ判官ニ被告ノ精神力徹底スル様ニ申シ開キカ出來ナカツタコトト申シ開キ不足ノアツタコトハ被告ノ不徳ノ致ス處テアリマシテ誠ニ残念ノ次第テアリマシタ被告ノ心境ハ推薦狀ニハ確ニ頼ムト書イテアルコトハ否定致シマセヌ併シ夫レハ密閉シタ封筒中ノ事テアリマシテ披キテ見ネハ中ノコトハ何人テモ知ル筈ハアリマセン被告ノ行爲ハ唯郵便配達夫ノ任務ヲ代理シタニ過キナイノテアリマスカラ特ニ此ノ點ヲ力説致シマス五、戸別訪問ハ被告ノ考ヘル限リ二軒以上ニ相手ト對談ヲナサヌ以上ハ戸別訪問シタコトニハ今迄考ヘテ居リマセヌ中野照夫 佐藤吉登ノ兩家ノ簷下ヨリ投ケ込シタ迄ノコトテアリマスカラ是カダメニ

苦心シテ種々ト迫害ヲサレツツ切り抜ケテ折角ニ當選シタ被告カ其ノ權利ヲ一朝ニシテ失セネハナラヌト言フコトハ洵ニ終生ノ恨事此ノ上モナキ次第テアリマス被告トシテハ罪サレルヘキモノテハナイト堅ク心ニ誓ツテ居ル次第テアリマス被告ノ考ヘマスルニハ有權者ノ意思ヲ尊重シ有權者ニ夫レカ爲ニ迷惑ヲサセテハナラヌト言フ意味カラノ戸別訪問禁止テアロウト今迄確信シテ居リマシタ夫レ故ニ被告ノ行爲ニハ毛頭疾シク又惡意ハナク純真テアリマスカラ法ヲ犯シタモノトハ考ヘテ居リマセン六、本件發生原因トモ申スヘキハ唯ニ田舎ノコトテハアルシ常ニ不自由勝ニテ當時郵便切手カ七十五枚全部買ヒ求ムルコトカ出來テ居ツタナラハ本件ハ發生セナカツタノテアリマス當時隣村一齊ニ同日ノ選舉ノタメ切手ノ不足シタコトカ被告ニ取ツテ一生ノ恨ミテアリマシタ近頃當竹田町ニ軍神廣瀬中佐ノ御社カ創建サレマスカ被告ハ俱ニ旅順港口ノ決死隊ニ加ツタ關係カラ御創建後ハ社守トナルコトニナツテ居リマスカ此ノ場合萬一ニモ罪ヲ犯シタ者トナレハ世間ハ無論ノコト永久ニ故中佐ニ對シ誠ニ申譯カナイノミナラス神ニ仕ヘルコトモ出來サル次第ニ有之候ト謂フニアレトモ

原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ昭和八年四月二十五日施行ノ大分縣直入郡豐岡村村會議員選舉ニ當リ立候補シタルカ投票ヲ得ル目的ヲ以テ連續シテ同月十一日午前九時半頃同村ノ選舉人佐藤吉登方ニ到リ同人ニ對シ「之ヲ頼ム」ト言ヒテ同人及同人ノ父ニシテ選舉人タル佐藤辰藏ニ宛テタル投票依頼ノ趣旨ヲ記載セル立候補ノ挨拶狀二通ヲ交付シテ被告人ニ投票方ヲ依頼シ同日午前十時半頃同村ノ選

舉人中野照夫方ニ到リ同人ニ對シ「之ヲ」ト言ヒテ同人ニ宛テタル右同様ノ挨拶狀一通ヲ交付シテ被告人ニ投票方ヲ依頼シタリト謂フニアリテ右ノ事實ハ原判決ノ舉示スル各證據ニ依リ優ニ之ヲ認ムルニ足り記録ヲ精査スルモ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由ヲ發見セス然レハ被告人ノ爲シタル右佐藤吉登 中野照夫ニ對スル各訪問行爲ハ町村制ニヨリ準用セラルル衆議院議員選舉法第九十八條第一項ニ所謂投票ヲ得ル目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲シタルモノニ該當スルモノニシテ假ニ所論ノ場合選舉人佐藤吉登カ被告人ノ依頼ニ對シ何等應答ヲ爲ササリシトスルモ被告人ノ行爲ハ仍ホ戸別訪問タルコトヲ妨ケサルナリ從テ原判決カ被告人ノ行爲ニ對シ町村制第三十六條ノ第二第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ヲ適用シ被告人ノ有罪ヲ斷シタルハ正當ニシテ論旨ハ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○名譽毀損被告事件 (昭和八年(九)第一九八一號 棄却)
(同九年三月八日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 金森 鶴二 辯護人 鈴木雄次郎
 【第一審】 飯田區裁判所 【第二審】 長野地方裁判所

○判示事項

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ト後見人ノ背信行爲

○判決要旨

被後見人ノ財産ニ關スル後見人ノ背任又ハ横領罪ニ該當スル行爲
 ハ新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ニ屬スルモノトス

【參照】 新聞紙法第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テス專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行ト後見人ノ背信行爲

被告人ハ長野市内ニ於テ發行スル信濃毎日新聞ノ記者ニシテ長野縣下伊那郡飯田町所在同新聞飯田支局ノ特派員ナル處昭和八年七月十七日午後六時三十分頃右支局ニ於テ電話ヲ以テ長野市右新聞本社ニ「飯田町の百萬長者久屋事原健吉氏ノ後見人健吉氏の親戚原守國氏十四日夕刻もと子夫人長女清子次女すみ子長男春等を連れて突如行衛不明となり云々原因については家督相續人健吉氏が成年に達したので家財の引繼に對し後見人守國氏と兎角圓滿を欲いたものと見られて居る尙原氏は同家所藏の書畫骨董其の他を持出したものらしく同家監督人下島辯護士外數氏は目下家財調査中である」旨ノ記事ヲ通信シ以テ翌十八日附右新聞紙上(第一八三七四號)ニ「百萬長者の後見人が一家揃つて謎の家出云々飯田町の原守國氏」ナル題下ニ右趣旨ノ記事ヲ掲載シテ之ヲ頒布セシメ以テ公然事實ヲ摘示シテ原守國ノ名譽ヲ毀損シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百三十條第一項ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人鈴木雄次郎上告趣意書ハ被告人ノ行爲ハ第二審判決理由記載ノ如シ辯護人ノ争フ所ハ該新聞紙ノ記載事項ハ原守國氏ノ私行ヲ訐ケルモノニアラスト云フニアリ抑新聞紙法第四十五條ノ私行ニ涉ルモノトハ何ソヤ辯護人ノ信スル所ニヨレハ男女間ニ於テ野合ヲ爲シタリトカ夫婦喧嘩ヲ爲シタリトカ交友ノ間ニ於テ食言シタリトカ専ラ私人相互ノ關係ヲ云フモノニシテ事苟モ國家ノ刑罰權ニ關スルトカ行政上不法ノ行爲ヲ爲シタリトカ云フカ如キ行爲ハ私行ニアラスト信ス被告人ノ新聞紙ニ記載シタル事項ハ若シコレヲ眞實トセハ原守國氏ノ行爲ハ後見人トシテ背任又ハ横領ノ行爲ニ當リ國家刑罰權ノ制裁ヲ受クヘキ行爲ニシテ私行ニハアラサレハ原審ニ於テハソノ事實ノ證明ヲ許シ新聞紙法第四十五條ノ適用アリヤ否ヤヲ判斷スヘキニ不拘ソノ舉ニ出テサリシハ不當ニ法律ヲ適用セル不法アリト存シ候ト云フニ在レトモ

【要旨】

新聞紙法第四十五條ニ所謂私行トハ公法的權利關係ニ於ケル公生活ノ行動ニ對立スル觀念ニシテ人ノ私生活關係ニ於ケル行動ヲ汎稱シ後見人ノ被後見人ノ財産ニ關スル背任又ハ横領罪ニ該當スル行爲ノ如キハ公法的權利關係ノ下ニ行動シタルモノニ非サルカ故ニ其ノ私行ナリトス本件原判決カ原守國ノ名譽ヲ毀損スル新聞記事トシテ認定シタル事實ハ飯田町ノ百萬長者原健吉ノ後見人原守國ハ其ノ家族ヲ連レ突然行衛不明トナリタルカ原因ハ成年ニ達シタル健吉ニ財産引繼ニ關シ兎角圓滿ヲ欲キタルモノト見ラル尙原氏ハ健吉所有ノ書畫骨董ヲ持出シタルモノノ如ク目下家財調査中ナリト謂フニ在リテ

其ノ行動カ所論ノ如ク眞實ナリトセハ後見人トシテ背任又ハ横領罪ニ該當シ國家刑罰權ノ制裁ヲ受クヘキモノナリトスルモ右行爲カ原守國ノ私生活關係ニ於ケル行動ナルコト前段ノ説明ニヨリ明白ナルカ故ニ原判決カ右記事ヲ原守國ノ私行ニ關スルモノト認メ新聞紙法第四十五條ヲ適用セサリシハ正當ニシテ論旨理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○常習賭博市會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和八年(九)第一九八六號
同九年三月八日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 萩原 五郎

外四名

辯護人

伊田 彰一 清
大野 順一
岸野 三郎
佐藤 治三郎

【第一審】 山形區裁判所 【第二審】 山形地方裁判所

○判示事項

金錢供與周旋罪ト無資格選舉運動罪トノ競合

○判決要旨

法定ノ選舉運動者ニ非サル者力特定ノ市會議員候補者ヲ當選セシムル爲其ノ候補者ニ對シ選舉運動者ニ報酬ヲ供與セラレタキ旨ノ交渉ヲ爲シ之ヲシテ自己ノ手ヲ經テ運動者ニ金員ヲ供與セシメタルトキハ一個ノ行爲ニシテ金錢供與周旋ト無資格選舉運動トノ二罪名ニ觸ルルモノトス

【參照】 市制第三十九條ノ三第一項 前條ノ規定ニ依ル選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第四百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第四十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス
衆議院議員選舉法第九十六條 議員候補者、選舉事務長、選舉委員又ハ選舉事務員ニ非サレハ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ハ此ノ限ニ在ラス

金錢供與周旋罪ト無資格選舉運動罪トノ競合

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ従ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第一百十二條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 當選ヲ得者ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ要應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ
 - 二 當選ヲ得者ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ其ノ者又ハ其ノ者ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他特殊ノ直接利害關係ヲ利用シテ誘導ヲ爲シタルトキ
 - 三 投票ヲ爲シ若ハ爲ササルコト、選舉運動ヲ爲シ若ハ止メタルコト又ハ其ノ周旋勸誘ヲ爲シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
 - 四 第一號若ハ前號ノ供與、要應接待ヲ受ケ若ハ要求シ、第一號若ハ前號ノ申込ヲ承諾シ又ハ第二號ノ誘導ニ應ジ若ハ之ヲ促シタルトキ
 - 五 前各號ニ掲クル行爲ニ關シ周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトキ
- 刑法第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス
第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人五郎ヲ懲役四月(他ノ被告ノ分略ス)ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一事實(省略)

第二 被告人萩原五郎ハ昭和八年六月一日施行ノ山形市會議員選舉ニ立候補セル菅野豐二郎ノ法定ノ選舉運動者ニ非サル處同候補者ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ同年五月十八日頃同市香澄町木ノ實小路同候補者居宅ニ於テ同候補者ニ對シ選舉運動者須具友次郎等ニ運動報酬トシテ金錢ヲ供與スヘク交渉シ即日同所ニ於テ同候補者ヲシテ選舉運動者須具友次郎ニ對シ金十圓同加藤初三郎ニ對シ金五圓同枝松重吉ニ對シ金十圓同後藤七郎ニ對シ金五圓同鈴木八十二ニ對シ金五圓ヲ執レモ選舉運動ノ報酬トシテ自己ノ手ヲ經テ供與セシメ以テ之カ周旋ヲ爲シ一面選舉運動ヲ爲シタルモノナリ

證據ニ付按スルニ

第一事實(省略)

第二ノ事實ハ被告人カ當公廷ニ於テ本年(昭和八年)六月一日施行ノ山形市會議員選舉ノ際菅野豐二郎カ立候補シマシタカ私ハ菅野ヲ當選サセタイト思ツテ援助シマシタ加藤初三郎等判示五人ノ者ニ金ヲ遣ツタ次ノ通リテス加藤初三郎ヤ後藤七郎等カ私ノ病中ノ處ヘ來テ菅野ノ運動ヲ遣ツテ居テ其

ノ日ノ暮シニ困リ明日食フ米モ無イト言フコトヲシタ私ハ夫レヲ聞キ人ニ運動ヲ頼ミナカラ生活ノ保障ヲ與ヘナイト云フコトハ宜シクナイ然シ其ノ事ヲ加藤ヤ後藤等カ菅野ニ直接ニハ云ヒ憎イコトデアルト思ツタカラ私ハ病氣ヲ押シテ車ヲ菅野方ニ行キ菅野ト會ツテ話ヲシタ處菅野ハ五十圓出シマシタカラ私ハ夫レヲ受取り菅野ノ妻ノ指定ニ依ツテ須貝友次郎ニ十圓加藤初三郎ニ五圓枝松重吉ニ十圓後藤七郎ニ五圓鈴木八十二ニ五圓分ケテ遣リマシタソレハ五月十八日ノ事テ私ハ選舉運動資格ハナク須貝等五人ノ者ハ須貝カ選舉運動委員テアルコトハ其ノ頃カラ知ツテ居リマシタ其ノ外ノ者ノ事ハ知りマセヌ尙加藤ハ菅野ノ店員テスカ其ノ外ノ四人ハ選舉ニ付集ツテ來タモノナル旨ノ供述ヲ爲シ菅野シヅニ對スル司法警察官ノ聽取書ニ同人ノ供述トシテ

私ハ菅野豊二郎ノ妻テアリマス私ノ家ト萩原五郎トハ平素懇意ニシテ居ル間柄ナノテ主人ノ立候補シタ際モ毎日ノ様ニ私方ニ來テ選舉運動ノ世話シテ吳レテ居タノテ日月ハハツキリシマセンカ九月十八日頃(昭和八年)ノ夜ト思ヒマス選舉ノ爲ニ二階ノ事務所ニ七八人ノ人達カ來テ居リマシタ萩原モ夕方カラ來テ居リマシタカ私ハ階下ノ茶ノ間ニ居ル處ニ萩原カ二階カラ降りテ來テ二階ニ居ル人達ノ事ニ付テ「アマリ景氣カ悪イ様タカラ來テ居ル人達ニ少シ金ヲヤツタライイテハナイカ」ト云フノテ私モ考ヘテ見レハヤラナケレハナラヌト思ヒ傍ニ居ツタ主人ニ其ノ事ヲ聞キ許ヲ得テ其ノ場テ主人ノ金五十圓ヲ渡シタノテアリマスソシテ萩原ハ二階ニ來テ居ル七八人ヲ階下ノ應接間ニ連レテ來テ私ノ

立會ヲ求メテ分配シタル旨ノ記載アルニヨリ之ヲ認ムルコトヲ得

仍テ判示事實ハ其ノ證明十分ナリ

法律ニ照ラスニ

被告人萩原五郎ノ判示第二ノ所爲中金錢供與周旋ノ點ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第五號ニ無資格運動ノ點ハ市制第三十九條ノ三衆議院議員選舉法第九十六條市制第四十條衆議院議員選舉法第二百二十九條ニ該當スルトコロ右金錢供與周旋ト無資格選舉運動ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルニヨリ刑法第五十四條第一項前段第十條ニヨリ重キ金錢供與周旋ノ刑ニ從ヒテ懲役刑ヲ選擇シ尙同被告人ノ右各所爲ハ併合罪ノ關係アルヲ以テ同法第四十五條第四十七條第十條ニヨリ重キ常習賭博ノ刑ニ付法定ノ加重ヲ爲シ其ノ刑期範圍内ニ於テ主文ノ如ク量刑處斷スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告五郎辯護人伊田清 大谷彰 一岸野順 一佐藤治三郎上告趣意書第五點ハ原判決ハ被告人萩原五郎カ金錢ノ交付ヲ爲シタル點ニ付「選舉運動者須貝友治郎等ニ運動報酬トシテ金錢ヲ供與スヘク交渉シ即日同所ニ於テ同候補者ヲシテ選舉運動者須貝友次郎ニ對シ金十圓同加藤初三郎ニ對シ金五圓同枝

松重吉ニ對シ金十圓同後藤七郎ニ對シ金五圓ヲ同鈴木八十二ニ對シ金五圓ヲ執レモ選舉運動ノ報酬トシテ自己ノ手ヲ經テ供與セシメ以テ之カ周旋ヲ爲シ以テ一面選舉運動ヲ爲シタルモノナリト判示シタリ然レトモ候補者ヲシテ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ金錢ノ供與ノ周旋ヲ爲シタレハトテ之ヲ以テ直ニ選舉運動ヲ爲シタリト謂フヘキニアラサルハ法カ選舉ニ關スル運動ト周旋又ハ勸誘ヲ爲シタルトノ區別ヲ爲シタルトコロニヨリ明ニシテ單ニ被告人萩原五郎カ周旋ヲ爲シタリトノ事實及證據ニ基キテハ例ヘ選舉無資格者ナリト雖別段ニ選舉運動ヲ爲シタルコトノ認ムヘキ證據ナキ限選舉運動者トシテ罰スヘキニアラス本件ニ於テ此ノ點ニ付何等ノ證據ナキニ拘ラス之カ一面選舉運動ヲ爲シタルモノナリトノ事實ヲ認定シタル原判決ハ明ニ事實ヲ誤認シタルモノニシテ且證據ニ基カスシテ不當ニ事實ヲ認定シ法則ヲ不當ニ適用シタル違法アルカ理由ヲ附セサル違法アルモノニシテ破毀セラルヘキモノトスト云フニアレトモ

市會議員ノ選舉ニ付準用セラルル衆議院議員選舉法第九十六條ニ所謂選舉運動トハ一定ノ議員選舉ニ付一定ノ議員候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付直接又ハ間接ニ必要且有利ナル周旋勸誘若ハ誘導其ノ他諸般ノ行爲ヲ爲スコトヲ汎稱シ直接ニ投票ヲ得シムル目的ヲ以テ周旋勸誘等ヲ爲ス行爲ニ限局セサルモノト解スヘキコト當院ノ判例(昭和二年(九)第一四八九號 同三年一月二十四日判決)トスル所ナリ原判決ノ判示事實ハ用語簡ニ失スル憾アレトモ其ノ引用證據ヲ參照スルトキハ被告人五郎ハ昭和八年六月一日施

【要旨】

行ノ山形市會議員選舉ニ立候補セル菅野豊二郎ノ法定選舉運動者ニ非サルニ拘ラス同候補者ニ當選ヲ得シムルニハ判示運動者須員友次郎外四名ヲシテ家計ヲ顧慮スルコトナク専心運動ニ從事セシムルコト緊要ナリト思惟シ同候補者ニ對シ右運動員等ニ其ノ報酬トシテ金錢ヲ給與スヘキ旨交渉シ同候補者ヲシテ被告人ノ手ヲ經テ判示ノ如ク運動報酬トシテ金員ヲ給與セシメタル趣旨ナリト然レハ被告人ノ行爲ハ該候補者ヲ當選セシムヘク投票ヲ得若ハ得シムルニ付間接ニ必要且有利ナルモノナレハ選舉運動ノ範圍ニ屬スルモノト謂フヘク從テ一面所謂金錢給與周旋罪ヲ構成シ他面所謂無資格選舉運動罪ヲ構成スルモノトス而シテ原判旨事實ハ其ノ引用證據ニ依リ之ヲ認ムルヲ得ヘク記錄ニ徵スルモ該判旨事實ニ付テハ重大ナル誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルコトナシ要スルニ原判決ニハ所論ノ如キ諸種ノ違法アルモノト謂フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○放火被告事件(昭和八年(九)第一九四七號
同九年三月十日第三刑事部判決) 破毀差戻

二五四 (二六)

【上告人】 被告人 橋田善春 辯護人 (稻本錠之助
三輪長生)

【第一審】 甲府地方裁判所

○判示事項

公判準備手續ニ於ケル檢證ト裁判長ノ説示

○判決要旨

陪審事件ノ裁判長カ所謂第一次辯論ノ終結後陪審法第七十七條ニ
基キ證據ノ要領ヲ説示スルニ當リ公判準備トシテ爲シタル檢證ノ
結果ヲ説示セントセハ先ツ其ノ檢證ノ調書ヲ公判廷ニ顯出セシメ
被告人ニ對シ讀聞其ノ他ノ方法ニ依リ適法ニ證據調ヲ爲ササルヘ
カラサルモノトス

【參照】 陪審法第七十六條 證據調終リタル後檢事、被告人及辯護人ハ犯罪ノ構成要素
ニ關スル事實上及法律上ノ問題ノミニ付意見ヲ陳述スヘシ
辯護人數人アル場合ニ於テ被告人ノ爲ニスル意見ノ陳述ハ重複シテ之ヲ爲スコト
得ス

公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス

被告人又ハ辯護人ニハ最終ニ陳述スル機會ヲ與フヘシ

同法第七十七條 前條ノ辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ
論點及問題ト爲ルヘキ事實並證據ノ要領ヲ説示シ犯罪構成事實ノ有無ヲ問ヒ評議
ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スヘシ但シ證據ノ信否及罪責ノ有無ニ關シ意見ヲ表示
スルコトヲ得ス

同法第一百四條第五號 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス

五 裁判長ノ説示法律ニ違反シタルトキ

○事實

原審ハ左記ノ如ク陪審ノ答申ヲ採擇シテ事實ノ判斷ヲ爲シタル上法律ヲ適用シテ被告人橋田善春ヲ懲
役六年ニ處シ未決勾留日數中六十日ヲ本刑ニ算入シ押收ニ係ル藁製ハ之ヲ沒收シ訴訟費用中陪審費
用ヲ除キタルモノノ内豫審ニ於テ生シタルモノ(證人小宮山源一 小林せん 遠藤義雄 知見寺久義 志
村雄太郎ニ給與シタル旅費日當)ハ被告人橋田善春 幡野道三兩名ノ連帶負擔トシ公判ニ於テ生シタ
ルモノ(證人志村雄太郎ニ給與シタル旅費日當)ハ被告人善春ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人橋田善春ハ昭和六年三月頃甲府市伊勢町二千七百十二番地所在ノ家屋ヲ山梨縣中巨摩郡玉幡村
新海恒男ヨリ賃借シ爾來之ニ居住シテ魚商ヲ營ミ藥劑師藤崎四郎モ亦右恒男ヨリ被告人善春ノ住家ニ
隣接セル家屋ヲ賃借シテ之ニ居住シタリシカ被告人善春ハ右住家内ニ存在スル自己所有ノ動産ヲ目的

公判準備手續ニ於ケル檢證ト裁判長ノ説示

二五五 (二六)

トシテ日本動産火災保險株式會社トノ間ニ保險金額二口合計三千圓ノ火災保險契約ヲ締結スルヤ其ノ保險金額カ遙カニ保險ノ目的ノ價額ニ超過セルニ乘シ右住家ヲ燒燬シテ右動産ヲ燒失セシメ以テ其ノ保險金ヲ獲得センコトヲ企テ昭和七年十二月十五、六日頃甲府市舞鶴公園内ナル機山館跡附近ノ石垣ノ傍ニ於テ當時知合トナリ居タル被告人幡野道三ニ對シ其ノ事情ヲ告ケテ放火ノ實行ヲ依頼シ放火ノ結果保險金ヲ獲得シタルトキハ其ノ一割ノ金額ヲ報酬トシテ贈與スヘキコトヲ申出テ被告人道三八其ノ依頼ヲ應諾シテ茲ニ被告人兩名ハ共謀ノ上右ノ目的ヲ遂行スル爲被告人道三八同月二十二日午前一時頃右藤崎四郎方ノ裏手ニ赴キ右四郎ト被告人善春トカ各其ノ住居ニ使用セル前記家屋ノ裏手ノ境界ヲ成セル板塀ノ東端ニシテ右四郎方ノ臺所及ヒ被告人善春方ノ臺所ニ近接セル部分ニ近ク被告人善春所有ノ藁製吹(昭和七年押第一一六號ノ一)ヲ置キ其ノ上ニ右四郎方ノ裏手ニアリタル炭ノ空俵ヲ載セテ右板塀ニ立掛ケ棒狀ニナシタル半紙ノ尖端ニ所持ノ燐寸ヲ以テ點火シ之ヲ右炭ノ空俵ニ燃移ラシメ因テ右板塀ノ内幅二尺餘高サ五尺餘ノ部分及右四郎ノ住家ノ一部ナル臺所ノ貫幅約四寸ヲ燒燬シタルモ他人ノ發見スル所トナリ大事ニ至ラスシテ消止メラレタルモノナリトス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第八條第六十條ニ該當スルヲ以テ其ノ有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ刑ノ範圍内ニ於テ被告人橋田善春ヲ懲役六年ニ處ス可ク同法第二十一條ニヨリ同被告人ニ對シテハ未決勾留日數ノ内六十日ヲ其ノ本刑ニ算入スヘキモノトシ押收物件中主文掲記ノ藁製吹ハ判示犯行ニ

供シタルモノニテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ則リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用中陪審費用ヲ除キタル部分ノ内豫審ニ於テ生シタルモノハ刑事訴訟法第二百三十八條ニヨリ被告人兩名ヲシテ連帶シテ之ヲ負擔セシムヘク公判ニ於テ生シタルモノハ同法第二百三十七條第一項ニヨリ被告人善春ヲシテ之ヲ負擔セシムヘキモノトス

原審公判調書ニ依レハ公判準備ニ於ケル檢證調書ニ付證據調ヲ爲シタル事迹ナキニ拘ハラス原審陪審事件ノ裁判長ハ該檢證ノ結果ニ付說示シタリ

○主 文

原判決中被告人善春ニ關スル部分ヲ破毀ス
事件ヲ甲府地方裁判所ニ差戻ス

○理 由

辯護人稻本錠之助三輪長生上告趣意書第一點原審公判調書ヲ閱スルニ「裁判長說示ノ部ニ「其ノ放火ノ場所ナル藤崎方ノ裏口ヘハ橋田方ヨリ南ヘ一軒置イテ隣リノ煙草屋深澤源之甫方ノ横ノ路カラ廻レハ行クコトカ出來ルトノコトハ被告人幡野ハ被告人橋田カラ聞イテ始メテ知ツタノテアルト申シテ居ルノテアリマシテ此點ニ付テハ豫審判事ノ檢證調書ニ於キマシテモ當裁判所カ實地ニ臨ミテ檢證シタ所ニ依リマシテモ餘程其ノ附近ノ事情ヲ知ルモノテナケレハ深澤方ノ南側ノ路カラ藤崎方ノ裏口ヘ廻

ツテ行クコトカ出来ナイ状態ニナツテ居リマス(記録七六六丁)ト記載シアリテ裁判長ハ原審公判準備手續ニ於ケル檢證調書ヲ本件ノ證據トシテ說示シ陪審ノ判斷ノ資料ニ供シタリ然ルニ原審公判調書ヲ閱スルニ右原審公判準備手續ニ於ケル檢證調書ハ陪審法廷ニ顯出シ之ヲ被告人ニ讀聞ケ其ノ意見反證ヲ求メタル事迹ノ窺知スヘキモノアルコトナク結局原審ニ於テハ適法ニ證據調ヲ爲ササル證據ヲ陪審判斷ノ資料ニ供シタル違法アルモノニシテ探證ノ法則ニ違背シ原判決ハ此點ニ於テ到底破毀ヲ免レサルモノト信ス(昭和六年(れ)第一〇四九號同年十一月二日第一刑事部判決參照)ト云フニ在リ

【要旨】

按スルニ陪審公判ノ裁判長カ所謂第一次辯論ノ終結後陪審法第七十七條ニ基キ陪審ニ對シ證據ノ要領ヲ說示スルニ當リ公判準備トシテ爲シタル檢證ノ結果ヲ說示セントセハ先ツ公判準備手續ニ於テ作成シタル檢證調書ヲ一ノ書證トシテ第一次辯論終結前之ヲ公判廷ニ顯出セシメ被告人ニ對シ讀聞ケ等ノ方法ニ依リ適法ニ證據調ヲ爲ササルヘカラサルモノトス蓋シ陪審事件ニ在リテハ第一次辯論終結後裁判長ハ陪審ニ對シ犯罪ノ構成ニ關シ法律上ノ論點及問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ要領ヲ說示シ犯罪事實構成ノ有無ヲ問ヒ評議ノ結果ヲ答申スヘキ旨ヲ命スルモノニシテ陪審員ハ其ノ說示ニ基キ問題ト爲ルヘキ事實竝證據ノ關係ヲ理解シ犯罪構成事實ノ有無ヲ評決答申スルモノナルカ故ニ陪審員ノ列席セサル公判準備手續ニ於テ爲シタル檢證ノ結果ノ如キハ公判廷ニ於テ適法ニ其ノ證據調ノ手續ヲ爲ササル限り陪審員其ノ證據ノ内容ヲ知ルニ由ナク從テ斯ノ如キ證據カ裁判長ノ說示中ニ包含スルトキハ公

判廷ニ現ハレサル證據ニ基キ陪審ノ評決ヲ見ルニ至ルヘク陪審法カ其ノ第七十六條第三項ニ於テ公判廷ニ現ハレサル證據ハ之ヲ採用スルコトヲ得スト規定シタル法ノ精神ニ反スルニ至ルヘケレハナリ仍テ進ンテ原審公判調書ヲ精査スルニ原審公判ニ於テハ所論公判準備手續ニ於ケル檢證調書ニ付テハ第一次辯論終結前之ヲ公判廷ニ顯出シ適法ニ證據調ヲ爲シタル事迹ノ見ルヘキモノナキニ不拘裁判長說示ノ部ニハ原審裁判長ハ論旨ニ指摘セルカ如ク檢證ノ結果ヲ說示シ在リテ然カモ該說示ノ有無ハ陪審員ニ於テ本件係爭事實ノ判斷ニ影響ヲ及ボスヘキコト勿論ナレハ斯ノ如キ裁判長ノ說示ハ陪審法ノ精神ニ反シ同法第四百條第五號ニ所謂裁判長ノ說示法律ニ違反シタルトキトアルニ該當スルモノト云フヘク本論旨ハ其ノ理由アリ原判決ハ同法第四百條第五號刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ破毀ヲ免カレス然レハ爾餘ノ上告論旨ニ對シテハ一々其ノ說明ヲ省キ陪審法第一百五條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 樫田忠美 關與

○醫師法違反賣藥法違反被告事件 (昭和八年(九)第二〇一四號 棄却)

二六〇 (一四)

【上告人】 被告人 田井中貞治郎

【第一審】 京都區裁判所 【第二審】 京都地方裁判所

○判示事項

無免許賣藥營業

○判決要旨

疾病治療ノ效能アリトシ一般公衆ノ需用ニ應スル爲鐵粉及食鹽ヲ混合シタル藥劑ヲ調製シ之ニ效能書ヲ添ヘ免許ヲ受ケス業トシテ之ヲ發賣シタルトキハ賣藥法第二條第一項ノ違反罪ヲ構成スルモノトス

【參照】 賣藥法第二條第一項 賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量並效能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
同法第十五條 第二條第一項第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シルタ者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記事實ノ認定及法條ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金三十圓ニ處ス此ノ罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス押收ノ證第二號聽診器一個ハ之ヲ沒收ストノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ肩書居宅ニ於テ胃腸病、婦人病、神經痛等ノ諸疾病治療ノ效能アリトシ一般公衆ノ需要ニ應スル爲鐵粉ヲ八、食鹽ヲ二ノ割合ニテ混合シ之ヲ布製ノ袋ニ入レテ水ヲ加ヘ酸化作用ニ因リ熱ヲ發生セシメ之ヲ各患部ニ當テ以テ右治病ノ效驗アラシムヘキ藥劑(證第五號ニ等シキモノ)ヲ調製シいなリ溫灸劑ナル名稱ヲ附シ之ヲ小包六個宛ボール箱ニ入レ夫々之ニ上敍效能用法等ヲ印刷記載シタル效能書ヲ添ヘ之ヲ所持シ居リタル者ナルトコロ醫師及賣藥發賣ノ免許ヲ受ケサルニ拘ラス反覆繼續ノ意思ヲ以テ昭和八年五月十五日頃ヨリ同月二十四日頃迄ノ間京都府北桑田郡弓削村上殿保次郎方外十數個所ニ於テ保次郎ノ妻ハツ外十數名ノ患者ニ對シ自己所有ノ聽診器(證第二號)ニ依ル聽診又ハ觸診ヲ試ミハツ等ノ疾病ヲ判斷シ且之ヲ治療スル爲右保次郎外十數名ヲシテ前示溫灸劑ヲ買取ラシメ以テ醫業ヲ爲シ且賣藥ヲ發賣シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル點ハ醫師法第十一條第一項ニ免許ヲ受ケスシテ賣藥ヲ發賣シタル點ハ賣藥法第二條第一項第十五條ニ該當スル處以上ハ一個ノ行爲ニシテ二個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ重キ醫師法違反罪ノ刑ニ從ヒ

所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金三十圓ニ處シ之ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條第一項第四項ニ依リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置シ押收ニ係ル聽診器一個(證第二號)ハ判示醫師法違反行爲ニ供セラレタルモノニシテ被告人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人上告趣意書ハ被告人ニ對スル賣藥法並醫師法違反被告事件ニ付昭和八年十一月二十一日京都地方裁判所ニ於テ言渡サレタル第二審有罪判決(罰金三十圓)ハ賣藥法違反ト爲ラサル認定事實ヲ賣藥法第二條第一項第十五條ニ間擬シタル點違法ナリト思料シ茲ニ上告申立仕候也原審ハ被告カ鐵粉ト食鹽トヲ混合賣却シタル事實ヲ認定シ之ヲ賣藥法第二條第一項ニ間擬セリト雖右物件カ同條ニ所謂賣藥ニ該當セサルコト現行賣藥部外品取締規則並ニ賣藥並ニ藥品ヲ配合シタル物品ニシテ賣藥ニ屬セサルモノノ收去ニ關スル件ノ各規定ニ徵シ洵ニ明瞭ナルヲ以テ原判決ハ此點ニ於テ理由齟齬ノ違法アルモノト思料ス備考判示ノ混合物ハ久シキ以前ヨリ改良懷爐文化保溫料等ノ名稱ヲ附シテ全國各地ニ發賣セラレ被告ノ製品ノ如キハ商工會議所ノ勸誘ニ依リ滿洲見本市場ニ出品シ多大ノ稱讚ヲ博シタルモノ

孰レモ賣藥ノ取扱ヲ受ケサリシモノナリト云フニ在レトモ

【要旨】

賣藥法ニ所謂賣藥トハ世人ノ需要ニ應スルカ爲ニ疾病ノ治療ニ效驗アリトシ其ノ可能性ヲ有スル或ル藥品ヲ以テ調製發賣スル藥劑ヲ指スモノトス原審ノ認定シタル事實ニ依レハ被告人ハ賣藥發賣ノ免許ヲ受ケスシテ胃腸病、婦人病、神經痛等ノ諸疾病治療ノ效能アリトシ一般公衆ノ需要ニ應スル爲鐵粉ヲ八、食鹽ヲ二ノ割合ニテ混合シ之ヲ布製ノ袋ニ入レテ水ヲ加ヘ酸化作用ニ因リ熱ヲ發生セシメ之ヲ各患部ニ當テ以テ右治病ノ效驗アラシムヘキ藥劑ヲ調製シいなり溫灸劑ナル名稱ヲ附シ之ヲ小包六個宛ボール箱ニ入レ夫々之ニ上敍效能用法等ヲ印刷記載シタル效能書ヲ添ヘ發賣シタルモノナリト云フニアルヲ以テ賣藥法違反罪ヲ以テ間擬シタル原判決ハ相當ニシテ論旨ハ理由ナシ

更ニ職權ヲ以テ原判決ノ醫師法違反ノ擬律ニ付案スルニ本件ハ犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルモノナルヲ以テ刑法第六條第八條ニ依リ其ノ輕キモノヲ適用スヘキモノトス仍ツテ舊法ニ依レハ明治三十九年法律第四十七號醫師法第十一條ニ該當シ新法ニ依レハ昭和八年十一月一日施行醫師法中改正第十一條第一項ニ該當シ舊法ノ刑輕キヲ以テ之ニ從フヘキモノトス然ルニ原判決ハ新舊法ノ比照ヲ爲ササリシ缺點アリト雖結局舊法ヲ適用シアルヲ以テ此ノ違法ハ未タ以テ原判決破毀ノ理由トナラサルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

○村會議員選舉罰則違反被告事件

(昭和八年(九)第一五〇四號 事實審理)
同九年三月十三日第四刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 森田卯之丞 辯護人 山口貞昌

【第一審】 奈良區裁判所 【第二審】 奈良地方裁判所

○判示事項

連續犯ノ公訴事實ニ付有罪及無罪ノ判決アリタル場合ト上訴裁判所ノ審判

○判決要旨

連續罪ノ公訴ニ付裁判ヲ爲スニ當リ公訴事實ノ一部ニ對シ無罪ノ判決他ノ部分ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルトキ無罪ノ判決ニ對シ上訴ナク有罪ノ判決ニ付上訴アリタル場合ニハ上訴裁判所ハ有罪判決主文ニ關スル公訴事實ニ付審判ヲ爲スヘキモノトス

【參照】 刑事訴訟法第三百八十條 上訴ハ裁判ノ一部ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得其ノ

連續犯ノ公訴事實ニ付有罪及無罪ノ判決アリタル場合ト上訴裁判所ノ審判

部分ヲ限ラサルトキハ裁判ノ全部ニ對シテ爲シタルモノトス
刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシ
テ之ヲ處斷ス

○事實

本件公訴事實

被告人森田卯之泰ハ昭和八年五月十五日施行セラレタル奈良縣磯城郡平野村會議員選舉ニ際シ之
カ選舉人ナルトコロ同議員候補者森田善五郎ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

(イ) 森田候補者カ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ被告人ニ對シ選舉運動ヲ依頼シ同年同月一日頃被告人
居宅ニ於テ金十五圓同月七日頃同居宅ニ於テ金五十圓同月十一日頃同村右善五郎方ニ於テ金二十
五圓ヲ執レモ選舉運動報酬他ノ選舉運動員ニ對スル運動報酬並投票買收費トシテ供與シタルニ其
ノ情ヲ知リテ之ヲ受ケ

(ロ) 同村選舉人藤井貞治ニ對シ同年同月一日頃及同月十一日頃ノ二回ニ互リ自宅ニ於テ前記森田
候補者ノ爲選舉運動方依頼ヲ爲シ選舉運動ノ報酬並投票買收費トシテ合計金二十五圓ヲ供與シ

(ハ) 同年同月十二日頃自宅ニ於テ自己ノ實兄ナル森田辰治郎ニ對シ前記森田候補者ノ爲選舉運動
方依頼ヲ爲シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十圓ノ供與ヲ爲シ

(ニ) 同年同月十一日頃前記森田候補者宅ニ於テ同村選舉人ナル竹島重藏ト同村選舉人ナル竹島音

吉及北浦丑松ノ投票ヲ各二圓ニテ買收センコトヲ謀議シ翌十二日重藏ヲ通シテ前記竹島音吉北
浦丑松方ニ於テ同人等ニ森田候補者ノ爲投票方依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ

(ホ) 前同日同所ニ於テ同村選舉人ナル竹島卯吉ト同村選舉人濱川直文 川端芳松兩名ノ投票ヲ買
收センコトヲ謀議シ翌十二日卯吉ヲ通シテ前記濱川直文 川端芳松方ニ於テ同人等ニ對シ前記森
田候補者ニ投票方依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ

(ヘ) 前同日自宅附近ノ田ニ於テ選舉人ナル竹島石松ニ對シ前記森田候補者ノ爲投票並選舉運動方
依頼ヲ爲シ投票並選舉運動ノ報酬トシテ金五圓ヲ供與シ

(ト) 同年同月十二日及翌十三日ノ二回ニ互リ前記森田善五郎宅ニ於テ同村選舉人竹島松藏ト選舉
人ナル福岡光仲 服部榮太郎兩名ノ投票ヲ買收センコトヲ謀議シ松藏ヲ通シテ同月十三日服部榮
太郎ニ對シ森田候補者ニ投票方依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金三圓ヲ提供シ翌十四日福岡光仲方ニ
於テ同人ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ全三圓ヲ供與シ

(チ) 同年同月十三日自宅ニ於テ同村選舉人梅田文五郎ニ對シ森田候補者ノ爲選舉運動方依頼ヲ爲
シ其ノ報酬並ニ投票買收費トシテ金六圓ヲ供與シ

(リ) 同年同月十三日ヨリ同月十五日迄ノ間自宅ニ於テ三回ニ互リ同村選舉人中川龜吉ニ對シ森田
候補者ノ爲投票方及選舉運動方依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ合計金七圓ノ供與ヲ爲シ

連續犯ノ公訴事實ニ付有罪及無罪ノ判決アリタル場合ト上訴裁判所ノ審判

(又) 同年同月十日頃ヨリ同月十三日頃迄ノ間居村内ニ於テ同村選舉人ナル中川鹿藏 北浦貞次郎 濱川音吉 松原樽吉 松原吉松 森田直次郎 中川梅吉 齋藤幸太郎等ニ對シ前記森田候補者ニ投票方依頼ヲ爲シ其ノ投票報酬トシテ前記齋藤幸太郎ニ對シ金三圓其ノ他ノ各選舉人ニ對シ各金二圓ヲ供與シ

タルモノナリ

第一審ハ左記ノ事實ヲ認定シ被告人卯之恣ヲ禁錮二月ニ處シ金八圓ヲ追徴ス同被告人カ判示議員候補者森田善五郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉人中川龜吉ニ對シ右候補者ノ爲投票及選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ二回ニ金四圓ヲ供與シタル旨ノ公訴ニ付テハ犯罪ノ證明ナキヲ以テ無罪トストノ判決ヲ言渡シタリ

被告人卯之恣ハ昭和八年五月十五日施行セラレタル奈良縣磯城郡平野村村會議員選舉ニ際シ之カ選舉人ナルトコロ同議員候補者森田善五郎ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

- 一 森田候補者カ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ被告人ニ對シ選舉運動ヲ依頼シ同年同月一日頃被告人肩書居宅ニ於テ金十五圓同月七日頃同居宅ニ於テ金五十圓同月十一日頃同村右善五郎方ニ於テ金二十五圓ヲ執レモ選舉運動ノ報酬他ノ選舉運動員ニ對スル運動報酬並投票買收費トシテ供與シタルニ其ノ情ヲ知リテ之ヲ受ケ

二 同月一日頃及同月十一日頃ノ二回ニ被告人卯之恣肩書居宅ニ於テ平野村選舉人藤井貞治ニ對シ前記候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ之カ報酬並投票買收費トシテ金二十五圓ヲ供與シ

三 同月十二日頃右被告人卯之恣居宅ニ於テ實兄森田辰治郎ニ對シ右候補者ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十圓ヲ供與シ

四 選舉人竹島重藏ト共謀ノ上同月十二日平野村大字藥王寺ナル選舉人竹島音吉 北浦丑松居宅ニ於テ夫々同人等ニ對シ右候補者ニ投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ

五 選舉人竹島卯吉ト共謀ノ上同日同大字ナル選舉人濱川直文 川端芳松居宅ニ於テ夫々同人等ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ

六 同日被告人卯之恣方附近ノ田ニ於テ選舉人竹島石松ニ對シ右候補者ノ爲投票並選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金五圓ヲ供與シ

七 選舉人竹島松藏ト共謀ノ上同月十三日同村大字西竹田選舉人服部榮太郎方ニ於テ同人ニ對シ翌十四日同村大字藥王寺選舉人福岡光仲方ニ於テ同人ニ對シ執レモ右候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ榮太郎ニ金三圓ヲ提供シテ供與ノ申込ヲ爲シ光仲ニ金三圓ヲ供與シ

八 同月十五日被告人卯之恣居宅ニ於テ選舉人中川龜吉ニ對シ右候補者ノ爲投票及選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金三圓ヲ供與シ

九 同月十日頃ヨリ同月十三日頃迄ノ間選舉人中川鹿藏 北浦貞治郎 松浦樽吉 松原吉松 森田直治郎 中川梅吉 齋藤幸太郎ニ對シ右候補者ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ平野村ナル同人等ノ居室ニ於テ齋藤幸太郎ニ金三圓其ノ他右選舉人ニ各金二圓ヲ供與シ

十 同月十二日平野村大字藥王寺ナル選舉人濱川音吉方ニ於テ同人ニ對シ同人ノ妻ヲ介シ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金二圓ノ供與ヲ爲シタルモノナリ

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人卯之恣ヲ禁錮二月ニ處シ金八圓ヲ追徴スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人善五郎ハ昭和八年五月十五日施行セラレタル磯城郡平野村村會議員選舉ニ際シ議員候補者トナリ被告人卯之恣ハ同選舉ノ選舉人ナルトコロ

第一 被告人善五郎ハ自己ノ當選ヲ得ル目的ヲ以テ被告人卯之恣ニ對シ(一)昭和八年五月一日頃金十五圓(二)同月十一日頃金二十五圓ヲ各自宅ニ於テ(三)同月七日頃金五十圓ヲ被告人卯之恣居室ニ於テ孰レモ同人ニ對スル選舉運動ノ報酬他ノ選舉運動員ニ對スル運動報酬並投票買收費トシテ供與シ

第二 被告人卯之恣ハ被告人善五郎ノ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

一 前掲第一事實記載ノ如ク被告人善五郎ヨリ同人カ前記ノ趣旨ノ下ニ供與スルモノタルノ情ヲ知

リナカラ前後三回ニ互リ合計金九十圓ノ供與ヲ受ケ

二 同月一日頃及同月十一日頃ノ二回ニ互リ自宅ニ於テ選舉人タル藤井貞治ニ對シ被告人善五郎ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金二十五圓ヲ供與シ

三 同月十二日頃自宅ニ於テ選舉人ナル實見森田辰次郎ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ前同趣旨ニテ金十圓ヲ供與シ

四 選舉人竹島重藏ト共謀ノ上同日平野村藥王寺竹島音松及北浦丑松方ニ於テ夫々選舉人ナル同人等ニ對シ善五郎ニ投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ

五 選舉人竹島卯吉ト共謀ノ上同日同大字濱川直文 川端芳松方ニ於テ選舉人ナル同人等ニ對シ夫々前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ竹島卯吉ノ手ヲ經テ各金二圓ヲ供與シ

六 同日被告人卯之恣方附近ニ於テ選舉人ナル竹島石松ニ對シ善五郎ノ爲投票並選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金五圓ヲ供與シ

七 選舉人竹島松藏ト共謀ノ上翌十三日同村大字西竹田服部榮太郎方ニ於テ選舉人ナル同人ニ對シ翌十四日同大字藥王寺福岡光仲方ニ於テ選舉人ナル同人ニ對シ孰レモ右善五郎ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ右松藏ノ手ヲ經テ光仲ニ金三圓ヲ供與シ榮太郎ニ金三圓ヲ提供シテ供與ノ申込ヲ爲シ

八 同月十五日自宅ニ於テ選舉人ナル中川龜吉ニ對シ善五郎ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金三圓ヲ供與シ

九 同月十日頃ヨリ同月十三日頃迄ノ間選舉人ナル中川鹿藏 北浦貞治郎 松原檜吉 松原吉松 森田直治郎 中川梅吉及齋藤幸太郎ニ對シ善五郎ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ平野村ナル同人等ノ各居室ニ於テ齋藤幸太郎ニ金三圓其ノ他ノ選舉人ニ各金二圓ヲ供與シ

十 同月十二日平野村大字藥王寺濱川音吉方ニ於テ同人ノ妻ヲ介シ選舉人ナル同人ニ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金二圓ノ供與ヲ爲シ

タルモノニシテ被告人卯之恣ノ各金錢ノ供與ヲ受ケ及金錢ノ供與ヲ爲シタル所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人卯之恣ノ判示所爲中第二ノ一ノ金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百十二條第四號判示第二ノ二乃至十ノ各金錢ノ供與ヲ爲シ又ハ其ノ申込ヲ爲シタル點ハ各町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ該當シ尙判示第二ノ四、五、七ハ共犯ニ係ルヲ以テ刑法第六十條ヲ適用シ以上ノ各所爲ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ所定刑中禁錮ヲ選擇シ被告人卯之恣ヲ禁錮二月ニ處ス可ク被告人卯之恣ノ收受シタル利益中金八圓ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第一百四條後段第一百十二條第四號ニ則リ之ヲ

追徴スヘキモノトス

尙第一審判決ノ言渡シタル有罪ノ部分ニ對シテハ被告人卯之恣ヨリ控訴ノ申立ヲ爲シタルモ無罪ノ部分ニ對シテハ何人ヨリモ控訴ノ申立ナキモノトス

○主 文

原判決中被告人ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人ヲ禁錮一月ニ處ス

被告人ヨリ金八圓ヲ追徴ス

○理 由

辯護人山口貞昌上告趣意書第四點ノ理由アルコトハ前示本院ノ決定ニ於テ説明スルカ如クナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ依リ原判決ヲ破毀シ同法第四百四十八條ニ基キ被告事件ニ付更ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

仍テ審案スルニ

被告人ハ昭和八年五月十五日施行セラレタル奈良縣磯城郡平野村村會議員選舉ニ際シ之カ選舉人ナルトコロ

第一 被告人ハ同議員候補者森田善五郎ヨリ當選ヲ得ルノ目的ヲ以テ被告人ニ對シ同年同月十一日頃

連續犯ノ公訴事實ニ付有罪及無罪ノ判決アリタル場合ト上訴裁判所ノ審判

同村所在右善五郎居宅ニ於テ金二十五圓同年同月七日頃被告人肩書居宅ニ於テ金五十圓ヲ執レモ選舉運動報酬他ノ選舉運動員ニ對スル運動報酬並投票買收費トシテ供與シタルニ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ受ケ

第二 被告人ハ前記善五郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ

- 一 同年同月十一日頃被告人肩書居宅ニ於テ選舉人タル藤井貞治ニ對シ前記善五郎ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金十圓ヲ供與シ
- 二 同年同月十二日頃被告人ノ前記居宅ニ於テ森田辰治郎ニ對シ前同様ノ依頼ヲ爲シ前同趣旨ノ下ニ金十圓ヲ供與シ
- 三 選舉人竹島重藏ト共謀シ同日前示平野村竹島音吉及北浦丑松方ニ於テ夫々選舉人ナル同人等ニ對シ前記善五郎ニ投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ各金二圓ヲ供與シ
- 四 選舉人竹島卯吉ト共謀シ同日前記平野村濱川直文 川端芳松方ニ於テ選舉人タル同人等ニ對シ夫々前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ竹島卯吉ノ手ヲ經テ各金二圓ヲ供與シ
- 五 同日被告人肩書居宅ノ附近ニ於テ選舉人タル竹島石松ニ對シ前記善五郎ノ爲投票並選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬並投票買收費トシテ金五圓ヲ供與シ
- 六 選舉人竹島松藏ト共謀シ翌十三日同村大字西竹田服部榮太郎方ニ於テ選舉人タル同人ニ對シ翌

十四日同村福岡光仲方ニ於テ選舉人タル同人ニ對シ執レモ前示善五郎ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ右松藏ノ手ヲ經テ光仲ニ金三圓ヲ供與シ榮太郎ニ金三圓ヲ提供シテ供與ノ申込ヲ爲シ

- 七 同年同月十五日被告人肩書居宅ニ於テ選舉人ナル中川龜吉ニ對シ前示善五郎ノ爲選舉運動方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ金三圓ヲ供與シ

- 八 同年同月十日頃ヨリ同年同月十三日頃迄ノ間ニ於テ選舉人の中川鹿藏 北浦貞治郎 松原檜吉 松原吉松 森田直治郎 中川梅吉及齋藤幸太郎ニ對シ前記善五郎ノ爲投票方ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ前掲平野村所在同人等ノ各居宅ニ於テ齋藤幸太郎ニ金三圓其ノ他ノ選舉人ニ各金二圓ヲ供與シ
- 九 同年同月十二日前記平野村濱川音吉方ニ於テ同人ノ妻ヲ介シ選舉人タル音吉ニ前同様ノ依頼ヲ爲シ其ノ報酬トシテ金二圓ヲ供與シ

タルモノニシテ被告人ノ各所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

(證據説明省略)

辯辯人ハ判示第二ノ七ニ掲クル被告人カ中川龜吉ニ對シ選舉運動ノ報酬トシテ金三圓ヲ供與シタル犯罪事實ハ之ト包括一罪ノ關係アリトシテ起訴セラレタル金四圓供與ノ事實ニ付第一審ニ於テ言渡シタル無罪ノ判決確定シタル爲其ノ影響ヲ受ケ處罰スヘキモノニ非スト主張セリ仍テ記録ヲ調査スルニ第一審判決ハ公判請求書ニ掲クル被告人カ判示議員候補者森田善五郎ニ當選ヲ得シムル目的ヲ以テ選舉

人中川龜吉ニ對シ右候補者善五郎ノ爲投票及ヒ選舉運動ヲ依頼シ其ノ報酬トシテ三回ニ金七圓ヲ供與シタル事實中一回ニ金三圓ヲ供與シタル事實ニ付犯罪ノ證明アルモ殘金四圓ヲ供與シタル事實ニテ付ハ犯罪ノ證明ナシト爲シ右證明ナキ部分ニ付無罪ノ言渡ヲ爲シ證明アル部分ニ付有罪ノ判決ヲ爲シタルモノトス而シテ同公判請求書ニ依レハ被告人ノ爲シタル右三回ノ選舉罰則違反行爲ハ連續ノ關係アリトナシ公訴ノ提起アリタルモノト解シ得ヘキヲ以テ第一審裁判所カ級上ノ如ク一回ノ違反行爲ニ付犯罪ノ證明アルモ他ノ二回ノ行爲ニ付テハ犯罪ノ證明ナシト爲シタルトキハ連續一罪ヲ構成スヘキ公訴事實ノ一部ニ付犯罪ノ證明ナキコトナルヲ以テ此ノ部分ニ付特ニ無罪ノ言渡ヲ爲スコトナク他ノ犯罪ノ證明アル部分ニ付テノミ有罪ノ判決ヲ爲スヘキモノトス第一審裁判所ハ事茲ニ出テス有罪判決ヲ爲スト共ニ無罪ノ判決ヲ爲シタルコト前級ノ如クナルモ此ノ無罪判決ノ趣旨トスル所ハ連續一罪ヲ構成スル公訴事實ノ一部ニ付犯罪ノ證明ナキカ故ニ此ノ部分ヲ無罪トナスト云フニ在リテ他ノ犯罪ノ證明アル部分ニ關涉スルトコロナク二個ノ獨立セル裁判並存スルヲ以テ其ノ無罪ノ裁判ニ對シ上訴ナキモ有罪ノ裁判ニ付被告人ヨリ上訴ノ申立ヲ爲シタル以上上訴裁判所ハ右有罪ノ判決主文ニ關スル公訴事實ニ付審判ヲ爲シ犯罪ノ證明アリト認メタルトキハ刑ノ適用ヲ爲スヘキモノトス因テ辯護人ノ右主張ヲ採用セス

法律ニ照スニ被告人ノ判示行爲中第一ノ金錢ノ供與ヲ受ケタル點ハ町村制第三十七條衆議院議員選舉

【要旨】

法第十二條第四號ニ判示第二ノ一乃至九ノ各金錢ノ供與ヲ爲シ又ハ其ノ申込ヲ爲シタル點ハ各町村制第三十七條衆議院議員選舉法第十二條第一號ニ該當シ尙判示第二ノ三、四、六ハ共犯ニ係ルヲ以テ刑法第六十條ヲ適用シ以上ノ各行爲ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ所定刑中禁錮刑ヲ選擇シ被告人ヲ禁錮一月ニ處スヘク被告人ノ收受シタル利益中金八圓ハ沒收スルコト能ハサルヲ以テ町村制第三十七條衆議院議員選舉法第十四條後段第十二條第四號ニ則リ之ヲ追徵スヘキモノトス被告人カ昭和八年五月一日頃村會議員候補者森田善五郎ヨリ選舉運動ノ報酬他ノ選舉運動員ニ對スル運動報酬並選舉人ノ投票買收費トシテ金十五圓ノ供與ヲ受ケタル事實被告人カ同年五月一日頃選舉人藤井貞治ニ對シ右善五郎ノ爲選舉運動方依頼ヲ爲シ選舉運動ノ報酬並投票買收費トシテ金十五圓ヲ供與シタル事實ニ付テハ證明十分ナラサルモ右ハ連續一罪ヲ構成スル公訴事實ノ一部ニ係ルヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

依テ主文ノ如ク判決ス

檢事佐々波與佐次郎關與

○猥褻被告事件(昭和八年(九)第二〇二〇號 棄却)

(同九年三月十三日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 藤田友七 外一名

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

最終ノ事實審ニ於ケル有罪判決言渡後ノ犯行ト起訴

○判決要旨

最終ニ事實ヲ審理シタル裁判所ノ有罪判決言渡後ニ於ケル犯行ハ
縱令判示犯行ト同一ノ罪名ニ觸レ而モ連續ノ意思ニ出テタル場合
ト雖獨立ノ罪ヲ構成シ新ナル起訴ノ目的ト爲ルモノトス

【參照】 刑法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一
罪トシテ之ヲ處斷ス

刑事訴訟法第二百七十八條 公訴ハ檢事之ヲ行フ

○事實

第二審ハ左記ノ事實ヲ認定シ法律ノ適用ヲ爲シ被告人友七ヲ罰金三百圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト
能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間勞役場ニ留置ス押收ニ係ル淫本(檢領第二九三一號ノ
二)及猥褻寫真(同號ノ三)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人友七ハ

- (一) 昭和八年二月初旬頃ヨリ同年四月中旬頃マテノ間數十回ニ互リ大阪市北區樋上町六十番地ノ自
宅ニ於テ鎌田孝一外數名ニ對シ「ファンニール」の思ひ出」ト題スルモノ外數種ノ執レモ男女交接ノ
狀景ヲ敘述シタル淫本約二百三十部ヲ一部金三十錢乃至一圓五十錢ノ代價ニテ又男女交接ノ姿態
ヲ顯出シタル寫真又ハ女子ノ陰部ヲ映出セル寫真約百組ヲ一組金四十錢内外ノ代價ニテ各賣却シ
- (二) 同年四月中旬頃前記自宅ニ於テ前記同様ノ淫本二十餘部並前記同様ノ猥褻寫真約百組ヲ販賣ノ
目的ヲ以テ所持シ

タルモノニシテ右ハ執レモ犯意繼續ニ係ルモノトス
法律ニ照スニ被告人友七ノ行爲ハ刑法第七十五條第五十五條ニ該當スルヲ以テ罰金刑ヲ選擇シ其ノ
金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ主文第一項記載ノ刑ニ處シ刑法第十八條ニ依リ主文第二項記載ノ如ク罰
金ヲ完納スルコト能ハサル場合ノ勞役場留置期間ノ定ヲ爲シ押收ニ係ル檢領第二九三一號ノ二ノ淫本
及同號ノ三ノ猥褻寫真ハ被告人友七ノ各判示猥褻書畫所持ノ行爲ヲ組成シタル物ニシテ犯人以外ノ者

最終ノ事實審ニ於ケル有罪判決言渡後ノ犯行ト起訴

ニ屬セサル物ト認メ刑法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス
判決要旨ノ基本ト爲リタル事實關係ハ判決理由所掲ノ如シ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人友七上告趣意書私カ此度上告致シマシタ理由ヲ左ニ申上ケマス私ハ昭和七年大阪地方裁判所ニ於テ猥褻罪トシテ罰金百五十圓ニ處セラレマシタカ右判決ヲ不服トシテ上告中去ル昭和八年四月十八日當大阪府特高課檢關係ニ猥褻事件ニテ檢舉セラレマシタ就テハ右檢關係ニテハ本件ハ上告中ニ付併合一罪ナルヲ以テ今回ハ處分ヲ免レタカ以後犯行ヲ繰返ヘス勿レト私ノ妻モ同係ニ呼出ヲ受ケ今回ハ幸處分ヲ免レルカ今後ハ妻トシテカカル行爲ヲ爲サシメル勿レト懇篤ナ御諭シヲ受ケマシタ右ノ大審院ノ判決ハ昭和八年四月十八日テ上告ハ棄却トナリマシタ然ルニ右檢關係ノ事件ニテ檢事局ヨリ呼出ヲ受ケ意外ニモ一、二審共罰金三百圓ノ判決ヲ受ケマシタ私ハ全然法律知識ハアリマセンカラ他ノ實例ヲ申上ケル外致シ方カアリマセンカ現ニ當地ノ鎌田秀夫ノ如キハ昭和六年四月中本警察署ニ檢舉サレマシタ事件中同年十二月十五日奈良警察署ニ檢舉サレマシタカ上告中テ一日違ヒノ同月十六日ニ大審院ノ確定ヲ見マシタノテ併合トナリソレニ對シテ何等ノ處分ハアリマセンテシタ又春晝王ト謂ハレ

猥褻罪テ日本一ノ何十犯ヲ重ネテ居ル堀伊八 吉村正義等テサヘ事件中ニ數回トナク檢舉サレテ居マスカ確定前ノ犯行ハ總テ確定迄ニ繰入レテ居マシテ未タ嘗テ未確定中ニ罪トナツタ例ハアリマセン尤モ檢舉サレタノカ昭和八年四月十八日未明(午前五時頃)テ大審院ノ上告棄却日カ同シク四月十八日テ同日テハアリマスカ棄却ノ決定ハ早クトモ午前九時以降ノ筈テアリマスカラホントウノ紙一重ト謂フ例ヘノ通りテアリマスカ事前ハ嚴タル事實カアリマス檢事局ノ檢事様ハ起訴出來ルトイヒ區裁判所ノ判事様ハ併合ハ地方裁判迄ニシテ置ク地方裁判所ノ判事様ハ斯罪ノ事件中ノ件ニ付テハコレ迄ハソソナ扱(事件中大審院ノ終決迄ハ一罪ノ意)ヲシタ場合モアルトノ御仰テアリマシタ中ニモ區裁判所ノ判事様ハ「コレハ一寸疑問カアル良ク研究シテミヨウ」トサヘ御仰テシタコレモ素人考ヘテ一寸理窟メキマスカ斯罪ニテ控訴又ハ上告中犯行ヲ重ネテ居テ起訴サレタ場合ハ訴追トナリ一審テ百圓ノ罰金ナラソレヨリ重クナツテソレカ百五十圓カ二百圓ト云フ風ニナルト云フノナラ當然テアリマスカ區裁判所ノ略式命令ヲ受ケタ場合控訴又ハ上告ヲ取下ケルトスルト前科ノナカツタ者カ一度ニ前科二犯ニナツタリ前科三犯ニナリマスカ右様ナ不合理極マルコトハアリ得ナイト考ヘマス以上ハ素人論テアルカモ知レマセンカ事實事件中誰人モ二罪ニナツタコトカアリマセン故私ノミカ二罪ニハナリ得ナイト思ヒマスノカ今回上告ヲ御願ヒシマシタ最大理由テアリマスカ孰レニ致シマシテモ犯行ヲ重ネマシタコトハ何トモ申譯カアリマセン目下家業ニ専念致シテ居リマス今後ハ決シテ御手数煩ハス様ナコトハ

絶對ニ致シマセン何卒御寛大ナ御取計ノ程ヲ吳々モ御願ヒ申上マスト云フニ在レトモ
 連續罪ニ對スル公訴ニ付テハ裁判所ハ連續一罪ヲ構成スル全部ノ行爲ニ付審判スルノ權限ヲ有スルモ
 其ノ行爲ハ最終ニ事實ノ審理ヲ爲シタル裁判所ノ判決言渡アル迄ノ間ニ發生シタルモノニ限ルモノト
 ス蓋シ判決言渡當時未タ發生セサル行爲ニ付審判ヲ爲スハ不能ニ屬スヘケレハナリ隨テ最終ニ事實ヲ
 審理シタル裁判所ノ判決言渡ヲ限界トシテ連續行爲ヲ前後ニ區分シ右判決言渡以後ニ生シタル行爲ハ
 獨立ノ一罪トシ之ニ對シ新ニ公訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス記録ヲ調査スルニ被告人ハ昭和八年
 一月二十八日大阪地方裁判所ニ於テ猥褻罪ニ依リ處分セラレ之ニ對シ上告ヲ申立テ同年四月十八日確
 定シタルコト明ナルヲ以テ此判決ノ確定力ハ最終ニ事實ノ審理ヲ爲シタル大阪地方裁判所ノ判決言渡
 ノ日即チ昭和八年一月二十八日迄ニ發生シタル連續行爲ニ及フモ同日以後ニ行ハレタル同上行爲ニ及
 ハサルモノトス本件ハ同判決言渡後即チ同年二月初旬ヨリ同年四月中旬頃迄ノ間ニ行ハレタル猥褻罪
 構成ノ事實ニ付公訴ノ提起アリタルモノニ係ルヲ以テ之ヲ處斷シタル原判決ハ正當ナリ尙同判決ニ於
 ケル刑ノ量定ニ付甚シキ不當アリト思料スヘキ顯著ナル事由ヲ記録上發見セス論旨理由ナシ(其ノ他
 ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事松阪廣政關與

○贓物故買古物商取締法違反被告事件 (昭和八年(レ)第二〇四一號 棄却)
(同九年三月十五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 本多 正男 辯護人 小林登志吉
 【第一審】 東京區裁判所 【第二審】 東京地方裁判所

○判示事項

贓物故買ト古物商取締法ノ適用

○判決要旨

古物商カ贓物ヲ故買シ其ノ物品ニ付記帳ヲ爲ササルトキハ刑法第
 二百五十六條第二項及古物商取締法第二十條ノ各罪ヲ構成スルモ
 ノトス

【參照】 刑法第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
 贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金
 ニ處ス
 古物商取締法第十一條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其物品及賣主、讓
 贓物故買ト古物商取締法ノ適用

渡主ヲ帳簿ニ記載シ又買主、讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
同法第二十條 第三條第四條、第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違犯
シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
同法第二十一條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ贓物故買罪ニ付懲役六月及罰金三十圓古
物商取締法違反ニ付罰金二十圓ニ處シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタ
ル期間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ言渡シタリ
被告人ハ古物商ナルトコロ犯意ヲ繼續シテ昭和八年二月二十七日頃東京市荏原區中延四百九十四番地
ナル自宅店舗ニ於テ原審相被告人孫元述外數名ヨリ同人等カ他ヨリ竊取シ來リタルノ情ヲ知り乍ラ送
電用電線七十三貫ヲ代金百五十三圓三十錢ニテ買受ケタル外同年三月二十一日頃ヨリ同年四月二十三
日頃迄ノ間三回ニ互リ前同所外一箇所ニ於テ右孫元述等ヨリ前同様盜品タルノ情ヲ知り乍ラ電線合計
約百餘貫ヲ代金合計金三百九十五圓二十錢ニテ買受ケ以テ贓物ノ故買ヲ爲シ且ツ其ノ都度備付ケ帳簿
ニ右各賣買物品及賣主等成規ノ事項ヲ記載セサリシモノナリ
法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中贓物故買ノ點ハ刑法第二百五十六條第二項第五十五條古物商トシテ

帳簿ニ成規ノ事項ヲ記載セサリシ點ハ古物商取締法第十一條第一項第二十條刑法施行法第十九條第二
條第二十條刑法第五十五條ニ該當スルトコロ古物商取締法第二十一條ニ則リ刑法中併合罪ノ規定ヲ適
用スヘキモノニアラサルヲ以テ右各罪別ニ刑ヲ言渡スヘク各其ノ所定期金額ノ範圍内ニ於テ被告人
ヲ贓物故買ノ點ニ付懲役六月及罰金三十圓古物商取締法違反ノ點ニ付キ罰金二十圓ニ夫々處スヘク尙
刑法第十八條ニ則リ右各罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ
勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人小林登志吉上告趣意書第二點原判決ハ不當ニ法令ヲ適用シタルノ違法アリト信ス古物商取締法
第十一條ハ營業上賣買若ハ交換ト認ムヘキ場合ニ限り帳簿ノ記載ヲ命シタルモノニシテ古物商カ贓物
ノ故買ヲ爲シタル場合ノ如キ自己ノ犯罪ノ發覺ヲ容易ナラシムルカ如キ其ノ難ヲ人ニ責ムルモノニ非
ス然ルニ原判決カ被告カ前掲買入ノ物品ニ付キ記帳ヲ爲ササリシ點ニ關シ古物商取締法第十一條ニ問
擬シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ不當ニ法令ヲ適用シタル瑕瑾アリト思料スト謂フニアレトモ
古物商取締法第十一條ハ一般的ニ古物商カ物品ヲ賣買若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主讓渡主ヲ

【要旨】
 帳簿ニ記載シ買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲモ記載スヘキコトヲ命シ居レルモノニシテ
 贓物ヲ故買シタル場合ニハ之カ記帳ヲ必要トセサル趣旨ニアラサルコト疑ノ存セサル所ナルヲ以テ
 被告人カ判示盜贓品ノ故買ニ付キ該賣買ノ事實ヲ記帳セサリシ事實ニ對シ原審カ古物商取締法第十一
 條第二十條ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ法令ノ適用ヲ誤リタルモノト爲スヲ得ス論旨理由ナシ(其
 ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事 樫田忠美 關與

○強盜傷人竊盜住居侵入被告事件 (昭和八年(九)第二〇六一號 棄却)
(昭和九年三月十五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 白石重夫 辯護人 (稻本鏡之助 後藤重 吳)
 【第一審】 長野地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

事後強盜ノ未遂罪——強盜傷人ノ既遂罪

○判決要旨

- 一 竊盜犯人未タ財物ヲ得サルニ先チ逮捕ヲ免ルル爲暴行脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テハ刑法第二百三十八條ノ強盜未遂ヲ以テ論スヘキモノトス【要旨第一】
- 二 強盜犯人ニシテ其ノ現行中又ハ現行ノ機會延長ノ狀態ニ於テ人ヲ傷シタル以上ハ強盜行爲其ノモノカ既遂タルト未遂タルトヲ問ハス同法第二百四十條前段強盜傷人ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノトス【要旨第二】

【参照】 刑法第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ隠滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス
 同法第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 同法第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

○事實

事後強盜ノ未遂罪 強盜傷人ノ既遂罪

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役七年ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ

第一 昭和八年九月十六日午前零時過頃長野縣下高井郡高丘村大字立ヶ花古田誠一方臺所口ヨリ屋内ニ侵入シ同人所有ノ現金十一圓七十錢在中ノ墓口鎖付銀時計洋服上下二着黒革靴其ノ他衣類等ヲ竊取シ

第二 次テ間モナク同日午前零時三十分頃前同様竊盜ノ目的ヲ以テ附近ノ吉田源一郎方佛間東方廊下口ヨリ屋内ニ侵入シ佛壇ノ襖戸ヲ押開ク等金品物色中同室ニ就寢中ノ高藤泰治ニ發見誰何セラレテ抱付カルルヤ之カ逮捕ヲ免レンカ爲其ノ儘同人ヲ表庭ニ引摺出シ因テ同人ノ左前臍外側部ニ全治一週間ヲ要スル擦過傷一個ヲ負ハシメ折柄急ヲ聞イテ其ノ場ニ駆付ケ泰治ニ加勢シテ被告人ニ組付キ共ニ之ヲ逮捕セントシタル右源一郎ニ對シ逮捕ヲ免レントシテ極力抵抗シ「放サスト七首ヲ拔クソ」ト怒號シテ同人等ヲ脅シ且其ノ際源一郎ノ左上臍外側上部ニ嚙付キ全治十日ヲ要スル咬傷一個ヲ加ヘ

タルモノニシテ以上ノ所爲ハ犯意繼續ニ出テタルモノトス
尙被告人ハ昭和四年五月二十三日浦和地方裁判所ニ於テ竊盜建造物損壞罪ニヨリ懲役三年ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中住居侵入ノ點ハ刑法第五十五條第三百十條ニ竊盜ノ點ハ同法第二百三十五條強盜傷人ノ點ハ同法第二百三十八條第二百四十條前段ニ各該當スルトコロ右竊盜ト強盜傷人ハ連續犯ナルヲ以テ同法第五十五條第十條ニヨリ重キ強盜傷人ノ一罪トスヘク且之ト住居侵入トハ互ニ手段結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第十條ニ則リ重キ強盜傷人ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ其ノ所定刑中有期懲役刑ヲ選擇シ尙被告人ニハ前示前科アルヲ以テ同法第五十六條第一項第五十七條ヲ適用シテ再犯ノ加重ヲ爲シタル上同法第十四條ノ制限範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役七年ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人後藤重吳上告趣意書第四點ハ本件第二事實ハ所謂暴行又ハ脅迫カ竊盜行爲ノ現場ニ於テ行ハレタルモノニ非サル爲所謂事後強盜ヲ以テ論スヘカラサルモノナルコト第三點ニ述フル如シ然レトモ假リニ本事實ヲ以テ事後強盜ナリトスルモ本件ハ準強盜罪ノ既遂ニ非ス即チ被告人ハ昭和八年九月十六日午前零時三十分頃古田源一郎方ニ這入り高藤泰治ノ就寢中ノ室ニ於テ佛壇ノ扉ヲ開キ見タルコトハ事實ナレトモ其ノ際直チニ右高藤泰治ノ爲ニ發見セラレ結局一物ヲモ得ス竊盜行爲ハ未遂ニ終リタル

事後強盜ノ未遂罪 強盜傷人ノ既遂罪

モノナリ即チ被告人ハ何等ノ財物ヲモ奪取若クハ強取ハ勿論竊取スラ爲スニ至ラザリシコト記録上寔ニ明白ナリ(豫審ニ於ケル證人高藤泰治同古田源一郎各訊問調書参照)抑モ事後強盜ノ既遂タルカ爲ニハ其ノ基本犯行タル竊盜カ既遂タルヲ要スルモノナルヲ以テ本件ノ如ク竊盜行爲カ未遂ナルコト明カナル場合ニハ強盜ノ既遂ヲ以テ論スルコトヲ得サルモノトス(初メヨリ強盜ノ意思ヲ以テ侵入シ物品ハ得サルモ人ヲ傷シタリトイフカ如キ場合ト混同スルヲ得ス)從テ此レニ對シ刑法第二百三十八條乃至第二百四十條ヲ以テ律スルニハ更ニ同法第二百四十三條及第四十三條ヲモ參照セサルヘカラサルニ拘ラス原審カ玆ニ出テス漫然強盜傷人ノ既遂ヲ以テ處斷シタルハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキ法規ノ解釋適用ヲ誤リタルモノニシテ原判決ハ破毀セラルヘキモノトスト云フニ在リ

【要旨第一】

按スルニ竊盜犯人未タ財物ヲ得サルニ先チ逮捕ヲ免ルル爲暴行脅迫ヲ爲シタル場合ニ於テハ刑法第二百三十八條ノ強盜未遂ヲ以テ論スヘキモノニシテ其ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノニ非スト雖強盜犯人ニシテ其ノ現行中又ハ現行ノ機會延長ノ狀態ニ於テ人ヲ傷シタル以上ハ強盜行爲其ノモノカ既遂タルト未遂タルトヲ問ハス同法第二百四十條前段強盜傷人ノ既遂ヲ以テ論スヘキモノナルコト夙ニ本院判例ノ趣旨トスル所ナルカ故ニ原審カ被告人ノ原判示事實ヲ強盜傷人ノ既遂罪ト認メ同法第二百三十八條第二百四十條前段ヲ適用處斷シタルハ正當ニシテ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第二】

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事 榎田忠美關與

○代書人規則及司法代書人法違反被告事件

(昭和八年(れ)第二〇七二號 棄却)
同九年三月十六日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 田草川定明 辯護人

竹内喜市郎
三輪秀文
白井彦次
厚芝彦六

【第一審】 甲府區裁判所 【第二審】 甲府地方裁判所

○判示事項

無認可司法代書業ト代書人規則第十七條ノ制裁——司法代書業ト代

書料

○判決要旨

無認可司法代書業ト代書人規則第十七條ノ制裁 司法代書業ト代書料

一所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケスシテ司法代書業ヲ爲シタル者
 ハ代書人規則第十七條ノ制裁ヲ免レサルモノトス【要旨第一】
 二繼續反覆ノ意思ヲ以テ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出
 スヘキ書類ノ作製ニ從事スルニ於テハ代書料ヲ得ル目的ノ有無
 ニ拘ラス司法代書業ヲ爲シタルモノトス【要旨第二】

【參照】司法代書人法第一條 本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁
 判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
 同法第四條 司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
 代書人規則第十七條 本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業
 ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ拘留十五日ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ
 被告人ハ所轄地方裁判所長ノ認可ヲ受ケサルニ拘ラス肩書住居ニ於テ
 一、昭和八年四月四日甲府市柳町三澤梅吉ノ依頼ヲ受ケ甲府區裁判所ニ提出スヘキ債務者蘆澤清子ニ
 對スル有體動產假差押申請書一通
 二、同年五月一日同市櫻町山田豊甫ノ依頼ヲ受ケ同裁判所ニ提出スヘキ債務者淺利和重ニ對スル支拂

命令申請書一通

三、同月二日同市太田町東洋堂製菓合資會社代表社員矢崎朝芳ノ依頼ヲ受ケ同裁判所ニ提出スヘキ債
 務者山崎一郎ニ對スル有體動產假差押申請書一通
 四、同月十三日前記三澤梅吉ノ依頼ヲ受ケ同裁判所ニ提出スヘキ債務者蘆澤清子ニ對スル不動產假處
 分命令申請書一通
 五、同年六月十六日同市相生町志田常吉ノ依頼ヲ受ケ同裁判所ニ提出スヘキ債務者古屋伊作ニ對スル
 支拂命令申請書一通
 又各代書シテ司法代書業ヲ爲シタルモノナリ
 法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ代書人規則第十七條司法代書人法第四條ニ該當スルヲ以テ拘留刑ヲ
 選擇シテ被告人ヲ拘留十五日ニ處スヘキモノトス

○主文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理由

辯護人竹内喜市郎 三輪秀文 白井徳次 厚芝彦六上告趣意書第一點原判決ハ「被告人ハ所轄地方裁判
 所ノ認可ヲ受ケサルニ拘ラス肩書住居ニ於テ判決書記載ノ一乃至五ノ書類ヲ代書シテ司法代書業ヲ

爲シタルモノナリ」トシ之レニ代書人規則第十七條司法代書人法第四條ヲ適用シ被告人ヲ拘留十五日ニ處シタリト雖司法代書人法ハ大正八年四月十日法律第四十八號トシテ公布同年九月十五日ヨリ施行セラレ同法施行ト同時ニ司法代書ト行政代書トハ劃然區別セラレ前者ハ司法省ノ所管トナリ後者ハ內務省ノ所管トナリ行政代書ニ付テハ大正九年十一月二十五日內務省令第四十號ヲ以テ代書人規則ヲ公布セラレ之ニヨリテ行政代書ヲ取締ルコトナレリ故ニ代書人規則ナルモノハ司法代書ニハ全然適用ナク其ノ適用範圍ハ行政代書ニ限定セラレタルモノナリ從テ代書人規則第十七條ニ本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ストアル其ノ法令中ニハ司法代書人法第四條ノ所屬地方裁判所長ノ認可ハ之ヲ包含セス其ノ他ノ行政廳ノ許可認可ヲ受クヘキ場合ニ之レヲ受ケスシテ代書ノ業ヲ爲シタルモノノミヲ處罰スル精神ヲ以テ規定シタルハ代書ヲ司法ト行政トニ區別シタルト一ハ法律ヲ以テ一ハ內務省令ヲ以テ規定シタルト一ハ司法省ノ所管事項ナルト一ハ內務省ノ所管事項ナル點ヨリ見テ疑ヲ容ルルノ餘地ナキモノト信ス反對論者ハ若シ代書人規則第十七條ノ其ノ他ノ法令中ニ司法代書人法第四條ノ認可ヲ包含セストセハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケスシテ司法代書ヲ業トシタルモノハ之レヲ處罰スル能ハサルニ至ルヘシト然リ是レ司法代書人法ノ缺點ニシテ現在ノ法令ニ於テハ之レヲ處罰スル規定ナキモノナリ然ルニ原裁判所カ代書人規則第十七條ノ其ノ他ノ法令中ニ司法代書人法第四條ノ所屬地方裁判所長ノ認可ヲモ包含セルモノナリトシテ

同法ヲ適用シ被告ヲ拘留十五日ニ處シタルハ明カニ法令ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ此點ニ於テ原判決ハ破毀セラレヘキモノナリト信スト云フニ在レトモ

司法代書人法第一條ハ本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲイフ第四條ハ司法代書人タルニハ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受クルコトヲ要スト規定スルヲ以テ右第一條所定ノ書類作製ヲ業トスル者ハ須ラク所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケサルヘカラサルヤ論ナシ而シテ同法中ニハ之ニ反シタル場合ノ制裁規定ナシト雖代書人規則第十七條ニハ本令其ノ他ノ法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ代書業ヲ爲シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處スト規定スルヲ以テ代書人規則ニ依ル代書業ヲ爲ス者ノミナラス他ノ法令ニ依ル代書業ヲ爲ス者モ許可又ハ認可ヲ受ケサルニ於テハ孰レモ右規定ノ適用ヲ受クヘキモノナルコト明瞭ナレハ前記司法代書人法第四條ノ所屬地方裁判所長ノ認可ヲ受ケスシテ司法代書業ヲ爲シタル者亦代書人規則第十七條ノ制裁ヲ免レサルコト極メテ明カナリ然ラハ原審カ判示事實ヲ認定シテ之ニ代書人規則第十七條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ論旨理由ナシ

第二點原判決ハ同判決書ニ記載セル一乃至五ノ書類ヲ代書セルノミヲ以テ直チニ司法代書業ヲ爲シタルモノナリトシ代書料ヲ受クルト否トハ犯罪ノ成否ニ關係ナシトシテ被告ヲ有罪ト處斷シタルトモ代書料ヲ得ル目的ヲ以テ法定書類ノ代書ヲ爲スニ非ラサレハ司法代書業ト云フ能ハス司法代書人法第一

條ニハ本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所及檢事局ニ提出スヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フト規定シアリテ同條ノミヲ見レハ司法代書業ニハ代書料ノ有無ヲ問ハサルカ如シト雖其ノ第五條ニハ司法代書人ハ地方裁判所長ノ定ムル書記料ヲ受クト規定シアリテ此兩條ヲ對照綜合シテ考フルトキハ司法代書業ト代書料トハ密接離ルヘカラサル不可分のモノニシテ代書料ナキ司法代書業ナルモノハ司法代書人法ニ所謂司法代書業ニアラスト解釋スヘキモノナリ少クトモ司法代書業ト云フニハ被告人ニ於テ代書料ヲ受クル目的ヲ以テ法定書類ノ代書ヲ爲ササルヘカラス然ルニ本件被告人ハ他人ノ委任ヲ受ケ債權ノ取立ヲ爲シ其ノ結果ニヨリ報酬ヲ受クルヲ業トセルモノニテ判示書類ノ代書料ヲ受クル意思ナキコトハ一件記録ニ徵シ明白ナリ即チ被告人ノ所爲ハ昭和十一年四月一日ヨリ施行セラルヘキ法律事務取扱ニ關スル法律第一條ニ該當スルモノニテ書類ノ代書ノ如キハ人間ノ訴訟事件ニ關シ其ノ事件ノ報酬ヲ得ル目的ヲ以テ爲シタル附隨ノ行爲タルニ過キス而シテ法律事務取扱ニ關スル法律ノ施行以前ニ於テハ被告人ノ行爲ハ正當ノ業務ニシテ之レニ附隨セル代書行爲モ亦正當ナリ然ルニ原判決カ被告人ノ所爲ヲ以テ代書人規則及司法代書人法違反トシテ被告人ヲ有罪トシテ處斷シタルハ不當ニ法令ヲ適用シタルモノニシテ是レ又破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

司法代書人法第一條ハ本法ニ於テ司法代書人ト稱スルハ他人ノ囑託ヲ受ケテ裁判所及檢事局ニ提出ス

【要旨第二】

ヘキ書類ノ作製ヲ爲スヲ業トスルヲイフト規定スルヲ以テ繼續反覆ノ意思ヲ以テ同條所定ノ書類ノ作製ニ從事スルニ於テハ代書料ヲ得ル目的ノ有無ニ拘ラス司法代書業ヲ爲シタルモノト謂フヲ妨ケサルノミナラス原判決ノ證據說示ニ依レハ被告カ他人ノ囑託ヲ受ケ裁判所ニ提出スヘキ書類ヲ作製セル場合ハ代書料ヲ受ケ又ハ成功報酬中ニ代書料ヲ包含シテ契約セルコト明カナレハ原審カ被告ヲ司法代書業ヲ爲シタルモノトシテ代書人規則及司法代書人法違反トシテ處斷シタルハ當然ナリ論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事柴領文關與

○公私文書偽造行使詐欺公正證書不實記載行使恐喝詐欺未遂被告

事件 (昭和八年(九)第二一〇〇號 棄却)

(同九年三月二十日第四刑事部判決)

辯護士名簿取消ト辯護人ノ資格喪失

【上告人】 被告人 一 瀧 正美 辯護人 一 山田半藏
外二名
【第一審】 長崎地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○ 判 示 事 項

辯護士名簿取消ト辯護人ノ資格喪失

○ 判 決 要 旨

被告人カ辯護士ヲ辯護人トシテ選定シ之カ届出ヲ爲シタルモ該辯護人カ其ノ後辯護士名簿ノ取消ヲ爲シタルト、キハ辯護人タル資格ヲ喪失スルモノトス

【参照】 刑事訴訟法第四十條 辯護人ハ辯護士中ヨリ之ヲ選任スヘシ

裁判所又ハ豫審判事ノ許可ヲ得タルトキハ辯護士ニ非サル者ヲ辯護人ニ選任スルコトヲ得

○ 事 實

判決要旨ノ基本タル事實關係ハ判決理由所掲ノ如シ

○ 主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○ 理 由

被告彦次辯護人山田半藏上告趣意書第三點原判決ハ第三事實ノ證據トシテ第一審公判調書中被告人正美ノ供述記載ヲ援用シテ本件斷罪ノ資料ニ供シタリ然ルニ本件記録ヲ調査スルニ被告人正美ハ昭和七年十二月二日辯護士本田英作ヲ辯護人ニ選定シ之カ届出ヲ爲シタルコトハ記録二八一丁ニ徴シ明カナリトス然ルニ第一審裁判所ニ於テハ第一回公判期日タル昭和八年四月二十日午前九時ノ召喚狀ヲ同辯護人ニ發セス且同辯護人ヨリ同公判期日ニ出廷スヘキ旨ノ請書ヲモ徵セスシテ同辯護人不出廷ノ儘第一回公判ヲ開キ被告正美ヲ訊問シタルモノニシテ右ハ前記辯護人ノ辯護權ヲ不法ニ制限シタルモノト謂フヘク公判手續上重大ノ違法アリ同公判ニ於ケル被告人正美ノ供述ハ證據ト爲スコトヲ得サルモノトス然ルニ之ヲ採テ本件斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ探證ニ違法アリ破毀スヘキモノト信スト云フニ在レトモ

【要旨】

被告正美ハ同人ニ對スル本件被告事件ノ豫審繫屬中昭和七年十二月二日辯護士本田英作ヲ辯護人ニ選定シ之カ届出ヲ爲シタルコトハ記録中其ノ旨ノ辯護届ノ存スルニ依リ明カナルモ同辯護士ハ昭和八年二月四日請求ニ依リ辯護士名簿ノ取消ヲ爲シタルコト同年二月二十八日ノ官報ノ記載ニ依リ之ヲ認メ得ヘク其ノ後被告正美カ豫審判事又ハ第一審裁判所ノ許可ヲ得テ本田英作ヲ辯護人ニ選任シタル事跡ナキヲ以テ同人ハ既ニ辯護人タルノ資格ナキモノト謂フヘシ然ラハ第一審裁判所カ同人ニ對シ第一回

辯護士名簿取消ト辯護人ノ資格喪失

公判期日タル昭和八年四月二十日午前九時ノ召喚狀ヲ發セサリシハ當然ニシテ同人ノ立會ナクシテ被告正美ヲ訊問シタルヲ以テ不法ニ辯護權ヲ制限シタリト謂フヘキニ非ス從テ原審カ被告正美ノ右訊問調書ノ供述記載ヲ採テ判示第三事實認定ノ資料ニ供シタルハ毫モ違法ニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事佐々波與佐次郎關與

○賭場開張被告事件(昭和九年(レ)第六五號 棄却)
(昭和九年三月二十二日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 中村留次郎 辯護人 出塚助衛
【第一審】 新潟區裁判所 【第二審】 新潟地方裁判所

○判示事項

減刑令ノ適用——減刑令ト上告論旨

○判決要旨

- 一 昭和九年二月十一日勅令第十九號減刑令ニ依ル減刑ハ同日前ニ刑ノ確定シタル者ニ對シテノミ行ハルモノトス【要旨第一】
- 二 右減刑令ニ依ル減刑ヲ裁判所ニ求ムル論旨ハ適法ナル上告理由ト爲ラス【要旨第二】

【參照】 昭和九年二月十一日勅令第十九號減刑令第一條 昭和九年二月十一日前刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニシテ其ノ刑ノ執行前、執行猶豫中、執行中、執行停止中又ハ假出獄中ノモノハ本令ニ依リ其ノ刑ヲ減輕ス但シ其ノ執行ヲ通ルル者ハ此ノ限ニ在ラス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人留次郎ヲ懲役六月ニ處ス押收ニ係ルアルニユーム製辨當箱一個(證第一號)賽ノ目一個(證第二號)木製小箱一個(證第三號)現金四十五錢(證第四號)ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人留次郎ハ昭和八年十月二十二日午後三時頃ヨリ午後五時頃迄ノ間新潟市本町通九番町田寅治方奥六疊間ニ賭博場ヲ開張シ古川末松外十數名ヲシテ骨子壺ヲ使用シ俗ニ丁半ト稱スル賭錢博奕ヲナ

サシメ同人等ヨリ寺錢名義ノ下ニ勝金ノ五分ニ相應スル金員(合計金四十五錢)ヲ徵收シ以テ利ヲ圖リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人留次郎ノ所爲ハ刑法第百八十六條第二項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人留次郎ヲ懲役六月ニ處スヘク尙押收ニ係ルアルミニユーム製辨當箱(證第一號)賽ノ目(證第二號)木製小箱(證第三號)ハ本件賭場開張圖利罪ニ供シタル物現金四十五錢(證第四號)ハ同罪ニ因リ得タル物ニシテ何レモ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人出塚助衛上告趣意書昭和九年二月十一日勅令第十九號減刑令ニヨリ刑期ヲ減セララルヘキモノナルニヨリ右減刑ノ恩典ニ浴セシメラレ度茲ニ上告趣意書及提出候也ト云フニ在レトモ

【要旨第一】
昭和九年二月十一日勅令第十九號減刑令ニ依ル減刑ハ同日既ニ刑ノ確定シタル者ニ對シテノミ行ハレ本件ノ如キ刑ノ確定セサル者ニ及ハサルコトハ同令第一條ニ徵シ明ナルノミナラス元來減刑令ニ依ル減刑ハ同令ニ基キ當然行ハルルモノニシテ裁判ヲ以テ左右シ得ルモノニ非サルカ故ニ本院ニ對シ減刑

刑ノ恩典ヲ求ムル所論ハ結局適法ナル上告事由ト爲ラサルナリ論旨理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事平井彦三郎關與

○私文書公文書偽造行使有價證券虛偽記人行使詐欺同未遂被告事件

(昭和九年(九)第一六號 棄却)
同年三月二十三日第四刑事部判決

【上告人】 被告人 高田貞三郎 辯護人 (相澤準吉)

【第一審】 岐阜地方裁判所 【第二審】 名古屋控訴院

○判 示 事 項

氏名ヲ記載セサル村助役名義ノ印鑑證明書ト公文書偽造罪ノ成立

○判 決 要 旨

村助役ノ氏名ヲ記載セサルモ偽造シタル其ノ職印及職名ヲ使用シ

氏名ヲ記載セサル村助役名義ノ印鑑證明書ト公文書偽造罪ノ成立

予擅ニ印鑑證明書ヲ作成シタルトキハ公文書偽造罪ヲ構成スルモノトス

【参照】 刑法第五十五條第一項 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

○事實

第二審ハ左記事實ヲ認メ刑法第五十五條第一項等ヲ適用シテ被告人ヲ懲役八月ニ處シ押收ノ證第一、三號約束手形中ノ虛偽裏書部分及證第二、四、五號ノ偽造印鑑證明書、委任狀ハ孰レモ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ言渡ヲ爲シタリ
被告人ハ岐阜市金寶町一丁目ニ於テ運動具店ヲ營ミ居リタルカ營業資金ニ窮シタルト生活困難ノ爲親族ナル岐阜縣揖斐郡八幡村村長勝野捨松カ相當ノ資産信用アルヲ奇貨トシ同名義ノ虛偽裏書ノ手形ニ依リ他ヨリ金員ヲ騙取センコトヲ企テ
第一(一)行使ノ目的ヲ以テ

(イ)昭和七年十二月十七、八日頃右自宅ニ於テ豫テ入手シタル印鑑證明用紙及情ヲ知ラサル岐阜

市神田町印判業繁雲堂コト中島辛治ヲシテ彫刻偽造セシメタル「勝野捨松」及「揖斐郡八幡村村助役印」ナル各印類ヲ使用シ同八幡村村助役名義同月八日附右捨松ノ印鑑證明書一通(證第二號)ヲ偽造シ

第二(一)行使ノ目的ヲ以テ

孰レモ昭和八年二月七、八日頃右自宅ニ於テ擅ニ右偽造印等ヲ使用シ

(イ)同月八日附右八幡村村助役名義勝野捨松ノ印鑑證明書一通(證第五號)ヲ偽造シ

(其他ノ犯罪事實省略)

タルモノニシテ被上所爲中印鑑證明書ノ偽造其ノ行使手形虛偽記入竝詐欺ト同未遂ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人相澤隼人小西平吉上告趣意書第一點凡ソ公文書偽造罪ヲ構成スルニハ公文書作成ノ權限アル官公吏ノ名義ヲ冒用セルコトヲ要件トシ斯ル權限ナキ者ノ氏名ヲ濫用スルモ該文書偽造罪ヲ構成セサルコト言フ俟タズ本件被告ニ對スル原審判決理由中「第一(一)行使ノ目的ヲ以テ(イ)昭和七年十二月

氏名ヲ記載セサル村助役名義ノ印鑑證明書ト公文書偽造罪ノ成立

十七、八日頃右自宅ニ於テ豫テ入手シタル印鑑證明用紙及情ヲ知ラサル岐阜市神田町印製業繁雲堂コト中島辛治ヲシテ彫刻偽造セシメタル「勝野捨松」及「揖斐郡八幡村助役印」ナル各印鑑ヲ使用シ同八幡村助役名義同月八日附右捨松ノ印鑑證明書一通（證第二號）ヲ偽造シト判示セリ依テ一件記録ヲ査閲スルニ勝野捨松ハ十年來村長ニ就職シアリテ同村ノ助役ニ非サルコトハ頗ル明瞭ナリ故ニ右勝野ヲ助役ナリトシテ印鑑證明書ヲ作成セルハ公文書トシテ無効ノモノニテ公文書タル價值ナシ而シテ村長支障アル場合ニ限り助役カ印鑑證明書ニ捺印スルモノニ係リ本件ハ右勝野捨松ヲ助役トシテ其ノ氏名ヲ冒用シタルヤ又ハ他人ヲ助役ナリトシテ濫用シタルヤ判決文ニ依リテハ明瞭ヲ缺キ果シテ該公文書ヲ作成スル權限ヲ有スル者ノ氏名ヲ偽書シタルヤ否ヤ不明ナリ故ニ真正ナル公文書ヲ假裝シ以テ人ヲ欺罔スル手段ニ供シタリト見ルヘキヤ不明ナリ此ノ點ニ於テ右原判決ハ主要ナル事實認定ヲ遺脱セルカ又ハ法律ニ違背シテ事實ヲ認定セル不法アルモノト信スト云フニ在レトモ

村長ハ其ノ職權ニ關スル事項ニ付個人ヨリ證明ヲ出願シタル場合ニ之カ證明ヲ付與スルコトヲ得ルハ一般ノ慣例ニシテ助役ハ村長ノ補助機關トシテ村長ヲ代理シ得ルコト町村制第七十九條ノ規定ニ徴シ洵ニ明ナリ故ニ村長ノ職權ニ關スル事項ニ付助役ハ其ノ名義ヲ以テ個人ノ請求ニ係ル證明書ヲ作成シ得ヘキハ勿論ニシテ該證明書ニ助役タル職名及職印ヲ表示セル以上其ノ氏名ノ記載ナキモ村長ノ代理ニ於テ付與シタル證明書ト看做スヘキコト言ヲ俟タス蓋シ斯クノ如キ證明書ト雖一般世人ヲシテ公務

【要旨】

員カ其ノ權限内ニ於テ作成シタル文書トシテ信セシムル程度ニ於テ形式外觀ヲ具有セルモノト謂ヒ得ヘケレハナリ原判決ノ確定シタル所論事實ニ依レハ被告人ハ行使ノ目的ヲ以テ昭和七年十二月十七、八日頃自宅ニ於テ豫テ入手シタル印鑑證明用紙及情ヲ知ラサル岐阜市神田町印製業繁雲堂コト中島辛治ヲシテ彫刻偽造セシメタル「勝野捨松」及「揖斐郡八幡村助役印」ナル各印鑑ヲ使用シ同八幡村助役名義同月八日附右捨松ノ印鑑證明書一通ヲ偽造シタリト云フニ在ルヲ以テ助役氏名ノ記載ナキモ刑法第五百五十五條第一項ノ公文書偽造罪ニ當ルコト明ナリ故ニ原判決ニハ所論ノ如キ不法アルコトナシ論旨理由ナシ（其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス）

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事松阪廣政關與

○市會議員選舉罰則違反被告事件（昭和九年（れ）第二〇號 棄却）

（昭和九年三月二十三日第四刑事部判決）

【上告人】 被告人 深町健太郎 辯護人 赤井幸夫

選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任ト選舉事務長ノ權限

○ 判示事項

選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任ト選舉事務長ノ權限

○ 判決要旨

選舉事務長ハ他人ヲシテ自己ニ代リテ選舉委員又ハ選舉事務員ヲ選任セシムルコトヲ得サルモノトス

【参照】 市制第三十九條ノ三第一項 前條ノ規定ニ依ル選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第十章及第十一章並第四百四十二條ノ規定ヲ準用ス但シ議員候補者一人ニ付定ムヘキ選舉事務所ノ數、選舉委員及選舉事務員ノ數並選舉運動ノ費用ノ額ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

同法第三十九條ノ二 勅令ヲ以テ指定スル市(第六條ノ市ノ區ヲ含ム)ノ市會議員又ハ區會議員ノ選舉ニ付テハ府縣制第十三條ノ二、第十三條ノ三、第二十九條ノ三及第三十四條ノ二ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第二十三條第三項及第五項、第二十五條第五項及第七項、第二十五條ノ三、第二十七條ノ二、第二十八條、第二十九條、第三十三條第一項並第三十六條第一項ノ規定ニ拘ラス勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

衆議院議員選舉法第八十九條第一項 選舉事務長ニ非サレハ選舉事務所ヲ設置シ又ハ選舉委員若ハ選舉事務員ヲ選任スルコトヲ得ス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ禁錮二月ニ處ス但未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年四月十八日施行ノ下關市市會議員選舉ニ際シ同月五日立候補シタルモノナルトコロ

第一 同月六日自ラ當選ヲ得ル目的ヲ以テ同市上田中町被告人選舉事務所ニ於テ豫テ被告人ヨリ選舉運動ノ依頼ヲ受ケ法定ノ届出ヲ爲サシテ選舉運動ニ從事セル大西秀雄ニ對シ其ノ選舉運動ノ實費並報酬トシテ同人ニ處分ヲ一任スル趣旨ノ下ニ金千圓ヲ供與シ

第二 右選舉ニ付大谷兼吉ヲ選舉事務長ニ選任シ被告人自身ハ選舉事務長ニ非サルニ拘ラス同月五日頃ヨリ同月七日頃迄ノ間肩書居宅若クハ右選舉事務所ニ於テ犯意ヲ繼續シ獨斷ニテ肥後勝右衛門、酒井鶴藏、前田秀夫ニ對シ選舉委員タルヘキコトヲ藤本安吉、小野甚吉ニ對シテハ選舉事務員タルヘキコトヲ各委囑シ即時同人等ノ承諾ヲ得テ夫々選舉委員及同事務員ニ選任シ

タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ右第一ノ犯行ハ市制第四十條衆議院議員選舉法第一百十二條第一號ニ第二ノ犯行ハ市制第四十條第三十九條ノ二、第三十九條ノ三第一項衆議院議員選舉法第八十九條第一項、第三百一十條刑法第五十五條ニ各該當シ孰レモ禁錮刑ヲ選擇スヘキトコロ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十

選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任ト選舉事務長ノ權限

條ニ則リ重キ第一ノ罪ニ付定メタル禁錮刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ禁錮二月ニ處スヘク尙同法第二十一條ニ依リ未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人赤井幸夫上告趣意書第一點原審ニ於テ辯護人カ判示第二事實ニ付假ニ上告人カ判示選舉運動者ヲ選任シタルモノトスルモ右ハ選舉事務長事故アル場合ニ於テ選任者其ノ行爲ヲ代行シタルモノナルヲ以テ犯罪ヲ構成スルモノニアラサル旨抗辯シタルコトハ原審公判調書中「辯護人ハ選舉委員竝ニ同事務員ノ選任ニ付テハ被告人ニ於テ之カ選任ヲ爲シタル事實ナシ差支ノ有無ヲ問ヒタルハ選任シタルニアラスシテ其ノ豫備行爲タルヘキモノニシテ之ヲ以テ選舉事務長ノ專權ニ屬スル事ヲ爲シタリト觀ルハ不當ナリ然カモ選舉事務長ノ名ニ於テ提出サレタル其ノ届書ナルニ於テオヤ假ニ被告人ニシテ委員若ハ事務員タルコトヲ依頼シタリトスルモ本件ノ場合ハ選舉事務長事故アル場合其ノ授權ニ依リ同事務長ノ爲スヘキ行爲ヲ代行シタルモノト觀察スルモ何等不可ナケレハ是亦無罪タルヘク本件各事實共犯罪ヲ構成セサルヤニ思料セラルルカ故ニ被告人ニ對シテハ無罪ノ判決アリ度シトノ趣旨ノ辯論ヲ爲シタリ」トノ記載アリ而シテ右主張タルヤ「上告人ハ選舉事務長ニアラスシテ選舉委員竝ニ同事務

員ヲ選任シタリ」トノ衆議院議員選舉法第八十九條同第三百三十一條ノ犯罪構成要件以外ノ事實ニシテ而モ同條ノ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ事實ノ存在ヲ述ヘテ其ノ無罪ヲ主張シタルモノニ係リ恰モ急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲己ムコトヲ得サリシ事實又ハ自己又ハ他人ノ生命身體自由若ハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲己ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ナリトノ事實ヲ掲ケテ其ノ無罪ヲ主張セルト同一ニシテ右辯護人ノ主張ハ正ニ刑事訴訟法第三百六十條第二項ニ該當スルモノナリトス然ルニ原審ニ於テハ此ノ主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ爲スコトナク輒ク有罪ノ言渡ヲ爲シタルハ違法ニシテ原判決ハ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ

衆議院議員選舉法第八十九條第一項ニ依レハ選舉委員若ハ選舉事務員ノ選任ハ選舉事務長ニ於テ之ヲ爲スヘク同法第九十五條ニ依レハ選舉事務長故障アルトキハ選任者代リテ其ノ職務ヲ行ヒ兩者故障アルトキハ同條第二項所定例外ノ場合ヲ除ク外議員候補者代リテ其ノ職務ヲ行フモノトス而シテ右職務ノ代行ハ彼上ノ場合ニ限り法律上當然之ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ選舉事務長ノ授權ニ依リ之ヲ爲スヘキモノニ非サルハ勿論選舉事務長ハ自己ノ意思ニ因リ他人ニ授權シ其ノ職務ヲ代行セシムルコトヲ得サルモノトス而シテ原審公判調書ニハ所論ノ如キ辯護人ノ主張記載アリテ其ノ旨趣ハ(一)被告人ニ於テ判示ノ如キ選舉委員竝ニ選舉事務員ヲ選任シタルコトナシ(二)假ニ被告人カ判示ノ人々ニ選舉委員若ハ同事務員タルコトヲ依頼シタル事實アリトスルモ右ハ選舉事務長事故アリテ其ノ授權ニ

【要旨】

選舉委員又ハ選舉事務員ノ選任ト選舉事務長ノ權限

依リ同事務長ノ爲スヘキ行爲ヲ代行シタルモノト觀察スルモ不可ナク犯意ナシト云フニ歸スルヲ以テ
 結局被告人ノ原判示第二ノ選舉委員若ハ同事務員選任ノ行爲ニ付テハ犯罪構成ノ要素ヲ欠缺スル旨ヲ
 主張シタルモノニシテ法律上犯罪ノ不成立ニ歸スヘキ原由タル事實上ノ主張ヲ爲シタルモノニ非サル
 ヲ以テ右ノ主張ハ刑事訴訟法第三百六十條第二項所定ノ事實上ノ主張ニ該當セス隨テ原判決ニ於テ特
 ニ之ニ對シ判斷ヲ示サザリシハ不法ニアラサルノミナラス原判決ハ判示第二ニ於テ被告人カ判示選舉
 ニ付大谷兼吉ヲ選舉事務長ニ選任シナカラ自ラ判示ノ人々ヲ選舉委員若ハ選舉事務員ニ選任シタル旨
 ヲ說示シ之ニ對スル證據ヲ舉示シ有罪ノ判決ヲ爲シタルヲ以テ判文上右ノ主張ハ自ラ排斥セラレタル
 モノトス論旨ハ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
 右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事松阪廣政關與

○恐喝被告事件 (昭和八年(九)第一九六三號 破毀自判)
(同九年三月二十四日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 木下織太郎 辯護人 (原田治郎 金子勝藏)

【第一審】 長野地方裁判所飯田支部 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

併合罪ノ起訴ト公判裁判所ノ判決 第一審ノ訴訟手續ノ不法ト上
 告論旨 豫審手續ノ不法ト上告論旨

○判決要旨

一 檢事カ併合罪トシテ數個ノ恐喝事實ヲ指示シテ豫審請求ヲ爲シ
 豫審判事亦之ヲ併合罪トシテ公判ニ付スル旨ノ豫審終結決定ヲ
 爲シタル場合ニ於テ公判裁判所審理ヲ遂ケタル末數個ノ恐喝事
 實中或ル恐喝事實ニ付犯罪ノ成立ヲ認めサルトキハ縱令成立セ
 ハ其ノ數個ノ恐喝事實カ連續犯ヲ組成スヘキ關係ニ在ルモノト
 解スヘキトキト雖其ノ無罪タルヘキ行爲ニ付テハ主文ニ於テ其
 ノ旨ノ判決ヲ爲ササルヘカラス【要旨第一】
 二 第一審ノ訴訟手續カ法令ニ違反スルコトヲ主張スル論旨ハ上告

併合罪ノ起訴ト公判裁判所ノ判決 第一審ノ訴訟手續ノ不法ト上告論旨 豫審手
 續ノ不法ト上告論旨

理由トシテ適法ナラス【要旨第二】
三豫審手續ノ不法ヲ論難スル論旨ハ上告理由トシテ適法ナラス【要旨第三】

【参照】 刑事訴訟法第四百十條 左ノ場合ニ於テハ常ニ上告ノ理由アルモノトス
十八 審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サス又ハ審判ノ請求ヲ受ケサル事件ニ付判決ヲ爲シタルトキ
同法第四百九條 上告ハ第四百十二條乃至第四百十五條ニ規定スル場合ノ外法令ノ違反ヲ理由トスルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處ス但シ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入ス訴訟費用中(中略)被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ
被告人ハ大正十三年頃ヨリ長野縣上伊那郡赤穂村ニ於テ旬刊新聞高原時報ヲ發行シ昭和二年七月頃之ヲ日刊ト爲シ高原日日新聞ト改題シテ爾來其ノ發行ヲ繼續シ來リタルモノナルトコロ

第一 同縣上伊那郡料藝組合聯合會ニ於テハ昭和三年十月頃伊那節踊統一ノ爲舞踊ノ家元花柳壽輔及其ノ高弟花柳壽美ヲ招聘シテ振付ヲ爲サシムルコトトシ同聯合會ニ屬スル赤穂二業組合ニ該招聘ノ交渉方ヲ委囑シタルヨリ同組合長池上徳太郎ヨリ右壽美ノ實父諏訪政太郎ヲ介シテ壽美ニ交渉ノ結

果其ノ承諾ヲ得同人カ前記花柳壽輔ト共ニ昭和四年一月二十日頃ヲ期シ同地方ニ赴クコトナリシトコロ被告人ハ右壽美 政太郎等ニ關スル醜惡ナル記事等ヲ右新聞紙ニ掲載シテ池上徳太郎等右赤穂二業組合ノ役員等ヲ恐喝シ金員ヲ交付セシメントテ企テ昭和三年十一月二十一日ヨリ同月二十五日迄ノ前記高原日日新聞ニ花柳壽美カ諏訪政太郎ト赤穂藝者トノ間ニ生レタル私生子ニテ轉帳流浪シ藝者トナリ遂ニ舞踊家ニ成リ上リタルモノナル旨ノ壽美及政太郎等ノ嫌疑スヘキ記事竝暗ニ之ヲ招聘セントスル措置ヲ非難スルカ如キ記事(昭和八年證第二號ノ六)ヲ連續掲載シテ發行シ前記徳太郎等右二業組合ノ役員等ヲシテ斯クテハ壽美等ヨリ右招聘ノ拒否ニ遭フヘク延テ同組合ニ於ケル所期ノ目的ヲ蹉跌セシムルト共ニ同組合ノ面目ヲ失スルニ至ルヘシト困惑畏怖セシメ以テ同人等ヲ恐喝シ同月二十五日同郡赤穂村ナル同組合事務所ニ於テ右徳太郎等ヨリ爾後右ノ如キ記事ヲ掲載セサル様懇請セラルルヤ年賀廣告料トシテ百圓ヲ提出セハ其ノ掲載ヲ爲ササル旨申告ケ該金員ノ提供方ヲ要求シ即日同所ニ於テ同人ノ手ヲ通シ組合ヨリ同組合ノ年賀廣告料名義ヲ以テ現金五十圓ノ交付ヲ受ケ

第二 昭和四年一月二十日頃前記花柳壽美等ノ一行カ赤穂ニ赴キタルトコロ又々壽美ニ對スル前示ノ如キ記事竝赤穂二業組合ニ關スル非難攻撃ノ記事(昭和八年證第二號ノ七)ヲ前記新聞ニ連載シ爾來昭和五年四月頃迄ノ間ニ同組合ニテ曩ニ多額ノ費用ヲ要シテ統一セル伊那節ヲ教ヘス非難ノ焦

併合罪ノ起訴ト公判裁判所ノ判決 第一審ノ訴訟手續ノ不法ト上告論旨 豫審手續 三一五 (一五)

點ト爲リ居ル旨其ノ他同組合及組合員ニ關スル醜惡ナル記事(同號ノ八)ヲ掲載シタル爲同組合役員協議ノ結果同月二十九日頃組合長春田儀八外約八名ノ役員カ被告人ヲ同村料理店精養軒ニ招待シテ酒食ヲ饗シ爾後組合及組合員ノ惡事醜行ノ記事ヲ掲載セサル様懇請スルヤ被告人ハ同人等ヲ恐喝シテ金員ヲ交付セシメシコトヲ企テ同人等カ右ノ如キ記事ニ付恐怖シ居ルニ乘シ其ノ數日後春田組合長ニ對シ右新聞發行五週年祝賀名義ヲ以テ金五十圓ノ提供方ヲ要求シ之ニ應セサレハ再ヒ右ノ如キ醜惡ナル記事ヲ掲載スヘキ旨暗示シテ同人等ヲ畏怖セシメ同年五月二十日頃前掲同組合事務所ニ於テ同人ノ手ヲ通シ同組合ヨリ現金三十圓ノ交付ヲ受ケタルモノニシテ以上被告人ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス

被告人ハ右犯行前大正四年十一月六日東京控訴院ニ於テ騷擾放火罪ニ依リ懲役九年ニ處セラレ當時其ノ刑ノ執行ヲ受ケ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲ハ刑法第二百四十九條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ累犯ナルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ則リ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處シ同法第二十一條ニヨリ原審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ右本刑ニ算入スヘク訴訟費用中主文末頃特記ノ證人ニ支給シタル分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

本件公訴事實中被告人カ昭和三年七月頃上伊那郡赤穂村字下平岡本仲太郎ノ長男三一カ同村末廣町千代の湯事北林熊市方ニ遊ヒニ行キタル際背信行爲ヲ爲シタルコトヲ聞知シ之ヲ新聞ニ掲載スヘク申向ケ威赫シテ金員ヲ得シコトヲ企テ仲太郎ノ妹婿北原友次郎ニ對シ右三一ノ背信行爲ヲ新聞ニ掲載スヘク告クルニ於テハ同人ヨリ仲太郎其ノ他ノ親族ニ傳達サレ仲太郎等カ恐怖シ金員ヲ提供シテ掲載中止ヲ申出テ來ルヘキコトヲ察知シテ其ノ頃同村字日出町ナル北原友次郎方ニ赴キ同人ニ對シ右三一ノ行爲ヲ新聞ニ掲載スヘク申向ケ掲載差止メラレ度クハ金員ヲ提供スヘキ旨暗示シタルヲ以テ友次郎カ大ニ驚キ當時友次郎方ノ向側小出三吉方ニ寄合ヒ居タル仲太郎及其ノ親族中城廣三等ニ其ノ旨告ケタルトコロ仲太郎モ該事實ヲ新聞ニ掲載サルニ於テハ三一ハ勿論親族等ノ名譽信用ニ係ル大事ナリト思惟シテ脅威ヲ感シ協議ノ結果同日友次郎ヲシテ仲太郎カ十圓ヲ被告人方ヘ持參セシメテ掲載中止方ヲ申込マシメタルニ被告人カ十圓位ノ少額ニテハ斷シテ差止メ難キ旨申シタルヨリ友次郎カ戻リテ仲太郎ニ其ノ旨告ケ更ニ協議ノ末友次郎ニ三十圓ヲ持參セシメテ即日被告人方ニ遣シタルニ被告人ハ三十圓ニテ掲載中止ヲ爲スヘキコトヲ承諾シテ友次郎ノ手ヲ經テ仲太郎ヨリ三十圓ヲ受取り喝取シタリトノ點ハ犯罪ノ證明ナキモ右ハ判示所爲ト連續犯ノ關係アリトシテ起訴セラレタルモノト認ムヘキモノナルニヨリ此ノ點ニ付特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス

○ 主 文

併合罪ノ起訴ト公判裁判所ノ判決 第一審ノ訴訟手續ノ不法ト上告論旨 豫審手
續ノ不法ト上告論旨

原判決ヲ破毀ス

被告人織太郎ヲ懲役十月ニ處ス

但シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ヲ本刑ニ算入ス

訴訟費用中豫審ノ證人萩原傳一 松崎盛藏 池上徳太郎 諏訪政太郎 澤井鐵之助 安江増壽 渡邊清作 細田喜八 木下政重 第二審ノ證人金指精一 土屋二三ニ支給シタル分ハ被告人ノ負擔トス

豫審終結決定第一ノ被告人カ岡本仲太郎ヲ恐喝シタリトノ公訴ニ付テハ被告人ハ無罪

○理由

辯護人原田治郎 金子勝藏上告趣意書第一點原判決ハ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニツキ判決ヲ爲ササル違法アリ原判決ハ「豫審終結決定書記載ノ第一ノ事實(事實ヲ略ス)ノ點ハ犯罪ノ證明ナキモ右ハ判示所爲ト連續犯ノ關係アリトシテ起訴セラレタルモノト認ムヘキモノナルニヨリ此點ニ付キ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サス」トナスモ之連續犯ノ意義ヲ誤解シタルニ出ツルモノ也抑モ連續犯ハ連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキ之ヲ一罪トシテ處斷スル場合ニシテ獨立シテ犯罪トナルヘキ行爲ヲ一罪トシテ處斷スル所以ノモノハ此ノ場合犯人ノ主觀ニ於テ犯意單一ノ認定セラルヘキモノアレハ也即チ連續犯ノ成立ハ犯意ノ單一ヲ必要トス其ノ數個ノ行爲ハ事前包括的ニ豫見セラレタルコトヲ必要トスルナリ御院カ連續犯ノ成立ハ意思ノ繼續ヲ必要トスト判示スルモ亦同意義ナリトス

原判決ハ其ノ判示第一事實及第二事實ハ短期間内ニ同種行爲ヲ反覆シタル事跡ニ徴シ犯意繼續シタルモノ也ト認定シタリ惟フニ右ハ何レモ花柳壽美 諏訪政太郎並赤穂二業組合ニ關スル非難攻撃ノ記事ヲ高原日日新聞ニ記載シタル場合ニ係ルモノニシテ此ノ具體の場合ニ同種行爲ノ短期間内反覆ニ依リ犯意ノ單一ヲ認定スルハ誠ニ妥當ナル見解ナリト云フヘキモ右豫審終結決定書記載ノ第一ノ事實ハ全ク別個ノ人別種ノ事實ヲ對象トシ右トハ全ク異リタル事情ニ置カレタル場合ニシテカカル行爲ノ事前ニモ尙原判決判示ノ第一及第二ノ事實カ包括的ニ豫見セラレタリトハ到底解シ能ハサル所ナリ而シテ其ノ豫審請求書及豫審終結決定書ノ何レヲ見ルモ右ノ事實カ原判決判示第一、第二ノ事實ト連續犯ノ關係アリトシテ起訴セラレタリト認メ得サルノミナラス豫審終結決定カ「公訴第四事實ハ犯罪ノ嫌疑ナキヲ以テ免訴スヘキモノ也」トナスヲ思ヘハ右ノ事實ハ原判決判示所爲ト連續犯ノ關係ニアラサルモノトシテ起訴サレタルモノナルコトハ極メテ明白ナリト信ス果シテ然ラハ原判決ハ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニツキ判決ヲ爲ササル違法アルモノニシテ到底破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在リ所論豫審終結決定第一ノ事實ハ原判示第一、第二ノ事實トノ關係ニ於テ連續犯ヲ組成スヘキモノナルコト原判決ノ確定セル所ナリト雖記録ニ就キ調査ヲ遂クルニ檢事ハ第一、第二及第三トシテ各恐喝事實ヲ指示シテ豫審請求ヲ爲シ更ニ一箇ノ恐喝事實ヲ指摘シテ追豫審請求ヲ爲シタルトコロ豫審判事ハ豫審ヲ遂ケタル上其ノ第一乃至第三ノ恐喝ノ公訴ニ對シテハ犯罪ノ嫌疑アリトシテ公判ニ付スルノ決

併合罪ノ起訴ト公判裁判所ノ判決 第一審ノ訴訟手續ノ不法ト上告論旨 豫審手

定ヲ爲シタルモ追起訴ニ係ル恐喝ノ公訴ニ對シテハ免訴ノ決定ヲ爲シタリ原審ニ於テハ檢事ノ豫審請求ニ係ル第一乃至第三ノ恐喝事實ニ付覆審ヲ遂ケタル末其ノ第二、第三ノ恐喝事實ハ意思ノ繼續ニ出テタルモノトシ連續犯ナリトシテ有罪判決ヲ爲シ其ノ第一ノ恐喝事實ニ對シテハ之カ證明ナキモ他ノ恐喝事實ト連續犯ノ關係アリトシテ起訴セラレタルモノト認メ特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ササリシモノナリトス按スルニ連續犯トハ同一意思ノ發動ニ依ル連續シタル數箇ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルル場合之ヲ一罪トシテ處斷スヘキモノヲ指稱スルモノナルトコロ其ノ連續シタル數箇ノ行爲カ連續一罪ヲ組成スルヤ否ハ或ル社會現象ニ對スル法律上ノ價值判斷ニ外ナラサルモノニシテ究極スル所裁判官ノ判斷ニ依リテ決セラルヘキ問題ナリトス然レトモ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲シタリヤ否ノ問題ヲ解決スルニ當リテハ先ツ檢事カ公訴ヲ提起シタリヤ否而シテ其ノ公訴ハ一罪トシテ處斷スヘキモノナリヤ數罪トシテ處斷スヘキモノナリヤ今之ヲ連續シタル數箇ノ行爲ニ對スル犯罪事實ヲ指示シテ公訴ヲ提起シタル場合ニ付考究スルトキハ其ノ事實カ連續犯ヲ組成スヘキ數箇ノ行爲ナルヤ或ハ併合罪ノ關係ニ在ルモノナリヤ否ハ檢事ノ起訴狀ノ記載如何ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノニシテ檢事カ數罪トシテ起訴シタルニ不拘裁判所之ヲ一罪トシテ起訴シタルモノト認ムルカ如キハ不法ナリト云ハサルヘカラス此ノ見地ニ基キ原判決ノ當否ヲ按スルニ係争ノ豫審請求書記載第一ノ恐喝事實ハ爾餘ノ第二、第三及追豫審請求書記載ノ恐喝事實ト各別箇ノ併合罪トシテ起訴セラレタルモノト認

【要旨第一】

ムヘク然カモ豫審終結決定ニ於テモ亦之ヲ連續犯ト認メス其ノ第一乃至第三ノ恐喝事實ニ對シテハ之ヲ公判ニ付シ追起訴ニ係ル恐喝事實ニ付テハ之ヲ免訴シタルモノナルカ故ニ斯カル場合ニ於テ公判裁判所當該被告事件ノ審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スニ當リ其ノ第一事實ニ付犯罪ノ證明ナキモノト爲スニ於テハ須ラク主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲ササルヘカラサルモノナリトス然ルニ原審ニ於テハ本件公訴事實中檢事ノ豫審請求書記載第一事實ニ該當スル被告人カ昭和三年七月岡本仲太郎ヲ恐喝シテ金三十圓ヲ交付セシメタル點ニ付犯罪ノ證明ナキモ右ハ判示所爲ト連續犯ノ關係アリトシテ起訴セラレタルモノト認ムヘキモノナルヲ以テ此ノ點ニ付特ニ主文ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲サスト説明シタルニ止マリ主文ニ於テ判決ヲ爲ササリシモノニシテ原判決ハ刑事訴訟法第四百十條第十八號ノ審判ノ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲ササル不法アルモノニ該當シ本論旨ハ理由アリ

同第三點訴訟記録第一審第一回公判調書第六百五十七丁ニハ「此ノ時被告人ノ身上取調書記載ノ前科ヲ讀聞ケタリ」トアルモ訴訟記録ノ如何ナル所ニモ「被告人ノ身上調書」ト云フ書類ナシ虛無ノ證據書類ヲ實在スル如クニ讀聞ケルハ之正ニ第三百四十條ニ違背スルモノニシテ到底適法ナル手續ナリト云フヲ得ス尙右ノ調書ニ裁判長ハ證據調ヲ爲ス旨ヲ告ケ五項ニ互ル證據書類ヲ舉ケテ其ノ終リニ「等ノ要旨ヲ告ケ押收品全部ヲ示シ其ノ都度意見辯解ノ有無等ヲ問ヒ」(第六百五十八丁)トアリ數個ノ證據書類ヲ列舉シ「等ノ要旨ヲ告ケ」トアルヨリスレハ要旨ヲ告ケタル證據書類ハ右列舉以外ニ尙存

在スルコトトナルヘシ即チ要旨ヲ告ケタル證據書類ニシテ尙右調書ニ記載サレサルモノ存スルコトトナルヲ以テ右ハ刑事訴訟法第六十條第二項ニ反スル違法ノ公判調書ト云ハサルヘカラス而シテ右ノ調書ハ證據書類トシテ原審公判手續ニ顯出セラレタルモノナルヲ以テ右ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ホスモノナルコトハ言フ俟タス原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レサルモノナリト信スト云フニ在レトモ

【要旨第二】

上告ナルモノハ原判決又ハ其ノ基本ト爲リタル訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ許サルヘキモノニシテ本件ノ如キ第二審判決ニ對スル上告ニ在リテハ其ノ第二審判決自體又ハ其ノ基本ト爲リタル審級ノ訴訟手續カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ナラサルヘカラス然ルニ所論ハ畢竟第一審ノ訴訟手續カ法令ニ違反スルコトヲ主張スルモノニ外ナラサルカ故ニ上告理由トシテ適法ナラス

同第四點訴訟記録第五百七十六丁對質訊問調書ニ一昭和八年四月十八日長野地方裁判所飯田支部ニ於テ豫審判事澤野多三郎ハ裁判所書記田原茂太郎立會ノ上前回ニ引續キ右證人ト被告人ト對質シテ訊問スルコト左ノ如シトアリテ證人北原友次郎カ宣誓ヲナシタルモノナリヤ否ヤ一切不明也證人訊問ニアタリ別段ノ規定アル場合ヲ除キ宣誓セシムルヲ要スルハ法ノ明定スル所ニシテ右ノ如ク宣誓ヲ爲サシメサル訊問調書ハ適法ナル對質訊問調書也ト云フヲ得サル也而シテ右對質訊問調書ハ證據書類トシ

【要旨第三】

テ原審公判手續ニ顯出セラレタルモノナルヲ以テ右ノ違法ハ原判決ニ影響ヲ及ホスモノナルコト極メテ明白也原判決ハ此ノ點ニ於テモ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在レトモ本論旨モ亦原判決又ハ其ノ基本ト爲リタル訴訟手續ノ違法ヲ理由トスルモノニ非スシテ單ニ豫審手續ノ不法ヲ非難攻撃スルニ過キサカ故ニ上告論旨トシテ適法ナラス(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

敍上説明ノ如クニシテ本件上告ハ理由アルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十七條ニ則リ原判決ヲ破毀スヘク然レトモ右ノ法令違反ハ原判決ノ爲シタル事實ノ確定ニ影響ヲ及ホササルコト明白ナルカ故ニ同法第四百四十八條ニ則リ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス
原判決ノ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第二百四十九條第一項第五十五條ニ該當スルトコロ累犯ナルヲ以テ同法第五十六條第五十七條ニ依リ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處スルヲ相當トス尙同法第二十一條ニ依リ第一審ニ於ケル未決勾留日數中四十日ハ之ヲ本刑ニ算入スヘク訴訟費用中主文特記ノ分ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ從ヒ被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス本件公訴事實中豫審終結決定書中第一事實ニ該當スル被告人カ昭和三年七月岡本仲太郎ヲ恐喝シテ金三十圓ヲ交付セシメタリトノ點ハ犯罪ノ證明ナキヲ以テ刑事訴訟法第三百六十二條ニ則リ被告人ニ對シテ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス
檢事 樫田忠美關與

○村會議員選舉罰則違反被告事件 (昭和九年(九)第三二一號
同年三月二十七日第四刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 徳永之善 辯護人 吉田秋廣

【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

戸別訪問ニ依ル個々面接ト適條

○判決要旨

議員候補者力投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲シ被訪問者タル選舉人ニ面接シ投票方ヲ依頼シタルトキハ之ヲ包括的ニ觀察シ

衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ違反ヲ以テ論スヘキモノトス

【參照】 衆議院議員選舉法第九十八條 何人ト雖投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサルノ目的ヲ以テ戸別訪問ヲ爲スコトヲ得ス

何人ト雖前項ノ目的ヲ以テ連續シテ個々ノ選舉人ニ對シ面接シ又ハ電話ニ依リ選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

同法第二百二十九條 第九十六條若ハ第九十八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第九十四條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
町村制第三十六條ノ二 町村會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉法第九十一條第九十二條、第九十八條、第九十九條第二項、第一百條及第一百四十二條ノ規定ヲ準用ス
同制第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ依リ設置スル議會ノ議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金五十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ被告人ヲ二十五日間勞務役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ昭和八年四月一日施行セラレタル大阪府北河内郡庭窪村村會議員選舉ニ際シ其ノ議員候補者トナリタル者ナル處同年三月十日頃ヨリ同年三月三十一日迄ノ間ニ自己ニ投票ヲ得ル目的ヲ以テ執レ

モ選舉人ナル同村大字佐太五十三番地濱井德治郎方同所百九十五番地杉本竹三郎方同所百七十一番地川口光三方同村大字八雲舊北十番三十七番地菅原伊太郎方同村大字金田六百十七番地染川正敏方及同村大字八雲舊南七番三百一十番地角田新太郎方夫々訪問シ濱井德治郎杉本竹三郎川口光三菅原伊太郎角田新太郎及染川正敏ノ妻喜久榮ニ對シ自己ニ投票セラレタキ旨依頼シ或ハ宜敷ク頼ム旨申向ケテ暗ニ投票ヲ依頼シ以テ戸別訪問ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ所爲ハ町村制第三十六條ノ二、第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金五十圓ニ處スヘク右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十八條ニ則リ被告人ヲ二十五日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人吉田秋廣上告趣意書原判決ハ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル違法アリ即チ原判決ハ其ノ理由ニ於テ「前略孰レモ選舉人ナル同村大字佐太五十三番地濱井德治郎方同所百九十五番地松本竹三郎方同所百七十一番地川口光三方同村大字八雲舊北十番三十七番地菅原伊太郎方同村大字金田六百十七番地染川

正敏方及同村大字八雲舊南十番三百一十番地角田新太郎方夫々訪問シ濱井德治郎杉本竹三郎川口光三菅原伊太郎角田新太郎及染川正敏ノ妻喜久榮ニ對シ後略」ト認定シ之ニ對シテ町村制第三十六條ノ二、第三十七條衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ヲ適用シタリ然レトモ前記判示理由自體ニ徴シテ明カナル如ク被告人ハ右染川正敏ヲ除ク其ノ他ノ選舉人ニ對シテハ選舉人自身一々面接シテ自己ニ投票セラレタキ旨ヲ依頼シ或ハ宜敷ク頼ム旨申向ケ衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ戸別訪問及ヒ同條第二項ノ個々面接ヲ混淆シテ行ヒ居ルニ不拘單ニ同條第一項ノミヲ適用シテ判決ヲ爲シタルハ違法ナリト言ハサル可カラスト云フニ在レトモ

戸別訪問ノ罪ト個々面接ノ罪トハ孰レモ其ノ性質ヲ同シウシ其ノ侵害スル法益ハ選舉ニ關スル自由公正ナル公共的單一ノ利益ニシテ唯兩者ハ其ノ犯罪行爲ノ體様若ハ程度ヲ異ニスルニ過キス從テ議員候補者カ投票ヲ得ルノ目的ヲ以テ連續シテ二以上ノ選舉人方ヲ訪問シ被訪問者タル選舉人ニ面接ノ上之ニ對シ候補者ニ投票方ヲ依頼シタル場合ニ於テハ之ヲ包括的ニ觀察シ該個々面接ノ行爲ハ當然戸別訪問ノ行爲中ニ包含セラレ單純ナル戸別訪問ノ一罪トシテ處斷スヘク戸別訪問ト個々面接トニ區別シテ處斷スヘキモノニ非ス蓋シ戸別訪問者カ被訪問者タル個々ノ選舉人ニ面接シテ投票ヲ依頼スルコトハ戸別訪問ノ目的ヲ遂行スル所以ニシテ衆議院議員選舉法第九十八條第一項ノ禁止スルトコロニ當然包含スルモノト謂フヘケレハナリ然レハ原判決カ所論ノ如ク判示シ之ニ對シ單ニ町村制第三十六條ノ二

【要旨】

戸別訪問ニ依ル個々面接ト適條

第三十七條ニ依リ衆議院議員選舉法第九十八條第一項第二百二十九條ヲ適用處斷シタルハ右ノ趣旨ニ出
テタルモノニシテ毫モ所論ノ如キ違法アルコトナシ論旨ハ其ノ理由ナシ
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事柴碩文關與

○業務上過失致死傷被告事件 (昭和九年(七)第五二號 棄却)
(同年三月二十七日第四刑事部判決)

【上告人】 被告人 是永東五郎 辯護人 長田三保二

【第一審】 加治木區裁判所 【第二審】 鹿兒島地方裁判所

○判示事項

トロリー指揮者ノ前方注視義務

○判決要旨

トロリー指揮者ハ常ニ進路ノ前方ヲ注視シ運轉手ヲシテ緩急ニ應

シテ敏速ノ處置ヲ採ラシムル爲ノ命令ヲ爲シ危險防止ニ當ルノ業
務上ノ注意義務アルモノトス

【參照】 トロリー使用心得第一條 本心得ニ於テトロリートハアツシカー、モーターカ
ー及之ニ類スルモノヲ謂フ但シ人力ノミニ依リ操縦スル軌道用自轉車ヲ除ク
同規則第七條 トロリーヲ使用セムトスルトキハ指揮者トシテ線路工手長以上ノ保
線區從事員工手長(閉塞機手ヲ含ム以下同シ)以上ノ電氣從事員(以下指揮者ト稱ス)
ヲ乗務セシムヘシ但シ己ムヲ得サル場合ニ在リテハ所長ノ特ニ指名シタル線路工
手通信工手若ハ電力工手ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
同規則第十八條 指揮者ハ手信號器、信號用雷管、時計及列車時刻表ヲ又可成携帶電話
器ヲ携帶シ時計ハ停車場備付ノモノト對照齊正スヘシ
刑法第二百一十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以
下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金百圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハ
サルトキハ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トス
トノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ鐵道省雇鹿兒島保線事務所吉松保線區建築手ニシテ同保線區主任ノ命ニ依リトロリー使用ニ

トロリー指揮者ノ前方注視義務

關シ一切ノ責任ヲ負フヘキ指揮者トシテ乗務スル業務ニ從事シ居タルモメナルトコロ昭和七年六月十八日肥薩線吉松驛ヲ去ル南方約二軒ノ地點ニ於テ開催セラレタル枕木交換競技會ニ臨席シタル鹿兒島保線事務所長比企元外鐵道員十名カ吉松驛ニ歸還スル便ニ供センカ爲吉松驛常務助役長坪正行ニ對シ歸還ノ際ハ同驛四番線ニ入線スヘキニ依リ該線ヲ開放シ置カレ度キ旨了解ヲ求メタル上丁型十五馬力三百三號モーターカー(トロリーノ一種)ニ指揮者トシテ乗車シ建築工手川路迫友次郎ヲシテ運轉セシメテ吉松驛ヲ發シ右競技會現場ニ至リテ前記鐵道員十一名ヲ乗車セシメタル上午後四時二十二、三分頃車體逆位(運轉手ハ後方ニ向ヒ著座)ノ儘一時間三十軒乃至四十五軒ノ速力ヲ以テ疾走歸還ノ途ニ就キ吉松驛ニ接近シタルカ進路ノ前方タル吉松驛構内ノ線路輻輳シ機關庫ノ入替等頻繁ニシテ何時機關車等ノ停車シ居ルヤモ知レサルノミナラス當時ハ降雨逆風ノ天候ニシテ前方ノ透視困難ニシテ且發動機ノ爆音車輪ノ軋音モーターサイレンノ鳴音ト相俟チテ指揮命令ノ傳達ニ支障多カルヘキ狀況ニ在リシヲ以テ運轉手ニ對シ被告人ノ指揮命令ノ即時透徹スル様近接セル座席ニ著座スルハ勿論常ニ進路ノ前方ヲ警戒注視シ運轉手ヲシテ緩急ニ應シテ敏速ニ急停車ヲ爲シ得ル程度ニ速度ヲ遞減調節セシメテ進行ヲ繼續シ以テ危險防止ニ遺憾ナカラシムヘキ業務上ノ注意義務アルニ拘ラス進路ノ前方二百米餘ノ吉松驛構内四十二號ポイント附近ノ地點ニ機關車カ停車シ居ルヲ認メナカラ曩ニ吉松驛常務助役トノ間ニ四番線ヲ開放シ置クヘキ協定ナリシタメ該機關車ハ左側待避線上ニ在リテ何等危險ヲ發生

スル虞ナシト輕信シ前方ノ注視ヲ怠リ依然一時間四十軒乃至四十五軒ノ高速度ヲ以テ進行ヲ續ケタルヲ以テ約八十米ノ距離ニ接近シ始メテ進行本線上ニ右機關車ノ停車シ居ルコトヲ發見シ急遽川路迫運轉手ニ急停車ヲ命シタルモ運轉手ノ座席ヨリ四尺餘ヲ隔テテ著座シ居タル爲命令直ニ透徹セス遂ニ機關車ト衝突ヲ爲スニ至リ其ノ結果同乗車中鳥井原雄一ヲシテ身體諸所ノ創傷骨折及腦震盪症ニ因リ同日午後七時二十分頃死亡スルニ至ラシメタル外川路迫運轉手ニ治療七箇月餘ヲ要スル顔面左顳骨部切創左胸部打撲傷等ヲ丹村繁昌ニ治療約五週間ヲ要スル右肩胛部打撲傷ヲ永田源治ニ治療約二週間ヲ要スル薦骨部右臀部及上腿部ノ各打撲傷ヲ負ハシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示鳥井原雄一ニ對スル業務上過失致死川路迫友次郎 丹村繁昌 永田源治ニ對スル各業務上過失傷害ノ所爲ハ孰レモ刑法第二百一十一條ニ該當スル所一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ナルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シテ犯情最モ重キ鳥井原雄一ニ對スル業務上過失致死罪ノ刑ニ從ヒ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金百圓ニ處シ右罰金不完納ノ場合ニハ同法第十八條ニ則リ金二圓ヲ一日ニ換算シタル期間被告人ヲ勞役場ニ留置スヘタ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ニ則リ全部被告人ヲシテ負擔セシムヘキモノトス

○主 文

被告人鳥井原雄一、丹村繁昌、永田源治、

本件上告ハ之ヲ棄却ス

トロリー指揮者ノ前方注視義務

○ 理 由

辯護人長田三保二上告趣意書第一點鹿兒島地方裁判所判決理由ニ依レハ被告人ハ「保線區主任ノ命ニ依リトロロリ使用ニ關シ一切ノ責任ヲ負フヘキ指揮者トシテ乗務スル義務ニ從事シ居リシモノナル處……」ト說示シ恰モ指揮者ニ運轉操縦ニ關スル一切ノ責任アルモノノ如ク解シ居ルモ此ノ點ニツキ法規上根據ヲ見出スコト能ハス蓋シトロロリ使用ニ關スル規定ハトロロリ使用心得第二條ニトロロリ使用者ヲ定メ其ノ七條ニトロロリヲ使用セントスルトキハ指揮者トシテ線路工手長以上ノ保線區従事員以上ノ電氣従事員ヲ乗務セシムヘシトセリ而シテ該指揮者ハ其ノ第九條ニ所定セルトロロリ使用通告簿作製ノ上驛長ノ認印ヲ受クヘキコト又其ノ第十六條ニ手旗ノ表示方其ノ第十八條ニ所持スヘキ必要携帶品ヲ規定セル外運轉中ノ前方注視其ノ他ニ關スル義務ヲ規定セリト認ムヘキモノナシ則チ本心得ニ所謂指揮者ノ責任ナルモノハトロロリヲ使用セントスル時ノ全般ノ手續處置等ニ關スルモノニシテ運轉上ノ事項ニハ何等指示スルトコトナシ而シテ現在慣行シタル實務ニ於テモ運轉ニ無識ナル指揮者ハ如上ノ範圍ニノミ極限セラレトロロリノ操縦ハ一ツニ専門ノ運轉手ニ委任セリ然ルニ原判決ハ指揮者ナル辭句ニ眩惑シ何等實情ヲ研究スルトコトコトナク漫然トロロリ運轉中ノ前方注視ノ義務モ亦當然指揮者トス被告人ノ責任内ニ在リト速斷シタルハ法規ニ依ラスシテ裁判シタルノ不法アルモノトスト云ヒ「第二點原判決ノ證據説明中被告人カ運轉中前方注視ノ義務アリトノ點ニツキテハ同被告人ノ供

述ナル「……トロロリ使用ノ必要ニ應シ同保線區主任ノ命ニ依リ一切ノ責任者タル指揮者トシテ乗務シ居リシカモモーターカノ使用ノ際ニハ必ス運轉手ト指揮者カ乗ルモノニシテ指揮者ノ座席ハ別段定マリ居ラサルモ運轉手ハ連絡ヲ取ル適當ナル場所ニ乗ルコトニ爲リ居ル」ノ一節ヲ援用シテ有罪ノ證據ニ供シタリ而シテ前述ノ被告人ノ供述ノミニテハ未タ遽カニ同被告人ノ前方注視ノ義務アリトノ事實ヲ陳述シタルモノト認メ難ク更ニ進ミテ此ノ點ニ關シテ切實明瞭ナル訊問竝ニ供述ヲ要ス然ルニ原審ハ第一點所論ノ如ク指揮者ナル語字ヲ曲解シタル誤謬ノ先入觀念ニ律セラレタルニヤ何等之ニ對應スル證據ナキニ拘ラス判定シタルハ證據ナクシテ裁判シタルノ違背アルモノトスト云ヒ「第三點原判決ノ如ク指揮者タル被告人ニ前方注視ノ責任アリト斷スルニハ如上論述ノ如ク尠クトモ何等カノ法規竝ニ證據ニ依ラサルヘカラス而シテ此レカ爲ニハ須ラクトロロリ運轉ノ前方警戒ニ關スル事實又ハ慣行竝ニ法規ニツキテ十分ナル審究ナカルヘカラスナルニ原審ハ此ノ點ニツキ何等觸ルルコトナクシテ裁斷シタルハ事實ノ認定ニ付重大ナル誤解アリト認ムルニ足ルヘキ顯著ナル理由アルモノト信スト云フニ在レトモ

所論トロロリ使用心得第七條ハトロロリヲ使用セムトスルトキハ指揮者トシテ組頭以上ノ保線従業員工手長以上ノ電氣従業員ヲ乗務セシムヘシ但シ止ムヲ得サル場合ニアルトキハ事務所長ノ特ニ選定シタル線路工手通信工手若ハ電力工手ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得第十八條ニ指揮者ハ手信號器、信號用

雷管、時計及列車時刻表ヲ又可成携帶電話器ヲ携帶シ時計ハ停車場備付ノモノト對照齊正スヘシト規定セリ斯ノ如クトロロリニハ必ス指揮者ヲ乗車セシムル旨規定シ其ノ資格及携帶用具等ニ付詳細ニ規定セル趣旨ヨリスレハ特ニ指揮者ヲ設ケタルハトロロリ運轉ニ關シ一切ノ指揮監督ニ當リ運轉手ニ對シ發車停車其ノ他臨機ノ措置ヲ命令シ苟クモ運轉上過誤ナカラシムルコトヲ期スルニ在ルヤ言フ俟タス蓋シ運轉ハ指揮者ノ命令ニ依ラスシテ獨リ運轉手自由ニ之ヲ爲スヘキモノトセハ本件ノ如ク運轉手カ車體ノ進行ト逆位ノ姿勢ヲ以テ操車スル場合ニハ前方ヲ視ル能ハスシテ線路上ノ故障其ノ他ニ付何等知ルヲ得サルカ故ニ危険極リナク結局運轉ヲ爲スヲ得サルニ至ルヘケレハナリ果シテ然ラハ指揮者ハ常ニ進路ノ前方ヲ注視シ運轉手ヲシテ緩急ニ應シテ敏速ノ處置ヲ採ラシムル爲ノ命令ヲ爲シ以テ危険防止ニ當ルノ業務上ノ注意義務アルコト當然ナレハ所論ノ如キ事項ニ付審究スルノ要アルコトナシ而シテ判示事實ハ原判決舉示ノ證據ニ依リテ之ヲ證明スルニ足ルヲ以テ原判決ハ證據ニ依ラスシテ裁判シタル違法アルコトナク記録ヲ查スルモ右事實ノ誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ナシ論旨孰レモ理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴碩文關與

【要旨】

○詐欺同幫助電氣事業法違反同幫助被告事件

(昭和九年(れ)第一〇六號
 同年三月二十九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 林 作一 辯護人 阿久根幸吉
 【第一審】 大阪區裁判所 【第二審】 大阪地方裁判所

○判示事項

電氣施設變更罪ト電氣妨害罪ト電氣竊盜罪ト詐欺罪

○判決要旨

一 電氣計量器ニ其ノ指針ヲ逆廻轉セシムル器具ヲ取付ケタル行爲
 ハ電氣事業法第三十四條ニ所謂電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル
 罪ニシテ同法第三十三條ニ所謂電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタ
 ル罪ニアラス【要旨第一】
 二 前項ノ場合ニ於テ計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメタルノ情ヲ秘シ

電氣施設變更罪ト電氣妨害罪 電氣竊盜罪ト詐欺罪

之ヲ檢針員ニ示シ電氣料金ノ支拂ヲ免レタル行爲ハ詐欺罪ニシテ電氣竊盜罪ニアラス【要旨第二】

【參照】電氣事業法第三十四條 電氣事業者ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

同法第三十三條 電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

刑法第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス、前項ノ方法ヲ以テ財上產不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

○事實

第二審判決ハ左記事實ノ認定法條ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役十月ニ處シ第一審ノ未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入ス證第一號逆轉器用コード一本ハ之ヲ沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ豫テ電氣器具ノ製作販賣ヲ業ト爲シ居ルモノナルトコロ

第一 電氣事業者カ消費電氣量ヲ計量スル爲各消費者方ニ設置シ居レル電氣計量器ニ取付ケ其ノ指針ヲ逆廻轉セシメテ不法ニ電氣料金ノ支拂ヲ免レシムルニ足ル器具ヲ製作販賣センコトヲ昭和七年三月頃ヨリ昭和八年八月頃ニ至ル間前後二十數回ニ互リ大阪市東淀川區長柄西通一丁目三十六番

地寺岡福五郎方外二十數箇所ニ於テ同人外二十數名ニ對シ夫々注文ニ應シテ各使用ノ目的ヲ知リテ其ノ製作ニ係ル右器具ヲ使用方法教示ノ上賣却シ同人等ヲシテ各自犯意繼續ノ上其ノ間屢々電氣事業者タル大阪市阪神急行電鐵株式會社宇治川電氣株式會社及京都電燈株式會社等ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ同人等方ニ設置シアル電氣計量器ニ之ヲ取付ケ該電氣工作物ノ施設ヲ變更シ因テ右計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメタル後其ノ情ヲ秘シテ之ヲ大阪市電氣局或ハ右諸會社ノ檢針員ニ示シ該指針カ真正ナル消費量ヲ表示スルモノノ如ク誤信セシメテ合計五萬數千キロワットニ對スル料金合計二千數百圓ノ支拂ヲ免レ財產上不法ノ利益ヲ得ルニ至ラシメ以テ同人等ノ右電氣事業法違反竝詐欺ノ各所爲ヲ幫助シ

第二 昭和七年十一月頃ヨリ昭和八年六月頃ニ至ル間犯意ヲ繼續シテ前後二十數回ニ互リ大阪市東淀川區元今里北通三丁目十番地ナル當時ノ自宅ニ於テ濫ニ電氣事業者タル阪神急行電鐵株式會社ノ承諾ヲ得スシテ其ノ設置ニ係ル電氣計量器ニ該計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシムルニ足ル自己製作ノ逆轉用コード(證第一號)ヲ取付ケテ右電氣工作物ノ施設ヲ變更シ以テ其ノ都度右計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメタル後其ノ情ヲ秘シテ之ヲ前記會社ノ檢針員ニ示シ前同様誤信セシメ因テ合計約四百キロワットニ對スル料金合計約十六圓ノ支拂ヲ免レ以テ財產上不法ノ利益ヲ得タルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中各電氣事業法違反幫助ノ點ハ夫々刑法第六十二條第一項昭和六年法

律第六十一號電氣事業法第三十四條刑法第五十五條ニ該當シ各詐欺幫助ノ點ハ夫々刑法第六十二條第一項第二百四十六條第二項第一項第五十五條ニ該當スルトコロ右各電氣事業法違反幫助ト詐欺幫助トノ間ニハ何レモ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ夫々刑法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ各重キ詐欺幫助ノ罪ノ刑ニ從フヘク右ハ各從犯ナルヲ以テ夫々刑法第六十三條第六十八條第三號ニ則リ法定ノ減輕ヲ爲シ又電氣事業法違反ノ點ハ前記電氣事業法第三十四條刑法第五十五條ニ該當シ詐欺ノ點ハ刑法第二百四十六條第二項第一項第五十五條ニ該當スルトコロ右電氣事業法違反ト詐欺トノ間ニハ互ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項後段第十條ニ依リ重キ詐欺ノ罪ノ刑ニ從フヘク以上各罪ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ依リ最モ重キ前記詐欺罪ノ刑ニ基キ法定ノ加重ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處シ同法第二十一條ヲ適用シ原審ニ於ケル未決勾留日數中十日ヲ右本刑ニ算入シ押收ニ係ル證第一號逆轉器用コード一本ハ本件電氣事業法違反ノ行爲ニ供シタルモノニシテ犯人以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人阿久根幸吉上告趣意書一ハ原判決ハ擬律錯誤ノ違法アル判決ナリト思料ス(イ)即原判決ノ趣旨ハ被告人ハ(一)電氣事業者カ消費電氣料ヲ計量スル爲各消費者方ニ設置シ居レル電氣計量器ニ取付ケ其ノ指針ヲ逆廻轉セシメテ不法ニ電氣料金ノ支拂ヲ免レシムルニ足ル器具ヲ製作販賣センコトヲ企テ昭和七年三月頃ヨリ同八年六月下旬ニ至ル間前後二十九回ニ互リ北側已之助外二十八名ニ對シ夫々注文ニ應シテ各使用ノ目的ヲ知りナカラ其ノ製作ニ依ル逆轉器ヲ賣却シ同人等ヲシテ阪急電氣株式會社等ノ承諾ヲ得スシテ濫ニ同人等方ニ設置シアル電氣計量器ニ之ヲ取付ケ該電氣工作物ノ施設ヲ變更シ云々(二)昭和七年十一月頃ヨリ同八年六月頃ニ至ル迄二十數回ニ互リ自宅ニ於テ阪急電鐵株式會社ノ承諾ヲ得スシテ其ノ設置ニ係ル電氣計量器ニ該計量器ノ指針ヲ逆轉セシムルニ足ル自己製作ノ逆轉器用コードヲ取付ケテ右電氣工作物ノ施設ヲ變更シ云々ト判示シ被告人ニ對シ電氣事業法第三十四條ヲ適用シ處斷セラレタリ然レトモ被告人等カ判示ノ逆轉器ヲ電氣計量器ニ取付ケタルハ單ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタルニ止マラス之ニ依リ電氣ノ供給ヲ妨害シタルモノニシテ電氣事業法第三十四條及同第三十三條ノ規定ヲ適用處斷スヘキモノト信ス即同法第三十三條ニハ電氣工作物ヲ損壞シ之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタルモノハ云々ト規定セリ而シテ其ノ電氣ノ供給ヲ妨害ストハ廣ク一般公衆ニ對スル電氣ノ供給ヲ妨害スルハ勿論特定ノ消費者其ノ者ニ對スル電氣事業者ノ電氣ノ供給ヲ妨害スル場合ヲモ包含スルモノトス本件ニ付考フルニ被告人及被

告人ヨリ本件逆轉器ヲ買求メタル北側已之助外二十八名ハ夫々該逆轉器ヲ使用シテ自宅ニ設置シアル電氣計量器ニ之ヲ取付ケ其ノ指針ヲ逆廻轉セシメタルモノニシテ結局同人等ニ對スル電氣事業者ノ電氣ノ完全ナル供給ヲ妨害シタルモノト謂ハサルヘカラスサレハ被告人等ノ本件行爲ニ對シテハ同法第三十三條ノ規定ヲモ適用スヘカリシモノナルニ拘ラス原審ハ單ニ工作物ノ施設ヲ變更シタリト爲シ同法第三十四條ノミヲ適用處斷シタルハ不當ニ法律ヲ適用セサル違法アリテ到底破毀ヲ免レサルモノト信ス(ロ)尙原判決ハ前記ノ事實ヲ認定シ被告人ハ北側已之助等カ該逆轉器ヲ使用シテ電氣工作物ノ施設ヲ變更シ其ノ都度計量器ノ指針ヲ逆轉セシメタル後其ノ情ヲ祕シ右會社等ノ檢針員ニ示シ該指針カ真正ナル消費量ヲ指示スルモノノ如ク誤信セシメ其ノ料金ノ支拂ヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得ルニ至リタル詐欺ノ所爲ヲ幫助シ又自己ニ於テモ同様手段ニヨリ不法ノ利益ヲ得テ詐欺ヲ爲シタル旨認定セラレタリ然レトモ右被告人等ノ所爲ハ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非ス所謂盜電ノ一方法ニシテ竊盜罪及同幫助ヲ以テ律スヘキモノトス何トナレハ被告人等カ前記逆轉器ヲ以テ計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメ其ノ該當消費量ニ對スル料金ノ支拂ヲ免レタリトスルモ之電氣工作物ノ不法變更ニ依ル電氣盜用ノ當然ノ結果ニシテ檢針員ニ對スル欺罔ノ行爲ト謂フヘカラス即其ノ理由ハ例之消費者カ十燭光ノ電氣ヲ使用シ居タルニ會社ノ承諾ヲ得スシ擅テニ五十燭光ヲ取付ケ檢針員ノ檢査ニ當リテハ十燭光ノ電球ニ取替ヘ依然十燭光ヲ使用シ居タルモノノ如ク誤信セシメタリトセンカ之判示ノ如クハ欺罔行爲ト

シテ詐欺罪ヲ構成スヘシ然レトモ御院判例ハ夙ニ之ヲ電氣竊盜トシテ竊盜罪ヲ以テ處斷セラレタリ(御院大正六年刑事判決第一〇五〇頁御參照)本件又此ノ範疇ヲ出テサルモノ即電氣工作物ノ不法變更ニ因リテ電氣ヲ盜用シタルモノニ當該ス然ルニ之ニ對シ詐欺罪及同幫助ヲ以テ處斷シタル原判決ハ不當ニ法律ノ適用ヲ爲シタルモノニシテ破毀セラレヘキモノト信スト云フニアレトモ

原判決ノ認定シタル事實ニ依レハ(一)被告人ハ電氣事業者カ消費電氣量ヲ計量スル爲各消費者方ニ設置シ居レル電氣計量器ニ取付ケ其ノ指針ヲ逆廻轉セシメテ不法ニ電氣料金ノ支拂ヲ免レシムルニ足ル器具ノ製作販賣ヲ爲シ其ノ器具使用ノ方法教示ノ上判示ノ如ク夫々電氣料金ノ支拂ヲ免レ財産上不法ノ利益ヲ得ルニ至ラシメ以テ之ヲ幫助シ(二)被告人ノ自宅ニ於テ同上自己製作ノ逆轉用コードヲ取付ケテ計量器ノ指針ヲ逆廻轉セシメタル後其ノ情ヲ祕シ之ヲ檢針員ニ示シ判示料金ノ支拂ヲ免レ以テ財産上不法ノ利益ヲ得タリト云フニアルヲ以テ電氣事業法第三十三條ニ所謂電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタルモノニアラスシテソノ供給ヲ受ケタル數量ノ計算ヲ欺罔シ其ノ支拂ヲ免レン爲電氣工作物ノ施設ヲ變更シタルニ過キササルモノナルヲ以テ同法第三十四條ニ問擬シタルハ相當ナルノミナラス同法第三十三條ノ刑ハ第三十四條ノ刑ヨリ重キヲ以テ不利益論旨ニ歸シ論旨(イ)ハ理由ナク又右ノ如ク本件ハ實際供給ヲ受ケタル電氣數量ノ計算ヲ欺罔シ消費量ニ對スル支拂ヲ免レタルモノナルヲ以テ電氣竊盜ニアラスシテ詐欺罪ヲ構成スルコト勿論ナリ所論援用ノ當院判例ハ本件ノ如ク計量器ヲ使用

【要旨第二】

電氣施設變更罪ト電氣妨害罪 電氣竊盜罪ト詐欺罪

シタル場合ニアラスシテ所謂常用燈ニ關スルモノナルヲ以テ本件ニ適切ナラス論旨(ロ)モ亦理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松阪廣政關與

○治安維持法違反被告事件(昭和九年(九)第一九號 同年三月三十一日第三刑事部決定 事實審理)

【上告人】 被告人 清水次郎 辯護人 赤松乙也

【第一審】 廣島地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

豫審請求書ノ記載ヲ採用シタル豫審調査ノ證據調

○決定要旨

豫審調査記載ノ被告人ノ供述ノ内容カ豫審請求書ノ記載ト相俟ツニ非サレハ一定ノ意義ヲ有セサル場合其ノ供述ノ内容ヲ罪證ニ供スルニハ該豫審調査ト共ニ豫審請求書ヲモ讀聞ケ被告人ヲシテ之ニ對スル意見反證提出ノ機會ヲ與ヘサルヘカラス

豫審請求書ノ記載ヲ採用シタル豫審調査ノ證據調

【參照】 刑事訴訟法第三百四十條

證據書類ハ裁判長之ヲ朗讀シ若ハ其ノ要旨ヲ告ケ

又ハ裁判所書記ナシテ之ヲ朗讀セシムヘシ

單ニ風説又ハ素行ヲ記載シタル書類ニシテ人ノ名譽ヲ毀損スル虞アルモノハ之ヲ

朗讀スルコトヲ得ス

前項ノ書類ハ之ヲ被告人ニ示シ被告人文字ヲ解セサルトキニ限り其ノ要旨ヲ告ケ

ヘシ

同法第三百四十七條 裁判長ハ各個ノ證據ニ付取調ヲ終ヘタル毎ニ被告人ニ意見ヲ

リヤ否ヲ問フヘシ

裁判長ハ被告人ニ對シ其ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ提出スルコトヲ得ヘキ旨ヲ告ケ

ヘシ

○ 事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及證據ノ說明ヲ爲シ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタリ然ルニ該證據
說明中ニ於ケル被告人ニ對スル第一回豫審調書ノ問答ハ豫審請求書ヲ援用シタル旨ノ記載アルニ過キ
スシテ事實ノ内容調書自體明瞭ナラス

被告人ハ大正十五年三月廣島市白鳥尋常高等小學校高等科ヲ卒業後廣島高等簿記學校ニ入學シ昭和二
年二月同校ヲ卒業シ直ニ豐國火災保險株式會社廣島支店ニ雇ハレ内勤係トシテ勤務中社會問題ニ興味
ヲ持チ左翼文獻ヲ繙讀シ昭和六年八月頃友人井上六右衛門ヨリ共產主義社會ノ解說ヲ受ケ共產主義ヲ

抱懷スルニ至リ日本共產黨カ國際共產黨ノ日本支部ニシテ革命的手段ニ依リ我カ國家存立ノ大本タル
立憲君主制ヲ撤廢シテ國體ヲ變革シ私有財產制度ヲ否認シ無產階級獨裁ヲ經テ共產主義社會ノ實現ヲ
目的トスル祕密結社ナルコト日本共產青年同盟カ前同様ノ目的ヲ有スル祕密結社ナルコト日本勞働組
合全國協議會カ國際赤色勞働組合ノ日本支部ニシテ日本共產黨ノ指導下ニ經濟闘争ヲ激發シテ之ヲ政
治闘争ニ轉化セシメ該闘争ヲ通シ日本共產黨ノ貯水池タル革命的勞働者層ヲ擴大強化シ以テ日本共產
黨ヲ支持シ日本共產黨ノ目的遂行ニ協カスルコトヲ任務トスル革命的勞働組合ナルコト日本赤色救援
會カ國際赤色救援會ノ日本支部ニシテ日本共產黨ノ指導下ニ日本共產黨日本共產青年同盟及日本勞働
組合全國協議會等ノ無產者解放運動ノ犧牲者及其ノ家族ニ對シ精神的物質的援助救護ヲ與ヘ該救援運
動ヲ通シ大衆ヲ動員シ日本共產黨日本共產青年同盟ヲ支持シ其ノ擴大強化ヲ圖ル團體ナルコト並ニ救
援新聞カ日本赤色救援會ノ機關紙ニシテ其ノ綱領政策ヲ大衆ニ宣傳煽動シ其ノ擴大強化ヲ圖ル役割ヲ
有スルモノナルコトヲ知リナカラ無產者ノ解放ハ全ク日本共產黨日本勞働組合全國協議會及日本赤色
救援會等ニ據ルノ外ナキモノト確信シ

第一 (一) 昭和六年十二月頃日本勞働組合全國協議會日本一般使用人廣島支部官廳分會責任者島本
隆司ヲ介シテ右廣島支部ニ加入シ同支部金融分會責任者ト爲リ金融方面ニ於ケル同志獲得ノ任務
ヲ擔當シ其ノ頃ヨリ昭和七年二月末頃迄ノ間數回廣島市船入町河野某方外數個所ニ開カレタル同

豫審請求書ノ記載ヲ援用シタル豫審調書ノ證據

支部委員會ニ出席シテ同志ト共ニ歳末闘争、三エルデー闘争、建國祭闘争、選舉闘争、室鑄物工場
労働争議ノ應援激化其ノ他ニ關スル諸般ノ協議ヲ遂ケ同年二月頃村上金彦ノ後ヲ襲ヒテ日本労働
組合全國協議會日本一般使用人組合廣島支部責任者トナリ

(一) 前示闘争方針ノ協議決定ニ基キ

(1) 昭和六年十二月末歳末闘争ニ際シ「滿蒙出兵ト歳末ニ際シテ全廣島ノ一般使用人諸君ニ
檄ス」ト題シタル日本労働組合全國協議會一般使用人組合廣島支部名義ノアジビラ(證一六八
號)約五十枚ヲ人ヲシテ廣島市紙屋町藝備銀行裏門附近ニ撒布セシメ

(2) 昭和七年一月中頃三エルデー闘争ニ際シ「勝利ニ眠ツタレニント全勤勞大衆ノ爲ニ闘ヒ
虐殺サレタカールローサ記念日ノデモストデ闘ヘ」等ノスローガンヲ掲ケタル前同支部名義ノ
傳單(證第一七〇號)三、四十枚ヲ廣島市公會堂附近ニ撒布シ

(3) 同年二月中頃衆議院議員總選舉ニ際シ「日本共產黨公認候補者市川忍強盜戦争絶對反對勞
働者農民兵士ノ政府ヲ作レ」等記載シタル日本労働組合全國協議會廣島地方支部協議會名義ノ
傳單(證第九號)五、六十枚ヲ島本隆司ト共ニ廣島市宇品方面ニ貼付シ又「日本共產黨候補者市
川忍ニ投票シロ、ブルジョア議會ヲ叩キツプセ、労働者農民ノ政府ヲ作レ」等ノスローガンヲ
掲載シタル日本労働組合全國協議會一般使用人組合廣島支部名義ノ二種ノ小切手ビラ(證第一

四九號)約五、六十枚宛ヲ廣島縣廳廣島市廳附近ノ電柱壁等ニ貼付シ

(4) 同年同月末頃廣島市三條通室鑄物工場ニ労働争議勃發スルヤ他ノ同志數十名ト共ニ同町同
工場主居宅附近ニ於テ示威運動ヲ敢行シ且日本労働組合全國協議會日本一般使用人組合廣島支
部加盟員ヨリ右争議應援基金ヲ募集シテ争議團ニ贈リ争議ヲ激化展開セシメ

第二 昭和六年十二月頃日本赤色救援會廣島地區責任者仁井田教一ノ勸誘ニ依リ同地區ニ加入シ同地
區街頭第六班ノ責任者ト爲リテ同志獲得ノ任ニ當リ又同地區ト日本労働組合全國協議會、日本通信
労働組合廣島支部並同日本一般使用人組合廣島支部間ノレポータートシテノ任務ニ服シ

(一) 同年十一月、二月頃二回ニ亙リ廣島市白鳥町田谷春雄方ニ開催セラレタル日本赤色救援會廣島
地區ノ班代表會議ニ出席シ廣島刑務所ニ服役中ノ左翼運動ノ犠牲者大草玄ノ罰金代納ノ件等ニ付
協議ヲ爲シ又昭和七年三月三日夜仁井田教一、田谷春雄ト共ニ日本赤色救援會廣島地方班代表者
會議ヲ同市福島町榎井方ニ開キ組織部アデプロ部救援部慰安部會計部ノ編成及其ノ擔當者ヲ決定
シ市川忍等ノ治安維持法違反被告事件ノ公判闘争基金募集其ノ他未組織大衆ニモツブル(日本赤
色救援會)ノ意義ヲ徹底セシメテ一層ノ躍進ヲ遂クヘキコト等ニ付協議ヲ遂ケ

(二) 同年十一月頃ヨリ昭和七年三月頃迄ノ間日本赤色救援會中央委員會ヨリ送付ヲ受ケタル救援
新聞救援ニュース其ノ他ノ印刷物及日本赤色救援會廣島地區委員會並同地方委員會作成ノ救援ニ

ユース其ノ他ノ印刷物ヲ同地區及地方ノメンバーニ配布シ右メンバーヨリ救援基金ヲ徴シ自ラモ基金若干ヲ醜金シ又昭和七年一月頃治安維持法違反ノ被告人小笠原豊 胡川清 五條俊夫ノ各家族ヲ順次訪問シテ慰安シ救援ニユースヲ交付シテ其ノ組織ノ擴大強化ノ爲熱心ナル活動ヲ爲シ以テ日本共産黨ノ前記目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタルモノナリ

證據ヲ案スルニ判示事實中
冒頭ノ部分ハ

一 被告人ニ對スル第二回豫審調書中被告人ノ供述トシテ日本共産青年同盟カ判示目的ヲ有スル秘密結社ナルコト日本勞働組合全國協議會カ國際赤色勞働組合ノ日本支部ニシテ判示鬭爭ヲ通シ判示勞働者層ヲ擴大強化スル目的ヲ有スルモノナルコト及日本赤色救援會カ與フル救助救護カ精神的物質的ナルコトヲ被告人ニ於テ知レル點ヲ除キ右ト同趣旨ノ記載

一 同第一回豫審調書中被告人ノ供述トシテ讀聞ケル豫審請求書中自分カ日本勞働組合全國協議會一般使用人組合廣島支部ニ加盟シタルハ自分ヨリ島本隆司ニ頼ミ加盟シタルモノナリ又昭和七年三月初旬日本赤色救援會廣島地區委員會班代表者ヲ樋井某方ニ招集シタルハ班代表者ノミナラス平會員及會員外ノモノモ集メタルモノナルカ其ノ他ノ同決定書記載ノ事實ハ全部其ノ通り相違ナキ旨ノ記載及右引用ニ係ル昭和七年六月十日附豫審請求書中日本勞働組合全國協議會カ判示日本支部ニシテ

判示鬭爭ヲ通シ判示勞働者層ヲ擴大強化スルモノナルコト日本共産青年同盟カ判示目的ヲ有スル秘密結社ナルコト及日本赤色救援會ノ與フル援助救護カ精神的物質的ナルコトヲ被告人ニ於テ知り居リタル旨ノ記載アルニ徴シ之ヲ認メ

(後略)

○主 文

本件ニ付事實ノ審理ヲ爲ス

○理 由

辯護人赤松乙也上告趣意書第三點原判決ハ公判ニ於テ被告ニ讀聞ケサル昭和七年六月十日附豫審請求書中ノ記載ヲ援用シ判示事實中冒頭掲記部分ニ對スル認定ノ資料トセラレタルハ違法ノ裁判ト存候(原審公判調書中之ヲ引用シタル豫審調書ヲ讀聞ケタル旨ノ記載アルモ豫審請求書ヲ讀聞ケタル旨ノ記載ナシ)ト云フニ在リ

仍テ原審公判調書ヲ閱スルニ原審裁判長ハ所論被告人ニ對スル第一回豫審訊問調書ノ證據調ヲ爲スニ當リ所論豫審請求書ヲ公判廷ニ顯出セシメ之ヲ被告人ニ讀聞ケ意見辯解ヲ徵シタル事迹ノ認ムヘキモノナシ果シテ然ラハ原審カ本件ノ犯罪事實ノ證據トシテ採用シタル被告人ニ對スル第一回豫審調書中

【要旨】
 ノ供述記載ハ所論豫審請求書記載ノ犯罪事實ト相俟ツニ非サレハ其ノ意義不明瞭ナルコト勿論ナルカ故ニ斯カル場合該豫審調書ニ於ケル被告人ノ供述ノ内容ヲ罪證ニ供セントセハ其ノ證據ノ取調ヲ爲スニ當リ須ラク豫審調書中ノ問答ヲ讀聞カスヘキハ勿論之ト共ニ豫審請求書中ノ記載事實ヲモ讀聞カセ被告人ヲシテ之ニ對スル意見辯解ヲ爲スノ機會ヲ與ヘサルヘカラサルニ不拘原判決ニ於テハ前敍ノ如ク所論豫審請求書ヲ被告人ニ對シ讀聞カスコトヲ爲サス單ニ豫審調書ノミニ付證據調ヲ爲シ然カモ所論ノ如ク被告人供述ノ内容ヲ罪證ニ供シタルハ不法ニシテ本論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス而シテ敍上探證法則ノ違反ハ事實ノ確定ニ影響ヲ及ホスヘキモノナルカ故ニ爾餘ノ上告論旨ニ對スル說明ヲ省キ刑事訴訟法第四百四十條ニ則リ主文ノ如ク決定ス
 檢事平井彦三郎關與

○產婆規則違反被告事件 (昭和八年(九)第一九九九號 破毀自判)
(同九年三月三十一日第三刑事部判決)

【上告人】 被告人 中島 利二 辯護人 島岡利二
 原審辯護人 島岡利二

【第一審】 前橋區裁判所 【第二審】 前橋地方裁判所

○判示事項

褥婦ニ對スルカンフル液ノ注射ト產婆規則第七條ニ所謂臨時救急ノ手當

○判決要旨

產婆力分娩ヲ取扱ヒタル後褥婦ノ顔面口唇蒼白ト爲リ脈搏頻數微弱時々結滯ヲ呈スル場合之ニ立會シタル產婆ニ於テ臨時救急ノ處置トシテ患者ニ對シカンフル液ノ注射ヲ爲ス力如キハ一種ノ緊急避難行爲ニシテ產婆規則第七條但書ニ所謂臨時救急ノ手當ヲ爲シタルモノニ該當シ法律上罪ト爲ルヘキモノニ非ス

【參照】 產婆規則第七條 產婆ハ妊婦產婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ醫師ノ診療ヲ請ハシムヘシ自ラ其ノ處置ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス
 同規則第八條 產婆ハ妊婦產婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ產科器械ヲ用テ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニ在ラス

褥婦ニ對スルカンフル液ノ注射ト產婆規則第七條ニ所謂臨時救急ノ手當

同規則第十六條 左ニ掲クル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
五 第七條乃至第九條ノ二ニ違背シタル者

看護婦規則第六條 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ授與シ若ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得ス但シ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニ在ラス

刑法第三十七條 自己又ハ他人ノ生命身體自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其ノ行爲ヨリ生シタル害其ノ避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得
前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ヲ認定シ辯護人及被告人ノ主張ヲ排斥シタル上左記ノ如ク法律ヲ適用シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スル旨有罪ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ產婆ニシテ前橋市ナル肩書住居地ニ於テ其ノ業務ニ從事中昭和八年四月三十日同市才川町二百五十二番地神田ハル方ニ於テ關根キミノ分娩ヲ取扱ヒタル際キミカ男兒分娩後同日午後三時頃顔面口唇蒼白トナリ脈搏頻數微弱時々結滯アリテ異常ノ状態ニ在リタルヲ認め乍ラ醫師ノ診療ヲ請ハシメスシテ自ラ右キミニ對シ助手吉川キミヲシテ「カンフル」液ノ注射ヲ爲サシメ以テ藥品ヲ投與シタル

モノナリ

辯護人ハ被告人ノ判示注射行爲ヲ以テ產婆規則第七條但書ニ所謂臨時救急ノ手當タルノミナラス被告人並助手吉川キミハ共ニ看護婦ノ資格ヲ有セル者ニシテ看護婦規則第六條但書ニ依ルモ救急手當トシテ判示ノ如キ注射ヲ爲シ得ヘク從テ孰レヨリ論スルモ犯罪ヲ構成セサル旨主張スルモカンフル注射カ施樂ノ方法ニシテ醫療行爲ニ屬スルコト疑ナク而シテ產婆ニ對シ正規分娩ト異常分娩トヲ問ハス產科器械ノ使用藥品ノ投與其ノ指示等ヲ禁止セルコトハ產婆規則第八條ニ依リ明白ナルヲ以テ被告人ノ判示カンフル注射カ同條ニ違反セルコト論ヲ俟タス唯同規則第七條但書ニ於テ臨時救急ノ手當云々ト規定シ恰モ產婦等ニ異常アル場合注射ノ如キ醫療行爲ヲモ認容シタルカ如キ觀アリト雖同第七條ハ法文自體ニ明示セル如ク妊婦產婦胎兒生兒等ニ異常アルトキ產婆ニ對シ之カ處置ヲ爲スコトヲ禁シタルカ故ニ急迫ナル場合ニハ產婆ノ助産行爲ノ範圍ニ於テ臨時救急ノ手當ヲ爲スヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ第八條ニ於テ禁止セル醫療行爲迄モ許容シタルモノニアラスト解スルヲ妥當トシ從テ同但書ニ依リ其ノ無責任ヲ主張スルハ當ラス又被告人カ看護婦試驗ニ合格シ之カ資格ヲ有セルコトハ其ノ當公廷ニ於ケル自供ニ依リ之ヲ認め得ルモ而カモ被告人ハ其ノ免許ヲ受ケ之カ業務ニ從事セル者ニアラサルコト並ニ看護婦トシテ前示褥婦關根キミノ看護ニ從事シタルモノニアラサルコトハ亦其ノ自供ニ依リ明ナルノミナラス神田ハルニ對スル檢事聽取書其ノ他前掲證據ニ依ルモ判示褥婦ノ當時ノ容態カ市内ノ

褥婦ニ對スルカンフル液ノ注射ト產婆規則第七條ニ所謂臨時救急ノ手當

醫師ノ診療ヲ請フヘク一刻ヲモ猶豫シ得サルカ如キ急迫ノ状態ニアラサリシコトヲ窺フニ足ルヲ以テ看護婦規則ニ所謂臨時救急ノ手當ヲ要スル場合ナリシモノトモ認め難ク加之右看護婦規則ニ所謂臨時救急ノ手當モ亦治療器械ノ使用藥品ノ投與ノ如キ醫師ノ職分ニ屬スル行爲マテヲモ看護婦ニ許シタル法意トハ認め難キヲ以テ此ノ點ノ辯護人ノ主張モ亦採用セス

尙被告人ハ褥婦關根キミノ危急状態ヲ救助センカ爲己ムヲ得サルニ出テタル行爲ナルカ如キ趣旨ノ主張ヲ爲スモ斯ノ如キ状態ナリシモノト認め難キコト前示證據ニ依リ明ナルヲ以テ該辯護モ亦採用セス

法律ニ照スニ被告人ノ判示所爲中醫師ノ診療ヲ請ハシメサリシ點ハ產婆規則第七條第十六條第五號ニ「カンフル」注射ヲ爲シタル點ハ同規則第八條第十六條第五號ニ各該當スル處右ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十八條第二項ニ則リ各罪ニ付定メタル罰金ノ合算額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處シ同法第十八條ニ則リ該罰金不完納ノ場合ニ於ケル勞役場留置期間ヲ定ムヘキモノトス

○主 文

原判決ヲ破毀ス
被告人市ハ無罪

○理 由

辯護人島岡利二上告趣意書原判決ヲ破毀シ相當御裁判ヲ求ム第一本件ニ於テ被告人中島市カ產婦關根キミノ分娩後助手吉川キミヲシテカンフル注射ヲナサシメタル事實ハ爭ナキ點ニシテ通常ノ場合ニ於テ產婆カ產婦ニ對シカンフル注射ヲナスカ如キハ產婆規則第七條第八條ニ抵觸シ刑罰ノ責任ヲ負フヘキモノナルコトモ爭ナキ點ナリ原判決ハ「關根キミカ分娩後顔面口唇蒼白トナリ脈搏頻數微弱時々結滯アリテ異常ノ状態ニアリタルヲ認めナカラ醫師ノ診療ヲ請ハシメスシテ自ラ右キミニ對シ助手吉川キミヲシテ「カンフル」液ノ注射ヲナサシメ以テ藥品ヲ投與シタル」事實ヲ認定シ醫師ノ診療ヲ請ハシメサリシ點ハ產婆規則第七條第十六條五號ニ「カンフル」注射ヲナシタル點ハ同法第八條第十六條第五號ニ該當スルモノトナシ罰金二十圓ノ刑ヲ言渡シタリ然レトモ本件カンフル注射ハ產婦關根キミカ昭和八年四月三十日男子分娩後間モナキ午後三時頃顔面口唇蒼白トナリ脈搏頻數時々結滯アリテ產婦ノ容態危險ニシテ醫師ノ來診ヲマツニ於テハ事態回復スヘカラスト感シ緊急處置トシテカンフル注射ヲナサシメタル事案ニシテ事態緊急行爲タルノ事情ニアリテ本來刑罰責任阻却ノ原因アルモノニシテ產婆規則第七條但書ハ右ノ如キ緊急ノ場合ニ於テハ產婆トシテ爲シ得ヘキ處置ノ限界ヲ越ユルモ刑罰責任ヲ阻却スヘキ當然ノ事理ヲ示シタルモノニシテ辯護人ハ本件注射ハ之ニ該當スルカ故ニ責任ナシト辯護シタルモノナリ原判決ハ此ノ點ニ關シ「カンフル」注射カ施藥ノ方法ニシテ醫療行爲ニ屬スル

褥婦ニ對スルカンフル液ノ注射ト產婆規則第七條ニ所謂臨時救急ノ手當

コト疑ナク而シテ産婆ニ對シ正規分娩ト異常分娩トヲ問ハス産科機械ノ使用藥品ノ投與其ノ指示ヲ禁止スルコトハ産婆規則第八條ニ依リ明白ナルヲ以テ被告人ノ判示カンフル注射カ同條ニ違反スルコト論ヲ俟タス唯同規則第七條但書ニ於テ臨時救急ノ手當ハコノ限ニアラスト規定シ恰モ産婦等ニ異常アル場合注射ノ如キ醫療行為ヲモ認容シタルカ如キ觀アリト雖同第七條ハ法文自體ニ明示セルカ如ク婦產婦胎兒生兒等ニ異常アルトキハ産婆ニ對シ之カ處置ヲ禁スルカ故ニ急迫ナル場合ニハ産婆ノ助産行為ノ範圍ニ於テ臨時救急ノ手當ヲナスヘキ旨ヲ定メタルモノニシテ第八條ニ於テ禁止セル醫療行為迄モ許容シタルモノニアラスト解スルヲ妥當トス一ト判示シ辯護人ノ右辯疏ヲ排斥シタレトモ同法第八條ニ於テ禁止セル以外ノ手當處置ハ助産行為トシテ當然ナシ得ヘキコトニシテ(子宮ノ冷又ハ氷温子宮底ノ摩擦導尿等)同法第七條但書ハ産婆トシテ立會スルコトアルヘキ産婦等ノ緊急状態ニ於テハ同法第八條第七條ノ限界ヲ越ユルコトアルモ罰セラレサルノ法意ナリト解スヘキハ正當ナル解釋ト言ハサルヘカラス看護婦規則第六條ニ看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療機械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ投與シ若クハ之カ指示ヲ爲スヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニアラスト規定セルト一般急救ノ場合ニ限り緊急行為トシテ業務限界ヲ越ユルモ刑責ヲ問ハサル趣旨ナリト解スヘキモノトス然ラハ原判決ハ産婆規則ノ解釋ヲ誤リ被告人ニ對シ不利益ナル判決ヲナシタル違法アリト云ヒ一第二被告人ハ看護婦ノ資格ヲ有シ本件被告人ノ助手吉川キミモ看護婦トシテ現ニ其ノ業務ニ從事

シ居ルコトハ判決モ之ヲ認メ且證據ニヨリテ爭ヒ難キ事實ナリ(吉川キミ檢事聽取書)辯護人ハ此ノ點ニ關シ前示看護婦規則第六條ヲ引用シ假リニ産婆規則第七條但書ノ解釋カ原判決ノ通りナリトスルモ看護婦規則第六條ニヨリ本件注射ハ明ニ救急處置トシテナシ得ヘキモノナルヲ以テ責任ナシト辯疏シタルニ對シ原判決ハ被告人カ看護婦トシテ注射ヲナシタルニアラサルコトヲ判示シ辯護人ノ主張ヲ排斥シタリ然レトモ自ラ現ニ看護婦ヲ業トセル吉川キミト看護婦ノ資格アル被告人トカ救急處置トシテナシタル注射カ何故看護婦規則第六條ノ適用ヲ受ケサルヤ明ナラス助産ニ於ケル救急處置ト看護ニ於ケル救急處置トニ於テ法條ノ適用ヲ別ニスヘキ理由ナシ而モ原判決ハ以上法文ノ解釋ニヨリ辯護人ノ辯疏ヲ排斥シタル後「産婦當時ノ容態カ市内ノ醫師ノ診療ヲ請フヘク一刻モ猶豫シ得サルカ如キ急迫ノ状態ニアラサリシコトヲ窺フニ足ルヲ以テ看護婦規則第六條臨時救急ノ手當ヲ要スル場合ナリシモノトモ認メ難シ」ト判示シタリ即前ニハ産婆規則第七條但書ノ救急手當ハ注射ヲ含マストシテ辯護人ノ辯疏ヲ排斥シ後ニハ本件事實ハ看護婦規則ニ所謂臨時救急ノ場合ニアラストシテ辯護人ノ主張ヲ排斥シタルモノナレトモ産婆規則適用ニ關スル事實(救急處置ノ點)ノ認定不明ナリ更ニ原判決ハ「看護婦規則ニ所謂臨時救急ノ手當モ亦治療機械ノ使用藥品投與ノ如キ醫師ノ職分ニ屬スル行為迄ヲモ看護婦ニ許シタル法意トハ認メ難シ」ト附加シタリ然レトモ同法第六條本文ニ「看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療機械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ投與シ若クハ之カ指示ヲ爲スヲ得

「トアリ其ノ但書ニ於テ臨時救急ノ手當ハ此ノ限ニアラストアルカ故ニ救急ノ場合ニハ本文ノ制限ヲ除外スル法意ト解スルノ外ナシ原判決ハ此ノ點ニ付理由不備及法ノ解釋ヲ誤リ被告人ニ不利ナル判決ヲナシタル違法アリト云ヒ」第三辯護人ハ前陳ノ如ク產婆規則第七條但書ノ救急手當ハ即刑法上ノ緊急行爲ノ原則ヲ示シタルモノニシテ此ノ場合ニ於テ產婆ハ職務ノ限界ヲ越ユルモ刑責ヲ負フコトナキ當然ノ事理ヲ主張シタルモノナリ而シテ原判決ハ「被告人ハ產婦關根キミノ危急状態ヲ救助センカ爲止ムヲ得サル行爲ナルカ如キ趣旨ノ主張ヲナスモ斯ノ如キ状態ナリシモノト認メ難キコト前示認定ニヨリ明カナルヲ以テ該辯疏モ採用セス」ト判示シタリ而シテ緊急行爲ニアラスト認定シタル證據ハ被告人ノ陳述及檢事聽取書吉川キミ檢事聽取書中「被告人ニ命セラレ關根キミニ對シカンフル注射一グラムヲ注射シタル」旨ノ供述田村利三郎(產婦ノ夫)ノ檢事聽取書中「被告人ハ醫師ヲ頼ンテクレト言ヒタルコトナキ」旨ノ供述加藤モト檢事聽取書中「注射後三十分位シテ產婦ノ顔色モ出テ來タカラ段々ヨクナルテセウトイヒテ歸リ云々」ノ供述及產婦ノ母神田ハル檢事聽取書供述ナリ然レトモ右ノ證據ニ依リテハ被告人カ注射ヲナサシメタル事實及醫師ノ診療ヲ請ハシメサリシ事實ハ或ハ認メ得ヘケンモ(現ニ原判決ハ右神田ハル供述ヲ除ク其ノ餘ノ前示證據ニヨリ右事實ヲ認メタリ)注射當時關根キミノ容態カ危急状態ナリシヤ否ヤヲ認定スル資料タリ得ルモノニアラスト原判決カ緊急状態ニアラスト認メタル證據ハ神田ハル檢事聽取書中「素人ノ私カラ見テ今ニモ死ニサウニハ見エマセンテシ

タ其ノ時キミノ容態ハソレ程重クナカツタ様ニ思ヒマスノテ醫師ノケルノカ問ニ合ハナイ様ナコトハナカツタト思ヒマス」ノ供述ナリ而モハルハ死亡者ノ母ニシテ素人ナリ然レトモ產婦ノ容態カ危急ナリヤ否ヤハ其ノ當時ノ醫學的所見ニ據ラサルヘカラスサレハコソ第一審判決ハ本件カンフル注射ノ後產婦ヲ診察シタル醫師大原均及產婦ノ臨終ニ立會セル醫師小池元三郎ノ證言ヲ採用シ緊急行爲ト認メ被告人ニ無罪ヲ言渡シタルナリ大原產科醫ハ本件注射後一時間内ニ於テ產婦ヲ診療シ同シクカンフル注射ヲナシタリ而シテ「危険状態カ續イタカ」トノ判事ノ問ニ對シ「重大ナ状態テシタカ直ニ死亡スルカトウカソレ程トハ思ヒマセンカ放テ置ケハ危険タト思ヒマシタ」ト答ヘ又「其ノ時關根キミニ產婆カカンフル注射ヲ打タナイ場合ハトウカ」トノ問ニ對シ「確的ニハ申上ケル譯ニイキマセンカ此ノ場合ハ注射シタ方カ良カツタト思ヒマス」ト答ヘ又「當時關根キミニハ死亡スルトハイヘナイカ放テ置ケハ危険テアツタト思ヒマシタ」ト證言セリ而シテ產婦ハ同日午後十時頃死亡シ之ニ立會セル小池醫師モカンフル注射ヲナスノ外ナカリシナリ由是觀之當時產婦カ醫學的ニ危急状態ニアリタルコト又注射カ少クトモ產婦ノ生命ヲ延長シタル事實ハ疑フ餘地ナシ而シテ被告人及吉川キミノ供述ニヨレハ產婦ハ當時顔面蒼白ヲ呈シ口唇又蒼白脈搏百二十ヲ數ヘ微弱ナル上ニ結滯アリ危急ナリト認ムヘキ事情充分ナリ且又前橋市產婆會長吉野わか檢事聽取書ニヨレハ一般ニ斯カル場合產科醫カ三十分又ハ一時間ノ後ニアラサレハ問ニ合ハサル事實ヲ認メ得ヘク田村利三郎神田ハル等ノ供述ニヨレハ產婦ノ家ハ貧

シク問髪ヲ容レヌ醫師ノ診療ヲ求メ得ルカ如キ家庭事情ニアラサル事實ヲ推認シ得ルニヨリ此等ヲ合セテ被告人カ何等ノ私心ナク産婦ノ生命ヲ救助センカ爲緊急處置トシテ本件注射ヲナシタル事實明白ナリ原判決ハ法ノ解釋及事實ノ認定ニ何等ノ確信ナク法ノ解釋ニシテ誤ラハ事實ノ認定ニヨリテ支持シ事實不安ナラハ法ノ解釋ニヨリ之ヲ支持セントシタルモノニシテ有罪ヲ豫定シテ審決シタル疑アルモノトス人ノ容態ヲ認定スルニ當リ全然素人ニシテ而モ産婦ノ夫及母等ノ一片ノ供述ニ基キ醫師ノ所見ヲ全然排斥シタル原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由アルモノトスト云ヒ」第四原判決ハ「當時産婦ノ容態ハ市内ノ醫師ノ診療ヲ請フヘク一刻ヲモ猶豫シ得サルカ如キ急迫ノ状態ニアラサリシコトヲ窺フニ足ル」ト判示シタルトモ醫師ノ診療ヲ請フヘク一刻ヲ猶豫シ得サル急迫トハ如何ナル事實ヲ言フカ死亡ニ至ル間三十分ノ猶豫アリヤ十分ノ猶豫アリヤト言フカ如キコトハ醫學的ニモ斷シ難キ事ニ屬ス要スルニ醫學的ニ見テ近ク死ヲ豫想スル場合之ヲ危急トスル外ナシ原判決ハ前示證據ニヨリ「一刻ヲ猶豫シ得サル急迫ニアラス」ト斷シタルモ之獨斷ニアラサレハ妄斷ナリ此點ニ於テ原判決ハ理由不備ノ違法アルモノトスト謂フニ在リ

仍テ按スルニ原判決ノ確定シタル事實ニ依レハ被告人ハ産婆ニシテ前橋市ナル肩書住所ニ於テ其ノ業務ニ從事中昭和八年四月三十日同市才川町三百五十二番地神田ハル方ニ於テ關根キミノ分娩ヲ取扱ヒタル際キミカ男兒分娩後同日午後三時頃顔面口唇蒼白ト爲リ脈搏頻數微弱時々結滯アリテ異狀ノ状態

【要旨】

ニ在リタルヲ認メナカラ醫師ノ診療ヲ請ハシメスシテ自ら右キミニ對シ助手吉川キミヲシテ「カンフル」液注射ヲ爲サシメ藥品ヲ投與シタリト云フニ在リ由是觀之關根キミハ全ク虚脱ノ容態ニ在リテ救急ノ手當ヲ爲スニ非サレハ生命ニ危険ヲ及ホスヘキ狀況ニ在リタルコトヲ認ムルニ餘リアリトス而シテ患者カ虚脱ノ容態ニ在リタル場合ニ於ケル救急ノ手當トシテハ「カンフル」液注射ヲ以テ最モ適切且有效ノ治療方法ト爲スコトハ實驗法則上明白ナルヲ以テ被告人カ助手吉川キミヲシテ患者關根キミニ「カンフル」液注射ヲ爲サシメタルハ産婆規則第七條但書ニ所謂救急ノ手當ニ該當スルモノトス同規則第八條ニハ産婆ハ妊婦産婦及ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用キ藥品ヲ投與シ又ハ之カ指示ヲ爲スコトヲ得スト規定セリト雖同條ハ産婆ニ對シ本件ノ如キ救急ノ手當ヲ必要トスル場合ニ於テモ「カンフル」液注射ノ如キ藥品ノ投與ヲ禁シタルモノト解スヘキニ非ス蓋若然ラストセハ前條但書ヲ設ケタル趣旨ヲ没却スルニ至レハナリ又原判決ハ其ノ理由ノ後段ニ於テ當時關根キミノ容態ハ救急ノ手當ヲ必要トセサリシカ如キ說示ヲ爲ストコロアリト雖同患者ノ容態ニシテ前記說明ノ如クナル以上ソレ自體救急ノ手當ヲ必要トスヘキ場合ニ該當スルモノト認メ得ヘキニヨリ右後段ノ說示アルノ故ヲ以テ救急ノ手當ヲ必要トスル場合ニ非サリシモノト謂フヲ得ス然カモ敍上被告人ノ行爲ハ刑法第三十七條ノ緊急避難行爲トモ觀察シ得ヘク要之法律上罪ト爲ラサルモノナルニモ不拘原審力之ヲ産婆規則第七條第八條ニ違背スルモノトシ同第十六條ヲ適用處罰シタルハ結局産婆規則等ノ解釋

ヲ誤リ擬律錯誤ノ不法アルモノニシテ上告論旨ハ其ノ理由アリ原判決ハ刑事訴訟法第四百四十七條第
四百四十八條ニ則リ全部破毀ヲ命ジサルト同時ニ本院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス
原判決ノ認メタル事實ハ法律上罪ト爲ラサルニヨリ刑事訴訟法第四百五十五條第三百六十二條ノ規定
ニ從ヒ主文ノ如ク判決ス
檢事棚町丈四郎關與

○有價證券偽造行使有價證券偽造交付欺詐被告事件

(昭和八年(九)第二〇二三號
同九年三月三十一日第三刑事部判決 破毀自判)

【上告人】 被告人 吉田 一雄

【第一審】 直方區裁判所 【第二審】 福岡地方裁判所

○判示事項

優勝馬投票券偽造ト刑法第六十二條

○判決要旨

優勝馬投票券ノ偽造行爲ハ刑法第六十二條ノ有價證券偽造罪ト
爲ラス

【參照】 刑法第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ
有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ
地方競馬規則第十八條ノ二 優勝馬投票入場券、優勝馬投票券及投票證ハ之ヲ讓渡ス
コトヲ得ズ
同規則第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料
ニ處ス
八 第十八條ノ二ノ規定ニ違反シテ優勝馬投票入場券、優勝馬投票券及投票證ヲ讓
渡シ又ハ讓受ケタル者

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定法律ノ適用ヲ爲シ被告人一雄ヲ懲役十月ニ處シ押收物件中寫眞銅版一
個(證第二號)打抜針三本(證第三號)アルミニウム板一枚(證第四號)偽造優勝馬投票券五百十
三枚(證第八號)偽造同投票券千三百八十一枚(證第九號)偽造同投票券六十枚(證第十號)ハ之ヲ

● 優勝馬投票券偽造ト刑法第六十二條

沒收スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

三六四 (六)

第一 被告人市二郎ハ金員ニ窮シタル結果福岡縣直方市大字下境直方競馬場ニ於テ昭和八年春季競馬開催サルルコトヲ機トシテ同縣畜産組合聯合會直方競馬ノ優勝馬投票券ヲ偽造行使シテ利益ヲ獲得スヘク昭和八年五月一日頃豫テ知合ナリシ被告人一雄方ニ於テ同人ニ對シ右優勝馬投票券ヲ共ニ偽造センコトヲ勸誘シ其ノ同意ヲ得タル上當時印刷業ヲ營ミ居タル第一審相被告人倉富金一方ニ到リ更ニ同人ニ對シ情ヲ告ケ其ノ偽造方ヲ依頼シテ同人ノ承諾加入ヲ得以テ第一審相被告人藤井鶴治ヲモ之ニ加擔セシメ以テ被告人市二郎同一雄ハ第一審相被告人金一同鶴治ト共謀ノ上右優勝馬投票券ヲ偽造センコトヲ企テ同月十三日被告人一雄ニ於テ前記競馬會場ヨリ直方競馬會發行ノ優勝馬投票券數枚ヲ買求メ之ヲ第一審相被告人金一ニ交付シ金一ハ之ヲ見本トシテ翌十四日福岡縣八幡市大字大藏九百五十三番地ノ同人印刷所ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ寫真銅版、打抜針、アルミニウム板等ヲ使用シ石版刷穴抜ノ方法ニヨリ擅ニ右福岡縣畜産組合聯合會直方競馬會發行ニ係ル價格一枚金一圓五錢ノ優勝馬投票券約二千百枚ヲ順次ニ作成シテ偽造ヲ遂ケタル上

(第二事實省略)

第三 被告人一雄ハ

(一) 前同日右偽造ニ係ル優勝馬投票券約九百枚ヲ持參シテ前記競馬場ニ赴キ其ノ第九競馬ニ際シ

複式投票トシテ第二號第四號第五號第八號第九號第十二號ノ各競爭馬ニ第十競馬ニ際シ複式投票トシテ第一乃至第十一號ノ各競爭馬ニ第十一競馬ニ際シ複式投票トシテ第二號第三號第五號第七號第八號ノ各競爭馬ニ該偽造投票券ヲ分チテ其ノ幾分宛ヲ投票スヘク右各競爭馬ノ都度夫々順次ニ其ノ競爭馬ノ投票所ニ於テ係員ニ對シ恰モ該投票券カ真正ノモノナルカ如ク裝ヒ内ニ二枚乃至百六十枚宛ヲ一括シテ合計六百九十一枚ヲ提出行使シ因テ右各係員ヲ夫々欺罔シタル上當該係員ヨリ其ノ都度投票數ニ應シタル投票總合計六百九十一枚ノ交付ヲ受ケ之ヲ騙取シ

(二) 同日同競馬場ニ於テ行使ノ目的ヲ以テ前記偽造投票券ノ内約六十枚ヲ其ノ偽造タルノ情ヲ知レル第一審相被告人古城宗吉ニ交付シ

タルモノナリ而シテ被告人ノ各優勝馬投票券ノ偽造各其ノ行使ト其ノ交付各詐欺ノ所爲ハ夫々犯意繼續ニ係ルモノナリ

尙被告人一雄ハ昭和二年十一月二日福岡地方裁判所飯塚支部ニ於テ傷害罪ニ因リ懲役一年ニ處セラレ三年間刑ノ執行猶豫ヲ受ケタルモ昭和三年勅令第二百七十一號ニ依リ右刑ヲ懲役九月ニ變更セラレ次テ昭和四年五月十七日飯塚區裁判所ニ於テ恐喝罪ニ因リ懲役八月ニ處セラレタル爲同年六月十九日右執行猶豫ヲ取消サレテ當時兩者ノ刑ニ付執行ヲ受ケ更ニ昭和六年六月十日大分區裁判所ニ於テ恐喝賭博罪ニ因リ懲役五月罰金五十圓ニ處セラレ其ノ懲役刑ノ執行ヲ終リタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人一雄ノ所爲中優勝馬投票券偽造ノ點ハ各刑法第六十二條第一項ニ其ノ行使及交付ノ點ハ各同法第六十三條第一項ニ詐欺ノ點ハ各同法第二百四十六條第一項ニ夫々該當スル所右各偽造優勝馬投票券ヲ一括シテ行使又ハ交付シタル點ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ夫々犯情重キ上部ノ一枚ヲ行使又ハ交付シタル罪ノ刑ニ從ヒ尙各優勝馬投票券ノ偽造各其ノ行使ト交付各詐欺ハ何レモ犯意繼續ニ係ルト共ニ優勝馬投票券ノ偽造ト其ノ行使及詐欺トノ間ニハ順次ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ同法第五十四條第一項後段第五十五條第十條ヲ同時ニ適用シ結局重キ偽造優勝馬投票券行使ノ罪ニ付定メタル刑ニ從ヒ前示前科アルヲ以テ同法第五十九條第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シタル上各其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人一雄ヲ懲役十月ニ處スヘク押收物件中寫真銅版一個(證第二號)打抜針三本(證第三號)アルミニウム板一枚(證第四號)ハ本件優勝馬投票券偽造罪ノ供用物件ニシテ共犯者タル第一審相被告人倉富金一ノ所有ニ屬シ偽造優勝馬投票券五百十三枚(證第八號)偽造同投票券千三百八十一枚(證第九號)偽造同投票券六十枚(證第十號)ハ同行爲ヨリ生シタルモノニシテ何人ノ所有ヲモ許ササルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第三號第二項ニ則リ之ヲ沒收スヘキモノトス

○主 文

原判決中被告人吉田一雄ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人吉田一雄ヲ懲役十月ニ處ス

押收物件中寫真銅版一個(證第二號)打抜針三本(證第三號)アルミニウム板一枚(證第四號)偽造優勝馬投票券千九百五十四枚(證第八、第九、第十號)ハ之ヲ沒收ス

○理 由

被告人上告趣意書福岡地方裁判所ニ於テ有價證券偽造行使詐欺ノ罪名ノ下ニ懲役十箇月ノ判決ヲ受ケマシタ事件ニ就キマシテ今一應ノ御審判ヲ御願シタイト存シマス馬券偽造ハ果シテ有價證券偽造テ御座イマセウカ當日限り有效ノ其ノ地方タケニ使用サルヘキ馬券カ有價證券トシテノ價值アリヤ否ヤ私ノ思惟スルトコロハ商品券ニ類似ノモノテハナイカト存シマス調書ニ御座イマス通り犯行ノ動機ハ勿論私ノ意思薄弱ニ因リマスカ牟田市二郎氏カラノ切ナル勸誘ニ依リ加擔致シタルモノニシテ當時私ハ病氣ニテ多額ノ借財モアリソレニ七十近イ老父ノ許ニ月々ノ仕送りモ致サネハナラヌ境遇ニアリタル爲罪惡トハ知リツツモ遂ニ其ノ誘惑ニ打負ケ大ソレタ犯行ヲナスニ至リマシタ一人ニ一枚發行ノ投票券ヲ一人ニ對シテ數枚多クハ數百枚ノ發行ヲ公然トナス馬券制度ニモ誘惑サレタ原因ハアルノテス勿論分配サレタ金ハ大半借財ノ辨濟老父ヘノ仕送りニ費消イタルモノテアリマス罪ヲ犯シタ私ハ法ノ裁ヲ受ケテ贖罪ノタメ下獄スルノハ當然ノ事テアリマスカ老先キ短イ父ニ對シテ不孝ヲ重ネ月々ノ仕送りノ杜絶エル事ヲ思フト今更ニ犯シタ罪ノ恐ロシサニ心カラ悔悛慚愧ノ念ニ鞭タレテ居リマス

何卒情狀御酌量ノ上御寛大ナル御判決ヲ御願イ致シマスト云フニ在リ

【要旨】

案スルニ刑法第六十二條ニ規定スル公債證券官府ノ證券會社ノ株券其ノ他ノ有價證券ハ流通性アルヲ常態トスルニ反シ優勝馬投票券ハ其ノ發行ヲ許容スル地方競馬規則ニ於テ之カ讓渡ヲ嚴禁スルモノナリ(同規則第十八條ノ二第二十六條)而シテ判示優勝馬投票券ハ右規則ニ據リ發行セラレタルモノナルコト法規上之ヲ認メ得ヘク原判決ノ確定シタルトコロハ福岡縣畜産組合聯合會直方競馬會發行價格一枚金一圓五錢ノ優勝馬投票券ナリト云フニ在レハ判示投票券ハ全然流通性ヲ缺キ有價證券タルノ特質ヲ具備スルモノニ非サルコト明ナリ然レハ之ヲ普通ノ文書ト認ムルハ格別刑法第六十二條ノ有價證券ナリト斷スルハ早計ニ失ス然ルニ原判決ハ被告人ノ判示文書偽造行爲ニ付刑法第六十二條第一項其ノ行使竝交付行爲ニ付同法第六十三條第一項ヲ適用處斷シタルハ擬律錯誤ノ違法アルモノニシテ破毀ヲ免レス論旨前段ハ結局理由アルニ歸ス

以上ノ理由ナルヲ以テ爾餘ノ論旨ニ對スル説明ヲ省略シ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ヲ破毀シ當院ニ於テ直ニ判決ヲ爲スヘキモノトス

原判決ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人ノ判示第一ノ文書偽造ノ行爲ハ刑法第五百九條第一項第三ノ(一)ノ偽造文書行使ノ行爲ハ同法第六十一條第一項第五百九條第一項詐欺ノ行爲ハ同法第二百四十六條第一項ニ該當シ各偽造文書行使ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ同法第

五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重ト認メタル上部ノ一枚ヲ行使シタル罪ノ刑ニ從ヒ文書偽造其ノ行使竝詐欺ノ行爲ハ夫々連續スルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ且其ノ間手段結果ノ關係アレハ同法第五十四條第一項後段第十條ヲ適用シ最重キ詐欺罪ノ刑ニ從ヒ處斷スヘキ處前科アルヲ以テ同法第五十九條第五十六條第一項第五十七條ニ則リ累犯ノ加重ヲ爲シタル刑期内ニ於テ被告人ヲ懲役十月ニ處シ押收物件中寫真銅版一個(證第二號)打抜針三本(證第三號)アルミニウム板一枚(證第四號)ハ本件犯罪行爲ニ供シ犯人以外ノ者ニ屬セサル物優勝馬投票券千九百五十四枚(證第八第九第十號)ハ同行爲ヨリ生シ何人ノ所有ヲモ許ササル物ナレハ同法第十九條ニ從ヒ之ヲ沒收スヘキモノトス而シテ判示第三ノ(二)ノ交付ハ罪トナルヘキ行爲ニ非サルヲ以テ無罪ナリト雖該事實ハ判示第三ノ(一)ト共ニ一罪トシテ起訴セラレタルモノナレハ特ニ判決ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ要セス

仍テ主文ノ如ク判決ス

檢事平井彦三郎關與

○傷害致死被告事件(昭和九年(九)第一四六號 棄却)

(昭和九年四月二日第二刑事部判決)

【上告人】 被告人 高津春吉 辯護人 秋山常吉

【第一審】 札幌地方裁判所小樽支部 【第二審】 札幌控訴院

○判示事項

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第二項ノ適用範圍

○判決要旨

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第二項ハ殺傷行為カ自己又ハ他人ノ生命身體又ハ貞操以外ノ法益ニ對スル危險ニ關シテ行ハレタル場合ニハ其ノ適用ナキモノトス

【參照】 刑法第二百五條第一項 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條 左ノ各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲メ犯人ヲ殺傷シタルトキハ刑法第三十六條第一項ノ防衛行為アリタルモノトス

- 一 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還セントスルトキ
 - 二 兇器ヲ携帯シテ又ハ門戶牆壁等ヲ踰越損壞シ若ハ鎖鑰ヲ開キテ人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入スル者ヲ防止セントスルトキ
 - 三 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若ハ船舶ニ侵入シタル者又ハ要求ヲ受ケテ此等ノ場所ヨリ退去セサル者ヲ排斥セントスルトキ
- 前項各號ノ場合ニ於テ自己又ハ他人ノ生命、身體又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非ズト雖モ行為者恐怖、驚愕、興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷スルニ名アリタルトキハ之ヲ罰セズ

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ懲役一年ニ處ス押收ニ係ル棍棒(證第一號)ハ之ヲ沒收ス訴訟費用ハ全部被告人ノ負擔トスル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ其ノ肩書邸宅内ニ生立スル櫻桃樹ノ果實カ成熟ノ候トナルヤ盜難ニ罹ル爲メ之カ豫防ニ慮心シ居リタル折柄偶々昭和八年七月五日午後九時半頃同市手宮鐵道官舎鐵道局技手山崎彌吉長男北海道廳立小樽商業學校第四學年生山崎省一郎(大正六年十一月三十一日生當時十七年)カ友人ト共ニ右櫻桃果ヲ竊取シツツアル現行ヲ發見激怒シ被告人ハ此ノ急迫不正ノ侵害ヲ防止スルト共ニ同人等ヲ懲ラシメント欲シ直ニ屋外ニ立出テ有合セタル棍棒(證第一號)ヲ取り密カニ右櫻桃樹ノ根元ニ立チ樹上ノ友人ニ囁キ居タル省一郎ノ許ニ忍ヒ寄り防衛上必要ノ限度ヲ超ユ右棒ヲ以テ同人ノ頭部ヲ數回強打

盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第二項ノ適用範圍

シ頭蓋骨折ニ因ル頭蓋腔内出血ヲ起サシメ因テ同人ヲシテ同月七日午前四時頃同市花園町黒瀬外科病院ニ於テ死亡スルニ至ラシメタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ刑法第二百五條第一項ニ該當スルトコロ同法第三十六條第二項第六十八條第三號ニ則リ其ノ所定刑ヲ減刑シ其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人ヲ懲役一年ニ處シ押收ノ棍棒(證第一號)ハ本件犯罪供用物件ニシテ被告人以外ノ所有ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項第二號第二項ニ則リ之ヲ沒收シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項ヲ適用シテ被告人ヲシテ其ノ全部ヲ負擔セシムヘキモノトス

被告人辯護人ハ本件犯行ハ盜犯防止及處分ニ關スル法律第一條ニ該當スル旨主張スルニ付按スルニ假令被告人カ櫻桃竊取ノ現行ヲ發見シ之ニ激怒興奮シタリトスルモ當時省一郎等ハ櫻桃竊取ニ餘念ナカリシモノニシテ未ダ被告人ノ身體生命ニ對シ何等ノ危險現存シタルニアラス又危險アリト誤認スヘキ事情存シタルニモアラス自ラ進ンテ樹下ニ佇ミ樹上ノ友人ト囁キ居タル省一郎ヲ毆打死ニ致シタルモノナルヲ以テ同條項ニ該當セサルモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人秋山常吉上告趣意書第一點本件被告ノ犯罪ハ原審公判始末書ニ明カナル如ク生花師匠タル被告カ其ノ職業柄植物愛護ノ念強ク偶々自己邸宅内ニアル櫻桃カ樹質良好ニシテ甘美ナル櫻實累累トシテ實ルニヨリ極度ニ之ヲ愛好シ樹ニ鐵條網ヲ卷付ケテ迄テ之ヲ珍護スルニ拘ラス毎年盜取ノ難ニ遇ヒ常ニ憤怒シ居リタル處本件犯行ノ當夜九時半頃盜取者ノ侵入ヲ覺知シ次テ大男二人掛リニテ現ニ之ヲ盜取シツツアルヲ目撃シ愈々憤怒ノ情ニ堪ヘス一面之ヲ防止スルト同時ニ懲ラシテヤラント思慮システツキ大ノ木棒ヲ揮フテ樹下ノ一人(山崎省一郎)ヲ毆打シタルニ「アツ」ト叫ビテ倒レタルニヨリ被告ハ驚キ之ヲ扶ケ起シタルニ直ニ起キ上リタル上俄カニ逃走シ二、三十間離レタル佐藤大助宅迄獨力ニテ逃走シタルモ其ノ當リ所惡シカリシカ或ヒハ又其ノ他ノ事由ノ糺合シタルカ其ノ後被害者ハ重態ニ陥リ而モ其ノ盜取者ハ意外ニモ中等學校ノ學生ナルコトヲ知り被告ハ驚愕悔恨シ自己ノ出費ヲ以テ治療ニ全力ヲ傾ケシメ不幸死亡シテ後ハ金員及僧侶ヲ贈リテ遺族ノ慰藉故人ノ供養ニ努メ遂ニハ自ラ信州善光寺ニ參詣シテ死者ノ冥福ヲ祈ルニ至リタル世ニモ稀ナル錯誤悲劇ナリトス從テ原判決ハ右被告ノ行爲ヲ以テ急迫不正ノ侵害ヲ防止スル爲メニ爲シタル行爲ナリト認定セラレ(判決理由ノ明示)且右行爲ノ當時ニ於テ被告ハ興奮状態ニアリタルモノト認定セラレタルモノナルコトハ事實認定ノ證據トシテ第一ニ舉示セラレタル原審公判ニ於ケル被告人ノ供述ニ「判示櫻桃竊取ヲ發見シ腹カ立ち云々」トアルコト及ヒ判決末尾ニ「假令被告人カ櫻桃竊取ノ現行ヲ發見シ之ニ激怒興奮シタリトス

ルモ云々」トアリ即チ被告ハ激怒興奮ノ状態ニ有リシトハ云ヘ他ノ事由ニヨリ盜犯防止法ニ該當セスト判示セラレタルニ徴シ甚タ明カナリ果シテ然リトセハ本件ノ場合ハ盜犯ヲ防止スル場合ニ於テ行爲者興奮ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ傷害シ死ニ致ラシメタルモノナルヲ以テ正シク盜犯防止等ニ關スル法律第一條第二項ニ該當スルモノニシテ之ヲ罰スルコト能ハサルモノナルニ原判決カ右法令ヲ無視シ被告ニ重罰ヲ科シタルハ法律ヲ不當ニ適用セラレタル違法アリ破毀ヲ免レスト信スト云ヒ」同第二點原判決ハ其ノ末尾部分ニ於テ辯護人カ右法令ニ該當ストノ主張ヲ擧ケテ之ヲ反駁シ假令被告人カ激怒興奮シタリトスルモ當時未タ被告人ノ身體生命ニ對シ何等ノ危險現存シタルニ非ス又危險アリト誤認スヘキ事情存シタルニモ非サルヲ以テ同條ノ適用ナシト斷セラレタリ然レトモ盜犯防止法第一條第二項ニハ明カニ「自己他人ノ身體生命又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險アルニ非スト雖モ」トアリテ右現存危險ナキ場合ニ於テ興奮ニ因リ現場ニ於テ犯人ヲ殺傷シタルモノニ對シ適用スヘキ規定ナルヲ以テ當時被告人ノ身體生命ニ對シ現在ノ危險ナカリシコトハ即チ同條第二項ヲ適用スヘキ場合トコソナレ未タ其ノ危險現存セサリシトノ理由ノ下ニ同條ノ適用カ除外サルヘキ道理ナキモノトス又同條第二項ニハ單ニ行爲者恐怖驚愕興奮又ハ狼狽ニ因リ現場ニ於テ爲シタル殺傷行爲ヲ無罰トストアリテ(一)行爲者カ危險アリト誤認シタルコト且(二)此誤認ヲ正當トナスヘキ事情アル場合ニ限り無罰トスルトノ規定ニ非サルヲ以テ本件行爲ノ當時被告カ危險アリト誤認スヘキ事情存セサリシ一事ニ依リテモ亦同

項ノ適用ヲ除外サルヘキ理由ナキモノトス(不法侵入者ヨリ兇器ヲ取上ケ危險去リタル後尙興奮ニ依リ爲シタル殺傷サヘモ無罰規定ヲ適用セラレタル御院昭和四年(れ)第一四六〇號事件判決判例集九卷十二號刑事九三五頁參照)然ラハ原判決カ本件行爲カ盜犯防止ノ爲メノ行爲ナルコトヲ認メ且興奮ニ因ル現場ノ殺傷ナルコトヲ認メナカラ未タ危險カ現存セサリシコト及ヒ危險アリト誤認スヘキ正當ノ理由事情ナシトノ二事ニ依リ所論ノ無罰規定ヲ適用スルコト能ハストセルハ結局右法條ニ明文以外ノ條件ヲ加ヘ其ノ適用ヲ局限シタルモノニシテ即チ法律ヲ誤解シタル違法アリ破毀ヲ免レスト信スト云フニ在レトモ

原判決ノ認定シタル事實ハ被告人ハ其ノ邸宅内ニ生立スル櫻桃樹ノ果實カ成熟ノ候トナルヤ盜難ニ罹ル爲之カ豫防ニ腐心シタル折柄偶々昭和八年七月五日午後九時半頃北海道廳立小樽商業學校第四年生山崎省一郎(大正六年十一月三十一日生)カ友人ト共ニ右櫻桃果ヲ竊取シツツアル現行ヲ發見激怒シ此ノ急迫不正ノ侵害ヲ防止スルト共ニ同人等ヲ懲ラシメント欲シ直チニ屋外ニ立出テ有合セタル棍棒ヲ取り密ニ右樹下ニ立チ樹上ノ友人ニ囁キ居リタル省一郎ノ許ニ忍ヒ寄り防衛上必要ノ程度ヲ超ヘ右棒ヲ以テ同人ノ頭部ヲ數回強打シ頭蓋骨折ニ因ル頭蓋腔内出血ヲ起サシメ因テ同人ヲシテ同月七日午前四時頃死亡スルニ至ラシメタリト謂フニ在リテ右事實ニ依レハ被告人ノ右傷害致死ノ行爲ハ自己又ハ他人ノ身體生命又ハ貞操ニ對スル現在ノ危險ヲ排除スル爲ニ非サルハ勿論斯ル危險アリト誤認シ

之ヲ排除スル爲ニ爲シタルモノニモ非サルコト明白ナルヲ以テ假令竊盜ノ現行ヲ發見シ之ニ激怒シタルニ因ルモノナリトスルモ盜犯等ノ防止及處分ニ關スル法律第一條第二項ニ該當スルモノニ非ス蓋同條項ハ同條第一項ヲ承ケタル規定ナルヲ以テ殺傷行爲カ自己又ハ他人ノ生命身體又ハ貞操ニ對スル危險ニ關シテ行ハルルニ非スシテ單ニ財產ニ對スル侵害ノ防止ト犯人臍懲トノ爲ニ行ハレタル本件行爲ノ如キモノニ適用スヘキ規定ニ非スト解スルヲ相當トスレハナリサレハ原判決カ被告人ノ本件行爲カ同法條第二項ニ該當スル旨ノ辯護人ノ主張ニ對シテ論旨摘録ノ如キ判斷ヲ示シテ其ノ主張ヲ排斥シ同法條項ヲ適用セス過剰防衛行爲トシテ處斷シタルハ相當ニシテ原判決ニハ所論ノ如ク不當ニ法律ヲ適用シ又法律ヲ誤解シテ不當ニ之ヲ適用セサル違法アルモノニ非ス論旨孰レモ理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
 檢事柴碩文關與

○醫師法違反被告事件(昭和八年(九)第二〇四五號 棄却)
(同九年四月五日第一刑事部判決)

【上告人】 被告人 吉田久右衛門 辯護人 藤井剛士
 【第一審】 福井區裁判所 【第二審】 福井地方裁判所

○判示事項

蛭及吸角ヲ使用シテ血液ヲ吸出スル行爲ト醫行爲

○判決要旨

吸角(俗ニ吸フクベト稱スル玻璃器)ニ蛭ヲ入レ患部ノ血液ヲ吸收セシメタル後更ニ點火シタル燐寸ヲ右吸角ニ入レ之ヲ患部ニ差當テ血液ヲ吸出スル行爲ハ外科的手術ノ範圍ニ屬スル醫行爲ナリトス

【參照】 醫師法舊第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者、停止中醫業ヲ爲シタル者又ハ第五條、第六條、第七條若ハ第十三條第三項但書ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス
 醫師法改正第十一條 免許ヲ受ケスシテ醫業ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前項ノ罪ヲ犯シタル者醫師又ハ之ニ類スル名稱ヲ僭稱シタルモノナルトキハ一年
 蛭及吸角ヲ使用シテ血液ヲ吸出スル行爲ト醫行爲

○事 實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人ヲ罰金二十圓ニ處ス右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ二十日間勞役場ニ留置スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

被告人ハ醫師ノ免許ナキニ拘ラス昭和八年一月福井市内ニ於テ發行スル日刊新聞新福井日報ニ蛭療治販賣ノ廣告ヲ爲シ且被告人肩書自宅ニ同一文字ノ看板ヲ掲ケ同年二月中旬頃ヨリ同年三月中旬頃ニ至ル迄ノ間福井市不動町三浦續ヨリ治療ヲ求メラレ同人方ニ於テ俗ニ「吸フクベ」ト稱スル玻璃器ニ蛭十匹ヲ入レ之ヲ患部腫物ニ差當テ吸付カシメ膿血ヲ吸收セシメタル後更ニ右「吸フクベ」ニ點火シタル燐寸ヲ入レテ之ヲ同患部ニ差當テ再ヒ膿血ヲ吸ヒ出サシメテ治療ヲ爲シタル外同市内ニ於テ内田トキノ齒痛芦原新助ノ腦溢血ニ付何レモ右同様ノ方法ニヨリ前後四回ニ互リ治療ヲ爲シ以テ醫業ヲ爲シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人ノ行爲ハ醫師法第十一條ニ該當スル所本件犯行後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルヲ以テ刑法第六條第十條ニ則リ輕キ舊法ノ刑ヲ適用シ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ該罰金額ノ範圍内ニ於テ被告人ヲ罰金二十圓ニ處スヘク若シ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ刑法第十條ニ則リ被告人ヲ二十日間勞役場ニ留置スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人藤井剛士上告趣意書第一點ハ原判決ハ罪トナラサル事實ニ對シ刑ヲ科セラレタル違法アリ蛭療法ナルモノハ太古ヨリ各國ニ於テ家庭療法トシテ行ハレ來リタルモノニシテ外科的手術ヲ行フコトヲ實質トスルモノニアラス何人カ之ヲ行フモ何等危険ヲ發生スル虞レアルコトナシ從テ被告人カ假リニ之ヲ業トシテ行ヒタリトスルモ醫師法第十一條違反ノ行爲ナリト云フヘキニ非スト思料ス(御院昭和六年(れ)第一二五號同年十一月三十日第一刑事部判決)ト云フニ在レトモ

【要旨】

原判示事實ハ被告人ハ吸角(俗ニ吸フクベト稱スル玻璃器)ニ蛭ヲ入レ之ヲ患部ニ差當テ吸付カシメテ血液ヲ吸收セシメタル後更ニ右吸角ニ點火シタル燐寸ヲ入レ之ヲ同患部ニ差當テ血液ヲ吸出サシメテ治療ヲ爲シタリト云フニ在リテ斯ル治療方法ハ蛭ノ吸孔ヨリ微生物カ體內ニ侵入スル危険アルノミナラス血液ハ人體ニ最必要ナルモノニシテ之ヲ排出スルコトヲ要スル疾患ノ場合ニ於テモ其ノ分量排出スヘキ部位等ニ關シ醫學上ノ知識技能ヲ有セサルモノカ濫リニ之ヲ爲スニ於テハ生理上危険アルコト勿論ナルカ故ニ之ヲ外科的手術ノ範圍ニ屬スル醫行爲ナリト認ムルヲ相當ナリトシ從テ免許ヲ受ケスシテ之ヲ業トスルトキハ醫師法第十一條ニ該當スルモノト解スルヲ正當ナリトス所論ノ判例ハ本件ニ

蛭及吸角ヲ使用シテ血液ヲ吸出スル行爲ト醫行爲

適切ナラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)
右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事 樫田忠美 關與

○偽證教唆被告事件 (昭和八年(九)第二一〇二號 破棄自判)
同九年四月五日第二刑事部判決

【上告人】 被告人 津曲 貞吉 辯護人 松村 鐵男
外二名 赤井 幸夫

【第一審】 鹿兒島地方裁判所 【第二審】 長崎控訴院

○判示事項

同一人ニ對スル二人各別ノ偽證教唆——犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆
シ偽證セシメタル行爲ノ罪數

○判決要旨

一 同一人ニ對シ教唆者ノ一人カ特定ノ事項ニ付偽證ノ決意ヲ爲サ
シメタル後同一事件ニ關シ他ノ教唆者カ別箇ノ事項ニ付偽證ノ
教唆ヲ爲シ該事項ニ付更ニ偽證ノ決意ヲ爲サシメタルトキハ各
教唆者ニ偽證教唆罪成立ス【要旨第一】
二 二人ニ對シ夫々偽證ヲ教唆シ各獨立ノ偽證罪ヲ犯サシメタルト
キハ教唆者ノ犯意繼續ニ係ル場合ト雖二箇ノ偽證教唆罪ノ併合
罪ナリトス【要旨第二】

【參照】 刑法第六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ
三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
同法第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス
教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ
同法第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリ
タルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人貞吉及正雄ヲ各懲役六月ニ被告人源七ヲ懲

同一人ニ對スル二人各別ノ偽證教唆 犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆シ偽證セシメタル行爲ノ罪數 三八一 (二三)

役五月ニ處シ未決勾留日數中被告人貞吉源七ニ對シテハ各六十日被告人正雄ニ對シテハ七十日ヲ各本刑ニ算入スル旨(訴訟費用負擔ニ關スル部分省略)ノ判決ヲ言渡シタリ

第一 被告人津曲貞吉ハ元鹿兒島地方裁判所所屬辯護士ニシテ同所屬辯護士森藏吉及三島實則ト共ニ同地方裁判所ニ於ケル堀切龍次郎ニ對スル放火被告事件ノ辯護ヲ引受ケ(若シ失火トナリタルトキハ成功謝金トシテ津曲森兩辯護士ニ金三千圓三島辯護士ニ金千圓提供ノ約)タルモノナルトコロ右龍次郎ハ豫審第一回訊問迄ハ火災保險金一萬圓詐取ノ目的ヲ以テ自宅ニ放火シタル旨自白シ居リシモ豫審第二回訊問以後ハ其ノ供述ヲ變シ右ハ放火シタルニアラス出火ノ前晚裸蠟燭ニ火ヲ點シテ物置小屋ニ肥料桶ヲ取リニ行キタル際蠟燭ヲ肥料桶ノ在リシ場所(出火點)ニ置キ忘レタル爲之ヨリ出火シタルモノト思料ス而シテ該桶ハ平常ハ該小屋前ノ内便所ノ傍ニ置キアリシモノナルモ當日自分カ物置小屋ヲ掃除シタル際該場所(出火點)ニ移シタル旨供述シ居レルヲ以テ該供述ニ合致スル様證人ヲシテ偽證セシメ以テ有利ナル判決ヲ得ムコトヲ企テ犯意繼續シテ

(一) 昭和七年七月頃森三島兩辯護士及被告人堀切正雄同西田源七等ト共ニ鹿兒島市下荒田町旅館おしどり莊ニ於テ會合シ事件ノ協議ヲ爲シタル際被告人貞吉ハ其ノ席上ニ於テ暗ニ被告人正雄ニ對シ何人カヲ證人トシテ出廷セシメ火災當時物置小屋ハ綺麗ニ掃除シアリ且其處ニハ肥料桶ヲ置キアリタルヲ見タル旨虛偽ノ證言ヲ爲サシメムコトヲ慫慂シテ教唆シタルニヨリ茲ニ右被告人

正雄ハ彼上ノ如キ偽證教唆ヲ爲サムコトヲ決意シ被告人源七ト協議ノ上被告人漢那宗堅ニ對シ證人トシテ出廷シ前記趣旨ノ偽證ヲ爲スヘキコトヲ依囑シテ教唆シ且被告人宗堅カ之ヲ承諾スルヤ同年十月初頃同人ヲ伴ヒ同市易居町ノ被告人貞吉方ヲ訪問シタルカ其ノ際被告人貞吉ハ被告人宗堅ニ對シ前記趣旨ノ證言ヲ爲シ吳レト申向ケ尙同人ヨリ龍次郎方ノ營業狀態良好ナラス給料ノ支拂モ滞リ勝ナリシコトヲ聞知セルニ拘ラス證人トシテ出廷シ之ニ關スル訊問ヲ受ケタル際ハ營業狀態モ良好ニシテ給料支拂モ滞リナカリシ旨虛偽ノ證言ヲ爲シ吳レト依囑シテ之カ教唆シ

(二) 昭和七年九月頃被告人正雄ヨリ赤塚盛重カ六月中旬國分警察署刑事巡查ヨリ堀切龍次郎ノ放火事件ハ警察ニ於テ取調ヘニ無理シ居ル故裁判所ニ於テ詳シク取調ヘヲ受クレハ或ハ失火トナルヤモ知レストノ話ヲ聞キタル旨申シ來リタルニヨリ同月九日ノ公判廷ニ於テ該事實ニ關シ赤塚ヲ證人トシテ申請シ採用セラレタルトコロ其ノ後被告人正雄ヨリ赤塚ハ斯ルコトヲ口外シタルコト無シトシテ證人ニ出頭スルコトヲ拒ミ居ルコトヲ聞知シタル故止ムナク之ヲ拋棄スルニ至リタルカ被告人貞吉カ被告人正雄ニ對シ右證人申請ヲ拋棄セルハ遺憾ナリト申向ケタル爲被告人正雄ハ右赤塚ニ代ル證人ヲ作爲セムコトヲ企テ同年十一月十二日頃被告人海老原三次ニ對シ證人トシテ出廷シ同人カ赤塚ヨリ前顯同様ノ事實ヲ聞知シタル旨ノ偽證ヲ爲スヘキコトヲ依囑シ同人カ一應之ヲ承諾スルヤ十一月十六日右事件公判開廷前被告人正雄及同三次ハ被告人貞吉方ヲ訪問シタル

同一人ニ對スル二人各別ノ偽證教唆 犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆シ偽證セシメタル行爲ノ罪數

カ其ノ際被告人貞吉ハ被告人三次ニ對シ訊問セラルヘキ要領ヲ讀聞ケ且在廷證人トシテノ申請スルニ付採用セラレタル以上ハ前記趣旨ノ證言ヲ爲シ吳レト申向ケ同人ヲシテ僞證ノ意思ヲ鞏固ナラシメ以テ之ヲ教唆シ

第二 (一) 被告人堀切正雄ハ右おしどり莊ニ於ケル被告人貞吉ノ前記趣旨ノ教唆ニ基キ僞證教唆ノ決意ヲ爲シ歸村後被告人正雄及同西田源七ノ兩名ハ昭和七年七月頃被告人源七ノ前示肩書居宅ニ於テ多年被告人正雄方ノ印刷職工ヲ勤メシ被告人漢那宗堅ニ對シ同裁判所ニ證人トシテ出廷シ火災ノ前晚物置小屋カ掃除シアリ且肥料桶カ小屋ノ出火點附近ニ置キアリタルヲ見タル旨虛偽ノ陳述ヲ爲ス様依頼シテ僞證ヲ教唆セムコトヲ共謀シタル後被告人正雄ハ同村ナル被告人宗堅方ニ至リ同人ニ對シ同趣旨ノ證言ヲ爲シ吳レト依囑シテ教唆シ尙被告人源七ハ被告人正雄ヨリ被告人宗堅カ承諾シタルコトヲ聞知シ同年九月十二日頃被告人宗堅方ニ至リ同人ニ對シ被告人正雄カ依頼シタル如ク證言シ吳ルレハ正雄ヲシテ相當ノ報酬ヲ與ヘシムヘキ旨申向ケテ之カ決意ヲ確カメ

(二) 被告人正雄ハ尙犯意ヲ繼續シ被告人貞吉カ前記赤塚盛重ニ對スル證人申請ヲ拋棄セルハ遺憾ナリト言明スルニ至リタル爲同人ニ代ル證人ヲ作爲セムコトヲ企テ同年十一月十二日頃同村ナル被告人海老原三次方ニ至リ同人ニ對シ龍次郎ノ放火事件ニ付證人トシテ出廷シ赤塚盛重ヨリ同年六月中旬國分警察署刑事巡查カ赤塚ニ龍次郎ノ放火事件ハ警察署ニ於テ取調ニ無理シ居ル故裁

判所ニ於テ詳シク取調ヲ受クレハ或ハ失火ト爲ルヤモ知レスト話シ居リタル旨聞知シタリト虛偽ノ證言ヲ爲シ吳レト依囑シ以テ之ヲ教唆シ

第三 被告人漢那宗堅ハ被告人正雄及同源七兩名ノ判示第二ノ(一)記載同趣旨ノ教唆並被告人貞吉ノ判示第一ノ(一)記載同趣旨ノ教唆ニ基キ各同趣旨ノ僞證ヲ爲スヘク決意シ昭和七年十月二十四日同裁判所ニ於ケル堀切龍次郎ノ放火被告事件ノ公判廷ニ於テ證人トシテ宣誓ヲ爲シタル上「火災ノ前日タル二月十四日午後六時頃汚レタル手ヲ洗ヒニ住宅ヘ行キニ物置小屋ノトコロヲ掃除シタル等跡アリ便所ヨリ二間位離レタル西南方ノ板壁ノトコロ(出火點附近ニ相當ス)ニ肥料桶一個アリシ旨及營業狀態ハ一箇月中二十日位ハ夜業スル位仕事カ忙カシク集金モヨク集リ自分ノ月給三十圓モ毎月滞リナク支拂ヲ受ケ居レリ紙屋ヨリ印刷材料ノ代金ノ請求ヲ受ケ居リシ事無シ火災當時ハ活字等モ買ヒドシドシ仕事ヲ致スト云フ風ニテ生活狀態モ苦シキ様ニハ見エヌ又自分ハ龍次郎カ財產ヲ有スルコトハ承知シ居ルモ借金ノアルコトハ知ラサル」旨虛偽ノ證言ヲ爲シ以テ僞證シ

第四 被告人海老原三次ハ被告人正雄ノ判示第二ノ(二)記載同趣旨ノ教唆並被告人貞吉ノ判示第一ノ(二)記載同趣旨ノ教唆ニ因リ僞證ヲ爲スヘク決意シ昭和七年十一月十六日同裁判所ニ於ケル堀切龍次郎ノ放火事件ノ公判廷ニ於テ在廷證人トシテ宣誓シタル上「昭和七年六月二十日頃(後八月末カ九月初頃ト訂正セリ)赤塚盛重カ自分方ニ來リシ際同人ニ向ヒ君ハ刑事ヲ致セシコトアルカ如

同一人ニ對スル二人各別ノ僞證教唆 犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆シ僞證セシメタル行爲ノ罪數

何ニ思フヤ自分モ軍隊ニ居リシ頃ハ無理ナコトヲ致シ居リシカ君モ無理ナコトヲ致セシナラン龍次郎ノ放火事件ハ確タル證據ナキ故警察カ無理ナコトヲ致セシニアラスヤト申セシトコロ赤塚ハ自分モ警察カ無理シタルコトヲ聞知セシ故鹿兒島ニ行ケハ或ハ妙ナ風ニ爲ルヤモ知レスト申シタル旨虛偽ノ證言ヲ爲シ以テ偽證シタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人津曲貞吉同堀切正雄同西田源七ノ判示被告人漢那宗堅ニ對スル偽證教唆並被告人貞吉同正雄ノ判示被告人海老原三次ニ對スル偽證教唆ノ各所爲ハ孰レモ刑法第六十一條第一項第六十九條ニ該當スルトコロ右被告人貞吉同正雄ノ各偽證教唆ノ所爲ハ孰レモ連續ニ係ルヲ以テ同法第五十五條ヲ適用シ連續一罪トシ各其ノ刑期範圍内ニ於テ被告人貞吉及同正雄ヲ各懲役六月ニ被告人源七ヲ懲役五月ニ處シ尙同法第二十一條ニ從ヒ原審ニ於ケル未決勾留日數中被告人貞吉同源七ニ對シテハ各六十日被告人正雄ニ對シテハ七十日ヲ右各本刑ニ算入スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニ則リ主文特記ノ如ク各被告人ヲシテ之カ負擔ヲ爲サシムヘキモノトス

○主 文

被告人源七ノ本件上告ハ之ヲ棄却ス

原判決中被告人貞吉及正雄ニ關スル部分ヲ破毀ス

被告人貞吉及正雄ヲ各懲役六月ニ處ス

但被告人貞吉及正雄ニ對スル未決勾留日數中被告人貞吉ニ對シテハ六十日被告人正雄ニ對シテハ七十日ヲ右各本刑ニ算入ス(訴訟費用負擔ニ關スル部分省略)

○理 由

被告人津曲貞吉辯護人松村鐵男上告趣意書第二點原判決ハ前同判示ニ於テ被告人貞吉ハ火災當時物置小屋ハ綺麗ニ掃除シアリ且其處ニハ肥料桶ヲ置キ在リタルヲ見タル旨虛偽ノ證言ヲ爲サシムコトヲ懲罰シテ教唆シ云々ト判示シタリ然レトモ右證言ヲ求メムトスル事實ノ如何ナル部分カ虛偽ナリト爲スヤ其ノ全部若ハ一部カ眞實ニ合セサルモノトナスヤ否ヤ即チ火災當時物置小屋ハ掃除シアラサリシヤ其處ニハ肥料桶ヲ置キ在リタルコトナキヤ又其ノ肥料桶ヲ見タルモノナカリシヤ物置小屋カ掃除シアリ其處ニ肥料桶ノ置キアリタルコトハ眞實ナルモ夫レヲ見タルコトナキニ拘ラス之ヲ見タリト證言スル點ニ於テ虛偽ナリト爲スヤ將又掃除ノ點モ肥料桶ノ點モ全然斯ル事實ナキニ拘ラス之ヲ見タリト證言セシメムト欲シタルモノナリヤ原判決ノ此ノ點ノ判示ハ極メテ漠然トシテ捕捉ス可ラス從テ假ニ右貞吉ノ欲シタル證言ノ内容ニ何レカノ點ニ於テ眞實ニ合セサル部分アリトスルモ貞吉ニ於テ其ノ眞實ニ合セサルコトヲ認識シ居リタルヤ否ヤ貞吉ノ懲罰ヲ受ケタル被告人正雄ニ於テ如何ナル部分カ眞實ニ非ルコトヲ認識シ居リタルヤ否ヤノ判定モ亦全然之ヲ缺如セリ凡ソ偽證教唆若ハ其ノ教唆者ノ教

同一人ニ對スル各二人別ノ偽證教唆 犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆シ偽證セシメタル行爲ノ罪數

唆ノ事實ヲ判定セムトセハ一、或事實カ眞實ニ反スルコト二、教唆者ニ於テ其ノ眞實ニ非ルコトヲ認識セルコト三、被教唆者カ其ノ眞實ニ非ルコトヲ知り乍ラ教唆者ノ懲罰ニヨリ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ至リタルコトヲ確定セサルヘカラサルニ拘ラス原判決ハ前記ノ部分ニ付被上事實ノ確定ヲ爲サス漫然虚偽ノ證言ヲ爲サシメムコトヲ懲罰シ云々ト判示シタルハ此點ニ於テモ理由不備ノ違法アルモノト信スト云フニ在レトモ

偽證罪ハ宣誓シタル證人カ虚偽ノ陳述ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナレハ偽證教唆罪ニ付テハ宣誓ノ上證人タルヘキ者ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲スヘキコトヲ教唆シ偽證ノ決意ヲ爲サシメ同證人カ因テ偽證シタル事實ヲ判示スレハ足り而シテ同一人ニ對スル教唆者ノ一人カ特定ノ事項ニ付偽證ノ決意ヲ爲サシメタル後他ノ教唆者カ別個ノ事項ニ付偽證ノ教唆ヲ爲シ該事項ニ付更ニ偽證ノ決意ヲ爲サシメタルトキハ各教唆者ニ偽證教唆罪成立スルモノトス原判示事實ニ依レハ被告人貞吉ハ堀切龍次郎ニ對スル放火被告事件ニ關シ同人ノ忤ナル被告人正雄ニ對シ何人カヲシテ原判示ノ如ク火災當時物置小屋ハ掃除セラレ肥料桶ヲ置キシ旨虚偽ノ事實ヲ證言セシムヘキコトヲ教唆シ尙被告人正雄カ右教唆ニ因リ右事項ノ偽證ヲ依囑シテ決意セシメタル漢那宗堅ニ對シ被告人貞吉自ラ同一被告事件ニ關シ更ニ別個ノ事項タル龍次郎ノ營業狀態及給料ノ仕拂振ニ付虚偽ノ事實ヲ證言スヘキコトヲ依頼シテ教唆シ因テ宗堅ヲシテ更ニ同事項ニ付偽證ノ決意ヲ爲サシメ判示第三ノ如ク昭和七年十月二十四日鹿兒島地方裁判

【要旨第一】

所ニ於テ右放火被告事件ニ付證人トシテ宣誓ノ上被上各虚偽ノ事實ヲ陳述セシメタリト云フニ在リテ被告人貞吉ノ右宗堅ニ對スル間接教唆罪及直接教唆罪ノ成立ヲ認メタル判示事實トシテ何等間然スル所ナキモノト謂フヘク所論ノ如ク理由不備ノ違法アルモノニ非ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

【要旨第二】

刑事訴訟法第四百三十七條ニ依リ原判決ニ於ケル法令違反ノ有無ニ付調査スルニ原判決ハ被告人貞吉及正雄ノ漢那宗堅ニ對スル偽證教唆竝海老原三次ニ對スル偽證教唆ノ各所爲ハ孰レモ連續犯ヲ構成スルモノト解シ刑法第五十五條ヲ適用處斷シタレトモ教唆罪ハ正犯ニ對シ從屬性ヲ有スルヲ以テ二人ニ對シ夫々偽證ノ教唆ヲ爲シ各獨立ノ偽證罪ヲ構成セシムルニ至リタルトキハ教唆者ノ犯意繼續ニ係ル場合ト雖偽證教唆罪ハ併合罪ヲ構成スルモノナルカ故ニ之ヲ連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非サレハ原判決カ被上被告人貞吉及正雄ノ宗堅竝三次ニ對スル偽證教唆ノ各行爲ヲ連續一罪ヲ構成スルモノトシテ處斷シタルハ失當ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス因テ刑事訴訟法第四百四十七條第四百四十八條ニ依リ原判決ノ被告人貞吉及正雄ニ對シ確定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告人貞吉ノ被告人正雄ニ對スル偽證教唆即チ宗堅ニ對スル間接教唆及同人ニ對スル直接教唆ノ行爲ハ偽證教唆ノ包括的一罪トシテ處斷スヘキモノナルヲ以テ刑法第六十一條第一項第六十九條ニ該當シ被告人正雄ノ宗堅ニ對スル偽證教唆被告人貞吉及正雄ノ三次ニ對スル偽證教唆ノ各行爲ハ孰レモ刑法第六十一條第六十九條

同一人ニ對スル二人各別ノ偽證教唆 犯意ヲ繼續シテ二人ヲ教唆シ偽證セシメタル行爲ノ罪數

ニ該當シ被告人貞吉及正雄ノ各偽造教唆罪ハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條第十條ニ則リ犯情最モ重キ宗堅ニ對スル偽造教唆罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ處斷スヘキ處本件ハ各被告人ノ上告ニ係ルヲ以テ刑事訴訟法第四百五十二條ニ依リ被告人貞吉及正雄ヲ各懲役六月ニ處シ尙刑法第二十一條ニ從ヒ第一審ニ於ケル未決勾留日數中被告人貞吉ニ對シテハ六十日被告人正雄ニ對シテ七十日ヲ各本刑ニ算入シ訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ヲ適用シ各被告人ヲシテ主文記載ノ如ク之ヲ負擔セシムヘキモノトス仍テ被告人源七ニ對シテ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ夫々主文ノ如ク判決ス

檢事柴碩文關與

○偽造有價證券交付被告事件(昭和九年(九)第一七四號
同年四月九日第二刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 西村茂兵衛 辯護人 大野幸一

【第一審】 橫濱區裁判所 【第二審】 橫濱地方裁判所

○判示事項

數通ノ偽造公債證書ノ一括交付ト想像的競合犯

○判決要旨

數通ノ偽造公債證書ヲ行使ノ目的ヲ以テ其ノ情ヲ知レル者ニ一括交付シタル場合ハ刑法第五十四條第一項所定ノ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當スルモノトス

【參照】 刑法第六十三條第一項 偽造變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
同法第五十四條第一項 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定並法律ノ適用ヲ爲シ被告人茂兵衛ヲ懲役六月ニ處スル旨ノ判決ヲ爲シタリ

第一 被告人理一ハ中山源次郎ヨリ賣却斡旋方ヲ依頼セラレテ偽造ニ係ル昭和二年發行モ號帝國五分

數通ノ偽造公債證書ノ一括交付ト想像的競合犯

利公債千圓券三枚ヲ受領シタル上行使ノ目的ヲ以テ情ヲ知レル被告人茂兵衛ニ對シ

一、内一枚ヲ昭和六年十月二十四、五日頃水戸市水戸驛ニ於テ交付シ

二、内二枚ヲ同年十一月十日頃東京市上野驛ニ於テ一括交付シ

第二 被告人茂兵衛ハ被告人理一ヨリ前記ノ如ク偽造公債三枚ヲ受領シタル上行使ノ目的ヲ以テ昭和六年十一月十日頃右の上野驛ニ於テ情ヲ知レル穴倉哲太郎ニ一括交付シ

タルモノニシテ被告人理一ノ偽造公債交付ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノナリ

法律ニ照スニ被告人茂兵衛ノ判示第二ノ偽造有價證券交付ノ所爲ハ刑法第六十三條第一項ニ該當スルトコロ右ハ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第十條ニ則リ犯情重キ内一枚ノ偽造有價證券交付罪ノ刑ニ從ヒ其ノ所定期限範圍内ニ於テ被告人茂兵衛ヲ懲役六月ニ處スヘキモノトス

○主 文

本件上告ハ之ヲ棄却ス

○理 由

辯護人大野幸一上告趣意書第三點ハ原判決ハ法律ノ適用ヲ誤リタル不法アリ即チ被告人カ一括シテ三葉ノ所謂偽造公債ヲ他人ニ手交シタル事實ヲ認定シ刑法第五十四條前段及第十條ヲ適用シタルモ誤レ

リ前記行爲ハ當然ノ一罪ナリ原判決カ犯情ニ輕重ノ區別ナキ前記行爲ヲ「犯情重キ一枚ノ偽造有價證券交付罪ノ刑ニ從ヒ」ト判示シタルハソハ正當ニ法律ノ適用ヲ示シタルニアラスト云フカ又刑法第十條ノ解釋ヲ誤リタルモノト信ス右理由ヲ以テ原判決ハ破毀セラルルモノト信スト云フニアレトモ

【要旨】

偽造ノ公債證書ヲ行使ノ目的ヲ以テ其ノ情ヲ知レル者ニ交付セル場合ニアリテハ其ノ證書一枚毎ニ刑法第六十三條第一項ノ罪ヲ構成スルモノナレハ原判旨ノ如ク偽造ノ公債證書千圓券三枚ヲ行使ノ目的ヲ以テ其ノ情ヲ知レル者ニ一括交付シタル場合ニ在リテハ刑法第五十四條第一項前段所定ノ一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸ルル場合ニ該當スルモノト謂フヘク包括的一罪ヲ構成スルモノニ非ス而シテ斯ル場合犯情ニ輕重ナキ場合モ想像スルニ難カラスト雖犯情ニ輕重アル場合ニハ刑法第十條ニ依リ其ノ重キモノニ從テ處斷スヘキモノトス原判決ヲ閱スルニ原審ハ犯情ニ輕重アリト認定シタルモノナレハ刑法第五十四條第一項前段第十條ヲ適用シ犯情重キモノノ刑ニ從ヒ處斷シタルハ相當ニシテ所論ノ如キ法律ノ解釋適用ヲ誤リタル不法アルモノト謂フヘカラス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス
檢事松阪廣政關與

○背任瀆職瀆職幫助被告事件 (昭和八年(九)第二〇九九號 同九年四月十八日第三刑事部判決 棄却)

【上告人】 被告人 吉田猪八郎 辯護人

外八名

赤井萬幸夫
則井國壽雄
濱田國松
秋山高二郎
山高三郎
外七名

【第一審】 岡山地方裁判所 【第二審】 廣島控訴院

○判示事項

證據調ノ限度及證據ノ取捨判斷ト上告理由——共同被告人ノ訊問ト其ノ範圍

○判決要旨

一證據調ノ限度ヲ定メ取調ヘタル證據ノ取捨判斷ヲ爲スハ事實裁判所ノ職權ニ屬シ之カ當否ノミヲ云爲スル論旨ハ上告適法ノ理

由トナラス【要旨第一】

二共同被告人タル甲ノ瀆職事實ト乙ノ瀆職事實トカ別個ノ事實關係ニ屬スルトキト雖事實ノ真相ヲ認識スルニ必要ナル限り乙ノ瀆職事實ニ關シ甲ヲ被告人トシテ訊問スルコトヲ妨ケサルモノトス【要旨第二】

【參照】 刑事訴訟法第三百三十七條 證據ノ證明力ハ判事ノ自由ナル判斷ニ任ス

同法第三百三十七條 事實發見ノ爲必要アルトキハ被告人ト他ノ被告人又ハ證人ト對質セシムルコトヲ得

○事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人吉田猪八郎外八名ニ對シ夫々有罪ノ判決ヲ爲シタリ

第一 岡山市會ハ都市計畫事業ノ實施ニ基キ昭和四年五月中隣接各村ヲ市ニ編入實現ヲ期スヘキ旨ヲ決議シ昭和六年三月下旬岡山縣ヨリ岡山市會ニ對シ其ノ隣村ナル上道郡宇野、平井及御津郡福濱ノ三村ヲ同市ニ編入スルコトノ可否ヲ諮問スルニ至リ該諮問案カ同月三十日岡山市會ニ上程附議セラレ其ノ可決答申ヲ得タルノ結果遂ニ同年四月一日右三村カ同市ニ編入セラレタルモノナルトコロ

證據調ノ限度及證據ノ取捨判斷ト上告理由 共同被告人ノ訊問ト其ノ範圍

(一) 被告人吉田猪八郎ハ大正二年以降岡山縣上道郡宇野村長トシテ就任シ昭和六年四月一日同村カ岡山市ニ編入セラルル迄勤績シ其ノ職務ニ從事中

(イ) 右宇野村ノ會計事務ヲ監督シ且其ノ收入支出ノ命令ヲ爲スノ職務ヲ有シ居レルニモ拘ラス同村ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其ノ任務ニ背キ同村會議員國府島安太郎等ト共謀シ該村公金ヲ左記三口ニ寄附ヲ爲スノ事實ナキニ之ニ寄附スルモノノ如ク假裝シ市編入ノ運動ニ關スル自己ノ立替金及市編入ノ祝賀會費等ノ用途ニ充ツルカ爲ニ昭和六年三月三十一日同村役場ニ於テ同村會ヲ開催シ追加更正豫算トシテ

(1) 市編入期成同盟會ニ對シ金千三百圓

(2) 自治研究會ニ對シ金九百二十八圓四十四錢

(3) 戶主會ニ對シ金六百圓

ヲ各寄附スルモノノ如ク假裝ノ決議ヲ爲サシメタル上同村收入役光田廣ニ對シ右用途ヲ告ケスシテ同村公金中ヨリ右(1)金千三百圓右(3)金六百圓及右(2)金九百二十八圓四十四錢ノ内金七百三十八圓以上合計金二千六百三十八圓ニ付同村代表者タル被告人吉田猪八郎ニ不當支出ヲ爲サシメ内金千圓ヲ市編入祝賀會費ニ内金千二百圓ヲ村長タル自己ノ慰勞金ニ殘額ヲ自治功勞者ニ對スル慰勞金ニ充當シ以テ同村ニ右支出額ニ相當スル損害ヲ加ヘ

(ロ) 同村カ岡山市ニ編入スルノ可否ヲ決スヘキ諮問案カ近ク岡山市會ニ提出附議セラルルノ氣運ニ達スルヤ同市會議員ニ金員ヲ提供シテ賛成可決セシメントヲ企テ

(1) 昭和六年一月中旬岡山市丸龜町街路ニ於テ當時岡山市會副議長タル被告人原貫一郎ニ對シ右諮問案ニ賛成セラレ度キ旨請託シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ金二百圓ヲ同人ニ供與シ

(2) 同年二月頃同村會議員國府島安太郎方ニ赴キ同人ト共ニ右諮問案ニ付岡山市會議員ナル被告人森安豐次郎ニ金員ヲ供與シテ其ノ賛成ヲ求メントヲ謀リ即日國府島安太郎ニ金三百圓ヲ交付シ其ノ頃同人ヲシテ被告人森安豐次郎ノ肩書居宅ニ持參セシメテ同人ニ供與シ

(二) 被告人原貫一郎ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シ更ニ同月中同市會副議長ニ選任セラレタルトコロ昭和五年十月八日廣島控訴院ニ於テ收賄罪ニヨリ懲役六月(未決勾留百日通算)ニ處セラレ昭和六年四月二十三日判決確定ト共ニ失格シタルモノナルカ該事件ノ保釋中

(イ) 昭和六年一月中(右判決確定前)岡山市丸龜町街路ニ於テ當時宇野村長タリシ被告人吉田猪八郎ヨリ前掲(一)(ロ)(1)ノ如ク同村ノ岡山市編入ニ關スル諮問案ニ賛成セラレ度キ旨職務上ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ同人ヨリ金二百圓ノ供與ヲ受ケテ收賄シ

(ロ) 同年三月中旬頃被告人原貫一郎ノ肩書居宅ニ於テ當時前記平井村ノ岡山市編入ニ付キ運動

盡力シ居リタル兒島琢二ヨリ平井、宇野各村カ岡山市ニ編入スルノ可否ヲ決スヘキ諮問案カ市會ニ附議セラルルトキハ之ニ賛成シ市會通過ニ盡力セラレ度ク之カ爲ニ要スル市會議員會合ノ費應費用ハ平井、宇野兩村ヨリ支出セシムヘキ旨ノ申込ヲ受ケテ之ヲ承諾シ以テ賄賂ノ約束ヲ爲シ

(三) 被告人森安豐次郎ハ大正十三年十一月以降引續キ岡山市會議員ニ當選シ昭和六年七月被告人原貫一郎ノ後ヲ受ケテ同市會副議長ニ選ハレタルモノナルカ同市會議員在職中

(イ) 昭和六年二月頃其ノ肩書居宅ニ於テ當時宇野村會議員タリシ國府島安太郎ヨリ同村カ岡山市ニ編入スルノ可否ヲ決スヘキ諮問案ニ賛成セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ同人ヨリ金三百圓ノ供與ヲ受ケ

(ロ) 同年三月二十四日頃其ノ肩書居宅ニ於テ當時平井村會議員タリシ難波百太郎ヨリ同村カ岡山市ニ編入スルノ可否ヲ決スヘキ諮問案ニ付賛成シ之カ市會通過ニ盡力セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ金百圓ノ供與ヲ受ケ

以テ各收賄シ

(ハ) 同月中旬頃被告人森安豐次郎ノ肩書居宅ニ於テ前記兒島琢二ヨリ右被告人原貫一郎ノ場合ニ於ケルト同様ノ申込ヲ受ケ之ヲ承諾シテ賄賂ノ約束ヲ爲シ

(四) 被告人金子藤一郎ハ昭和四年四月一日以降岡山市助役トシテ就任シ昭和七年十二月九日退職シタルモノナルカ助役ハ市長ヲ輔佐シ殊ニ前示宇野、平井及福濱三村ノ岡山市編入ニ關シテハ其ノ可否ヲ決スヘキ資料調査竝之ニ關スル諮問案カ同市會ニ附議セラルルトキハ其ノ資料ノ説明等ヲ擔任スヘキ事務ヲ執リ居リタルモノナルトコロ

(イ) 昭和六年三月二十七、八日頃近ク岡山市會ニ附議セラルヘキ右三村ノ市ニ編入スルノ可否ヲ決スヘキ諮問案ヲ賛成可決セシメンカ爲ニ岡山市役所ニ於テ同市會議員タル被告人黒太三二同坂本永太郎ノ兩名ニ對シ該諮問案ニ賛成セラレ度キ旨請託シ其ノ報酬トシテ金百五十圓ヲ即時同所ニ於テ右兩名ニ供與シテ賄賂シ

(四ノロ) 省略

(五) 被告人黒太三二同坂本永太郎ハ昭和四年七月以降各岡山市會議員ニ當選シ爾來其ノ職ニ在リタルモノナルカ右被告人兩名ハ昭和六年三月二十七、八日頃岡山市役所ニ於テ當時同市助役タリシ被告人金子藤一郎ヨリ前掲(四イ)ノ如ク諮問案賛成方職務上ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ同人ヨリ金百五十圓ノ供與ヲ受ケテ收賄シタル上平等ニ分配シ

第二 昭和六年四月一日前記第一冒頭掲記ノ如ク宇野、平井、福濱三村ハ第一次ニ岡山市ニ編入セラレタルカ其ノ際編入ニ洩レタル隣接各村ニ於テハ最近ニ同市ニ編入セラレンコトヲ希望シ其ノ運動

ヲ爲シ來リタルトコロ岡山縣内務部長ニ於テ岡山縣知事カ岡山市會ニ諮問スルノ準備トシテ岡山市長ニ對シ岡山市ニ隣接セル岡山縣上道郡三幡村、操陽村、富山村及同縣御津郡牧石村ヲ岡山市ニ編入スルノ可否ニ付内意ヲ伺ヒ來リ同市長ハ其ノ内意決定ニ資セン爲種々調査ヲ爲シ且同市會議員ノ協議會ヲ開キタルカ右土道郡三村ノ有力者等ハ盛ニ當路者ニ運動シ各自村ノ編入實現ヲ期シタルトコロ岡山縣知事ニ於テ右土道郡三村ノ編入ヲ岡山市會ニ諮問スルノ情勢アリタリ然ルニ其ノ後ニ至リ右ノ内三幡、操陽兩村ノミノ編入可能ナルノ氣運ニ向ヒ爾來右兩村ノ有力者ハ益々其ノ編入運動ニ熱中シタルカ昭和七年七月岡山縣知事ハ岡山市會ニ對シ右三幡、操陽兩村ノ岡山市編入ノ可否ニ付諮問シ同市會ハ同月十四日該諮問ニ付審議シタル結果時機尙早ノ故ヲ以テ編入反對ノ旨ノ答申ヲ議決シ茲ニ第二次ノ岡山市隣接村ノ編入ハ一時挫折スルニ至リタルモノナルトコロ

(一) 被告人山口百治ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シ其ノ職務ニ從事中當時岡山市文書課長兼市長秘書ニシテ前記三幡、操陽兩村ノ岡山市編入ニ付運動盡力シ居リタル守安郁二ヨリ

(イ) 昭和七年五月中旬頃岡山市巖井ナル守安郁二方ニ於テ右三幡、操陽兩村ノ市編入ノ可否カ岡山市會ニ諮問サレ其ノ答申審議ノ際ハ編入ニ賛成アリ度キ旨職務上ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ即時金五十圓ノ供與ヲ受ケ

(ロ) 右三幡、操陽兩村ノ市編入ニ賛成シ賛成議員ヲ集メラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タル

ノ情ヲ知リナカラ

(1) 同年五月一日頃岡山縣上道郡西大寺町料亭雪園ニ於テ四圓六十五錢

(2) 同日同郡九幡村貸座敷油屋ニ於テ六圓

(3) 同年六月二十五日岡山市内山下料亭壽惠廣ニ於テ八圓二十五錢

以上合計十八圓九十錢相當ノ酒食遊興ノ饗應ヲ受ケ

以テ何レモ市會議員タル其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

(二) 被告人坂本永太郎ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シタルモノナルカ昭和七年七月十日頃前記守安郁二ヨリ前記三幡、操陽兩村ノ市編入ニ關スル諮問案カ出タルトキハ之ニ賛成セラレ度キ旨職務上ノ請託ヲ受ケ同日頃岡山市役所ニ於テ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ借受金名義ノ下ニ金七十圓ノ供與ヲ受ケ以テ收賄シ

(三) 被告人黒太三二ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シタルモノナルカ前記守安郁二ヨリ

(イ) 昭和七年七月十二日頃被告人黒太三二肩書居宅ニ於テ三幡、操陽兩村ノ市編入可否ノ諮問案カ出タルトキハ之ニ賛成シ賛成議員ヲ集メラレタキ旨職務上ノ請託ヲ受ケ同日頃同所ニ於テ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ金五十圓及金百圓合計金百五十圓ノ供與ヲ受ケ

(ロ) 右趣旨ノ職務上ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ

(一) 同年七月七日岡山市東中山下料亭島兵衛ニ於テ四圓五十二錢

(二) 同月十一日同所ニ於テ七圓九十五錢

合計十二圓四十七錢相當ノ酒食ノ饗應ヲ受ケ

以テ各市會議員タル其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

(四) 被告人森安豊次郎ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ再選セラレ昭和六年七月同市會副議長ニ當選シタルモノナルカ

(イ) 曾テ前記三幡村長タリシ同村有力者ニシテ永年三幡鐵道株式會社長ヲ勤メ右三幡、操陽兩村ノ市編入ニ付運動盡力シ居リタル藤原知道ヨリ右會社支配人吉田茂ヲ介シ右兩村ノ岡山市編入ノ可否カ同市會ニ諮問サレ其ノ答申議決ノ際ハ編入ニ賛成アリ度ク尙他ノ市會議員ニ對シ同様編入賛成方ノ運動アリ度キ旨依頼セラレ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ

(1) 昭和七年三月頃被告人森安豊次郎ノ肩書居宅ニ於テ金七十圓

(2) 同年五月頃同所ニ於テ金三百圓ノ各供與ヲ受ケ

(ロ) 前記兩村ノ市編入ニ付運動盡力シ居リタル兒島琢二ヨリ同年五月中旬頃前記同被告人方ニ於テ右三幡、操陽兩村ノ岡山市編入ノ可否カ同市會ニ諮問サレ其ノ答申議決ノ際ハ編入ニ賛成スヘキ様請託セラレ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ即時金二百圓ノ供與ヲ受ケ

(ハ) 前記富山村長タリシ小野田千代次同村會議員タリシ内田縫次郎ヨリ同年三月頃前記被告人方ニ於テ前記三幡、操陽兩村ト共ニ右富山村ヲモ岡山市ニ編入スルノ可否ノ諮問ニ付答申議決ノ際ハ富山村ノ編入ニ賛成アリ度キ旨請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ即時金百圓ノ供與ヲ受ケ以テ收賄シ

(五) 被告人村上周治ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シタルモノナルカ

(イ) 前記小野田千代次 内田縫次郎ヨリ昭和七年六月頃被告人村上周治ノ肩書居宅ニ於テ前掲第二(四)(ハ)ノ場合ニ於ケルト同様趣旨ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ即時金五十圓ノ供與ヲ受ケ

(ロ) 前記藤原知道ヨリ昭和七年五月上旬頃岡山市内山下所在三幡自動車事務所ニ於テ前記三幡操陽兩村ノ岡山市編入ノ可否ヲ同市會ニ諮問サレ其ノ答申議決ノ際ハ編入ニ賛成アリ度キ旨職務上ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知リナカラ即時金五十圓ノ供與ヲ受ケ以テ收賄シ

(ハ) 右藤原知道ノ依頼ニヨリ同人カ岡山市會議員石原富次郎ニ對シ金百圓ヲ贈賄スルニ際リ其ノ情ヲ知リテ仲介ヲ承諾シ昭和七年五月中前示被告人村上周治自宅ニ於テ右石原富次郎ニ對シ藤原知道ノ依頼ノ趣旨ニ基キ右三幡、操陽兩村ノ岡山市編入ノ可否カ同市會ニ諮問サレ其ノ答

申議決ノ際ハ編入ニ賛成アリ度キ旨請託シ其ノ報酬トシテ即時金百圓ヲ交付シテ其ノ取次ヲ爲シ以テ藤原知道ノ右贈賄行爲ヲ幫助シ

(六) 省略

(七) 被告人片山直八ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シタルモノナルトコロ前記小野田千代次内田縫次郎ヨリ昭和七年三月頃前示被告人片山直八肩書居宅ニ於テ右同様趣旨ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルノ情ヲ知りナカラ即時金五十圓ノ供與ヲ受ケ以テ市會議員タル其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ

第三 岡山市ハ都市計畫工事ノ進捗スルニ伴ヒ昭和五年三月中同計畫ニヨル旭東線工事急施ノ必要ヲ認メ既定年度ヲ昭和五、六兩年度ニ繰上施行スルコトナリタル爲右路線ニ掛ル同市門田屋敷三蟠鐵道株式會社所有ノ同所國清寺驛以南網濱驛間ノ一部線路敷地ヲ買收スルコトニ決シ同會社ニ交渉ヲ開始セシトコロ同會社ハ右道路敷地ノ收用ニ付テハ異議ナキモ會社ノ營業ヲ繼續シ得ル様右旭東線ノ西側ニ新線路ヲ移轉建設スルニ要スヘキ諸費用等ノ補償ヲ要求シ市當局ニ於テモ右會社ノ新線布設費等補償ノ要求ヲ相當ト認メ右旭東線ノ西方約十五間ノ地點ニ鐵道線路ヲ移轉セシムル方針ノ下ニ右補償額ヲ總額七萬八百六十圓ニ計上シ昭和六年二月十四日之ヲ都市計畫事業委員會ニ附議セシ結果其ノ決定アリテ内金五萬圓ヲ同年五月一日ニ内金二萬圓ヲ同年九月二日ニ其ノ餘ヲ昭和七年

四月五日ニ夫々右會社ニ下附シ右土地ヲ收用シタル上工事ヲ實施セシモノナルトコロ

被告人村上周治ハ昭和四年七月中ヨリ岡山市都市計畫事業委員トナリ同委員會ニ於テ都市計畫事業ニ關スル事項ニ付其ノ諮問案ノ可否ヲ議決シ買收土地ノ補償額ヲモ決定スヘキ職務ニ從事シ居リタルモノナルカ前示三蟠鐵道株式會社ニ對スル補償案カ同委員會ニ附議セラレントスルニ際シ

(イ) 昭和五年十二月頃同被告人ノ肩書居宅ニ於テ同會社社長タル藤原知道ヨリ右補償額ヲ委員會ニ於テ同會社ノ有利ニ可決方盡力セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬タルコトヲ知りナカラ即時同所ニ於テ時價二十五圓相當ノ銀瓶一個(證第六十三號)ノ供與ヲ受ケテ收賄シ

(ロ) 昭和六年一、二月頃岡山市内山下料理店備前屋ニ於テ右藤原知道ヨリ前同様趣旨ノ請託ヲ受ケ其ノ報酬トシテ饗應スルモノナルコトヲ知りナカラ即時同所ニ於テ割前分十二圓相當ノ饗應ヲ受ケテ收賄シ

(ハ) 被告人村上周治ノ肩書居宅ニ於テ右藤原知道ヨリ右補償額カ前記冒頭掲記ノ如ク決定下附セラルルニ付職務上盡力シタル報酬トシテ供與スルモノナルコトヲ知りナカラ同年八月頃現金百圓同年十二月頃現金百圓ノ供與ヲ受ケテ收賄シ

(ニ) 昭和七年三月頃右藤原知道ヲシテ被告人村上周治等都市計畫事業委員四名及都市計畫課員六名ノ備前屋ニ於ケル遊興費百二圓十九錢ヲ前同様趣旨ノ下ニ直接右備前屋ニ支拂ハシメ其ノ割前

分十圓二十一錢相當ノ債務ヲ免レ同額ノ利益ヲ受ケテ收賄シ

第四 岡山市船頭町所在ノ同市立實業專修學校舎ハ既ニ其ノ建築後多數ノ年月ヲ經過シテ腐朽甚シク又同市内山下所在ノ同市立商業學校モ男女分立ノ必要アリタル爲右兩校移轉改築ノ議起リ市當局ニ於テハ右兩校ヲ併置セシムル方針ノ下ニ前者ニ付一千坪後者ニ付三千坪ノ敷地買收計畫ヲ樹立シ先ツ昭和六年度豫算市會ニ於テ右實業專修學校敷地買收費等ノ豫算案ヲ提出可決セシメ其ノ後種々調査シタル結果右敷地ヲ同市東古松地内ニ選定シ同所ニ右二校ヲ併置セシムヘキ意向ヲ以テ昭和七年度豫算市會ニ於テ右商業學校男子部敷地買收費等ノ豫算案ヲ提出シ之ト同時ニ敷地ノ選定ニ付前者ノ一千坪ヲ東古松地内ニ於テ取得スル旨ノ甲第四〇號議案ヲ提出セシカ後者ノ三千坪モ亦其ノ隣地ヲ取得スル意向ナル旨説明アリテ右甲第四〇號議案ハ同年三月二十六日ノ市會ニ於テ委員附託トナリ其ノ後數回ノ委員會ヲ經テ市會ニ附議セラレタルモ廢案ニ歸シタルモノナル處

(一) 被告人山崎定太郎ハ市當局ノ前示意向ヲ察知シ且右商業學校敷地ニ自己所有ノ土地約七百坪ヲ包含セルヲ知ルヤ自己カ先代山崎重吉名義ヲ以テ右東古松地内二十一筆ノ土地ヲ所有セルヨリ右收用補償金ノ取得及將來近隣地價ノ騰貴竝岡南ノ發展其ノ他多大ノ利益アルヲ思ヒ右甲第四〇號議案ノ通過ヲ熱望セシカ市會ニ反對ノ氣運漂ヒ特ニ同市會議員川口魁等斯民會ノ一派カ同議案ニ反對シテ昭和七年度豫算ノ大削減ヲ高調シ形勢逆路シ難キ狀況ニ立到リタルヨリ

(イ) 昭和七年三月十七、八日頃ノ午後十一時頃同市花畑ナル右川口魁方ニ於テ同人ニ對シ豫算案ニ妥協ノ名ヲ藉リ暗ニ右甲第四〇號議案ニ賛成セラレ度キ旨請託シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ同人妻カナエノ手ヲ經テ現金二百圓ヲ提供シ

(ロ) 同年四月初旬頃被告人山崎定太郎ノ肩書居宅ニ於テ同市會議員タル被告人山口百治ニ對シ右甲第四〇號議案ニ賛成セラレ度キ旨請託シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ同人ニ對シ現金百圓ヲ供與シテ贈賄シ

(二) 被告人山口百治ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ當選シ爾後其ノ職ニアリタル者ナルカ昭和七年四月初旬頃被告人山崎定太郎ノ肩書居宅ニ於テ職務上前掲第四(一)(ロ)ノ如ク甲第四〇號議案ニ賛成セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ即時同所ニ於テ現金百圓ノ供與ヲ受ケテ收賄シ

第五事實省略

第六 岡山市門田瀬崎留吉所有ニ係ル同市下田町十八番地宅地三百四十五坪ヲ貫通スル岡山市道ノ新設ハ數年來ノ懸案ニシテ市當局ニ於テハ總豫算二萬三、四千圓ヲ以テ昭和六、七兩年度ノ繼續事業トシテ施行スルニ決シ先ツ昭和六年度豫算ニ六千圓ヲ計上シ同市會ヲ通過セシメタルカ同年中工事ニ著手スルニ至ラス更ニ昭和七年度豫算ニ於テ一萬七千七百圓ヲ計上シ同市會ニ於テ七百圓ヲ削減

セラレ其ノ後工事ヲ實施セシモノナルトコロ

被告人森安豊次郎ハ昭和四年七月岡山市會議員ニ再選セラレ其ノ職ニ在リタルモノナルカ右市道新設費カ昭和六年度豫算市會ニ提案セラルルニ際リ前記瀬崎留吉ノ依頼ヲ受ケ右市道新設ノ促進運動ニ從事シ居リタル前田定男ヨリ前示市道新設費ノ豫算案ニ賛成セラレ度キ旨ノ請託ヲ受ケテ之ヲ承諾シ其ノ報酬トシテ昭和六年七月初旬頃岡山市役所ニ於テ現金五十圓ノ供與ヲ受ケテ收賄シ

第七事實省略

而シテ被告人山崎定太郎同坂本永太郎同黒太三二同山口百治同村上周治同原貫一郎同森安豊次郎ノ前記各贈賄ノ所爲ハ何レモ夫々犯意繼續ニ係ルモノトス

法律ニ照スニ被告人等ノ判示所爲中被告人吉田猪八郎ノ背任ノ所爲ハ刑法第二百四十七條ニ賄賂交付ノ各所爲ハ同法第九十八條第一項第五十五條ニ各該當スルトコロ以上ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ所定刑中各懲役刑ヲ選擇シ同法第四十七條第十條ニヨリ重キ背任罪ノ刑ニ法定ノ加重ヲ爲シタル刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役六月ニ處シ被告人山崎定太郎ノ賄賂提供及賄賂交付ノ所爲ハ同法第九十八條第一項第五十五條ニ該當スルヲ以テ所定刑中罰金刑ヲ選擇シ其ノ金額範圍内ニ於テ同被告人ヲ罰金百五十圓ニ處シ被告人片山直八ノ賄賂收受ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段ニ該當スルヲ以テ所定刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役三月ニ處シ被告人原貫一郎ノ賄賂收受及賄賂約

束ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルトコロ右ハ判示第一(二)冒頭掲記ノ判決確定前ニ犯シタルモノナルヲ以テ同法第四十五條後段第五十條ニ則リ所定刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役五月ニ處シ被告人山口百治 黒太三二 坂本永太郎ノ各賄賂收受ノ所爲ハ各同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ被告人山口百治ヲ懲役六月ニ處シ被告人黒太三二及坂本永太郎ヲ執レモ懲役四月ニ各處シ被告人村上周治ノ賄賂收受ノ各所爲ハ同法第九十七條第一項前段ニ賄賂交付幫助ノ所爲ハ同法第九十八條第一項第六十二條第一項ニ各該當スルトコロ右ハ連續一罪ナルヲ以テ同法第五十五條第十條ニヨリ犯情重キ賄賂收受罪ノ刑ニ從ヒ其ノ刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役五月ニ處シ被告人森安豊次郎ノ賄賂收受ノ各所爲及賄賂約束ノ所爲ハ同法第九十七條第一項前段第五十五條ニ該當スルヲ以テ其ノ所定刑期範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役六月ニ處シ被告人山崎定太郎ニ於テ右罰金ヲ完納スルコト能ハサルトキハ同法第十八條ニ則リ金額二圓ヲ一日ニ換算シタル期間同被告人ヲ勞役場ニ留置スヘク被告人村上周治 原貫一郎 山口百治 森安豊次郎 黒太三二 坂本永太郎ニ對シテハ同法第二十一條ニ則リ夫々主文掲記ノ如ク原審ニ於ケル未決勾留日數ノ一部ヲ右本刑ニ各算入シ

被告人片山直八 吉田猪八郎ニ對シテハ何レモ刑ノ執行ヲ猶豫スヘキ情狀アリト認メ同法第二十五條ニヨリ本裁判確定ノ日ヨリ各三年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘク押收ニ係ル昭和八年(公)第二五號事件

ノ證第六三號銀瓶一個ハ被告人村上周治ノ收受セル賄賂ナルヲ以テ同法第九十七條第二項前段ニヨリ之ヲ沒收シ

被告人森安豐次郎ノ收受セル賄賂現金合計一千二百十圓被告人山口百治ノ收受セル賄賂現金合計百五十圓饗應對價合計十八圓九十錢總計百六十八圓九十錢被告人村上周治ノ收受セル賄賂現金合計三百圓饗應對價合計二十二圓二十一錢總計三百二十二圓二十一錢被告人原貫一郎ノ收受セル賄賂現金二百圓被告人黒太三ノ收受セル賄賂現金合計二百二十五圓饗應對價合計十二圓四十七錢總計二百三十七圓四十七錢被告人坂本永太郎ノ收受セル賄賂現金合計百四十五圓ハ何レモ之ヲ沒收スルコト能ハサルヲ以テ各同法第九十七條第二項後段ニ則リ夫々被告人等ヨリ主文掲記ノ如ク其ノ價額ヲ追徴スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項第二百三十八條ニヨリ主文掲記ノ如ク當該被告人ニ對シ其ノ負擔ヲ命スヘキモノトス

尙ホ第二審ハ辯護人ノ申請ニ係ル證據調ヲ爲サヌ又被告人ノ利益ト爲ルヘキ證據ヲ採用セス尙又豫審ニ於テハ甲被告人ノ瀆職事實ニ非サル乙被告人ノ瀆職事實ニ付キ甲被告人ニ對シテ乙被告人ノ瀆職事實ニ付被告人トシテ訊問ヲ爲シタリ

○主 文

本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

○理 由

被告人原貫一郎辯護人則井萬壽雄上告趣意書第一點原判決ハ審理ヲ盡サヌ幾多無罪ノ證據ヲ閑却シタル不法アルノミナラス常識上判斷シ得ヘキ事柄ヲ判斷セサリシ違法アルモノト信ス一、宇野村ヲ岡山市ニ編入スル可否ノ諮問案カ岡山市會ニ提案サレタノハ昭和六年三月三十一日テアツテ同村長被告吉田猪八郎カ岡山市丸龜町ノ街路ニ於テ被告原貫一郎ニ贈賄シタト稱スル同年一月頃ニハ右編入問題ハ未タ具體的ノモノテハナカツタコトハ關係者ノ供述等ニ依リ頗ル明瞭テアル然ルニ村長タル吉田猪八郎カ斯ル未確定ノ問題ニ對シ被告ニ賄賂ヲ提供スル道理カナイ又其ノ頃左様ナ金ヲ村長カ勝手ニ支出シテモ他日村會カ之ヲ承認セヌカモ知レヌ又村長カ之ヲ認メテモ監督官廳ハ之ヲ認可セヌテアロウ全體村長ニ限ラス公職ニ在ル者カ其ノ職務ニ關シ自腹ヲ切ツテ犧牲ヲ拂フト云フ場合ハ餘程事件カ切迫シタモノテナケレハナラヌ村會ヲ招集スル暇ノナイ場合トカ或ハ之ヲ放任スレハ回復スルコトノ出來ナイ事態ヲ惹起スルト云フ緊急ノ場合テナケレハソソ立替ヤ臨機ノ處置ヲスル筈カナイ又村長トシテ十數年間公職ニ在ル人カ市會副議長ト云フ榮職ニ在ル被告ニ對シ自畫岡山市ノ街路ニ於テ賄賂ノ取引ヲシタト云フカ如キ左様ナ不自然ナ非常識ハ想像スルコトカ出來ヌ併シ兩者カ平素別懇ノ間柄テアリ事件カ如何ニモ切迫シタモノテ一日一刻ノ猶豫カナラヌト云フ場合テアルナラハ例ヘハ諮問案カ一

證據調ノ限度及證據ノ取捨判斷ト上告理由 共同被告人ノ訊問ト其ノ範圍

兩日中ニ市會ニ提案サルルコトニナツテ居リ今賄賂ヲ渡シテ置カネハ機會ヲ失フ目的ノ達成カ困難テアルト云フ場合テアルナラハ白晝街路テ賄賂カ行ハレタト云フコト必スシモ首肯出來ヌ事柄テハナイカ本件諮問案ノ附議ハ左様ナ差シ追ツタ焦眉ノ問題テハナカッタ又吉田ト原ハ當時一面識モナイ間柄(第一審公判當日初對面ノ挨拶ヲシタト云フニ過キス第二審第一回公判調書御參照)テアツタカラ白晝街路テ賄賂ノ取引カ行ハレタト云フコトハ常識上信スルコトカ出來ヌ又金ヲ渡シタト云フ日ハ同年一月上旬テアツテ諮問案カ市會ニ附議サレタノハ三月三十一日テ此ノ間七八十日モ餘裕カアル夫レニ村長カ村會ノ決議モナイノニ自腹ヲ切ツテ往來ノ途中テ賄賂ヲ授受シタト云フカ如キ事柄ハ斷シテ信スルコトカ出來ヌ政治ノ實際ハ決シテソシナモノテハナイ二、金ノ出所ニ關スル吉田猪八郎ノ自白村長吉田猪八郎カ被告原貫一郎ニ交付シタト云フ金ノ出所如何賄賂ハ昭和六年一月七日頃ニ行ハレテ居ル而シテ村長吉田カ村會ノ決議ニ依ツテ慰勞金ヲ貰ツタノハ同年四月上旬テアル然ラハ吉田カ一月七日頃ニ支出シタ金ノ出所如何カ問題トナルノテアル吉田猪八郎檢事聽取(昭和七年九月四日)第五問答ニ依ルト原貫一郎等ニ賄賂トシテ交付シタ金ハ居村宇野吉藏ト隣家吉田房次郎カラ借受ケタ金ヲ以テ支辨シ同年三月三十一日村會ノ決議ニ依リ貰ヒ受ケタ其ノ金ヲ右兩人ニ返濟シタコトニナツテ居ル然ルニ證人宇野吉藏訊問調書(昭和七年十一月十六日)第二問答ニ依ルト同人カ昭和六年一月頃吉田ニ對シ一厘ノ金モ貸付ケタ事實カナイ又證人吉田勇太郎訊問調書(同日)第二問答ニ依レハ昭和七年九月

頃吉田猪八郎カ檢舉ニナル前日ニ金八百圓ヲ貸付ケタコトハアルカ昭和六年一月頃ニハ毫モ貸借事實ハナイト證言シテ居ル又吉田猪八郎被疑者第二回訊問調書第三問答ニ依ルト同人ハ昭和六年一月頃岡山信用組合カラ同人ノ預金五百圓内外ノモノヲ引出シ其ノ内金一百四、五十圓ヲ市内岩田町肥料問屋横田宗治ニ肥料代内入金トシテ支拂ヒ其ノ殘金ノ内金二百圓也ヲ被告原貫一郎ニ贈賄シタ旨自白シ居ルノテアルカ證人吉岡龜一訊問調書(昭和七年十一月四日)第五問答ニ依ルト昭和六年一月頃吉田猪八郎ハ信用組合ニハ何等關係ノナイ人テ其ノ頃同人及同人家族名義ノ預金ハ一厘モナカッタ從テ同年月頃金錢ノ受拂ハ毫モナカッタト證言シテ居ル様ニ賄賂ノ金ノ出所ニ關スル吉田ノ自白ハ出鱈目テアル三、吉田猪八郎カ昭和六年三月三十一日村會ノ決議ニ依ツテ村カラ貰ツタ金一千二百圓也ハ同年四月二十二日居村宇野吉藏ニ賣却シタ田地ノ代金一千一百圓也及岡山市カラ合併慰勞金トシテ貰受ケタ金一千二百圓也ト共ニ猪八郎親子ノ名義テ岡山市上ノ町郵便局ト居村信用組合トニ全部預金セラレアリ毫モ消費シテ居ラヌコトハ取寄記録ニ依ツテ立派ニ證明サレテ居ルカラ右慰勞金ハ同年一月中原貫一郎ニ遣ツタ金ノ穴埋メニハナツテ居ラヌ四、賄賂ノ金額及ヒ取引場所ニ矛盾アリ(イ)吉田猪八郎檢事聽取(昭和七年九月四日)第四問答ニ依ルト原貫一郎ニ昭和六年一月七日贈賄シタ金額ハ四百圓テアツテ其ノ金ハ原ノ自宅ヲ訪問シテ同人ニ手交シタコトニナツテ居ルカ其ノ後同人第二回被疑者訊問ノ時前供述ヲ翻シテ金額ハ二百圓トナリ之ヲ渡シタ場所ハ岡山市丸龜町ノ街路ニナツテ居ル又被

疑者第二回訊問ノ時ニハ吉田猪八郎ハ天地神明ニ誓ツテ間違ナイト供述シテ居ルノテアルカ其ノ金ノ出所ニ付ハ鱈目カアルノミナラス贈賄ノ日ニ取引シタト稱スル横田肥料店並杉山種物店ヘノ支拂モ全ク事實無根テアツタコトカ關係者ノ取調ニヨリ事實明瞭シテ居ル五、吉田猪八郎ハ何故虚偽ノ自白ヲ爲シタルヤ(イ)吉田猪八郎檢事聴取(昭和七年九月三日)ニ依ルト同人ハ最初キツバリ瀆職ノ事實ヲ否認シテ居ル(ロ)同人豫審第五回訊問(同年十二月五日)ハ最終訊問テアルカ同人ハ原貫一郎ニ對スル贈賄事實ヲ否認シ是迄自白シタノハ皆心ニモナキ誣告テアルコトヲ言明シ居ル(ハ)公判ニ於テハ豫審ノ自白ハ全然虚偽ナルコトヲ主張シテ居ル然ラハ何故中途斯ル自白ヲ爲スニ至ツタノテアルカ此ノ事ニ付テハ原審ニ於テ被告吉田カ其ノ事情ヲ稍詳細ニ申述ヘテ居ル(原審第一回公判調書御參照)又其ノ述ヘタ事ニ詐リノナイコト即同人ノ自白ハ全然誣告テアルコトハ左ノ事實及證據ニ依ツテ明瞭テアル一、岡山刑務所ヨリ取寄ニ係ル(イ)吉田猪八郎獄中舉動日記吉田カ檢事及豫審判事ヨリ村會ノ決議ト金ノ使途ノ相違スル點ニ付峻烈ナル取調ヲ受ケ其ノ辯解ニ窮シテ心ニモナキ自白ヲ爲シ爲之罪ナキ他人ニ迷惑ヲ掛ケタルコトヲ後悔シ幾度カ檢事及豫審判事ニ對シ供述ノ變更ヲ申出テタルモ許サレヌ爾來懊惱煩悶數十日間殆ント不眠絶食ノ状態ヲ續ケ遂ニ精神ニ異狀ヲ來シタル顛末記載アルコト(ロ)看守長稻垣正一ヨリ岡山刑務所長片山始宛「刑事被告人自殺未遂ノ件」ト題スル報告書ニ被告吉田拘禁後極度ニ興奮シ煩悶ヲ續ケ幾度カ獄中自殺ヲ企テタルコトノ顛末記載アルコト

(ハ)岡山刑務所保健技師多田隈健雄ノ診斷書ニ被告吉田ハ極度ニ煩悶シ遂ニ精神ニ異狀ヲ來シタル旨ノ記載アルコト(ニ)吉田ノ妻ユキハ爾來家業ヲ抛擲シテ毎日各所ノ神佛ニ原貫一郎ノ無罪祈願ヲ爲シ居ルコト(原審第一回公判調書御參照)等ニ依リ吉田ノ自白ハ誣告テアツテ原審カ唯一ノ證據ト爲セル同人第二回被疑者訊問調書ハ不法無効ノモノテアル六、若シ原審ニ於テ慎重ニ審理ヲ遂ケラレタランニハ本件ハ當然無罪ノ判決ヲ受クヘキモノト確信スル次第テアル七、之原判決ニ證據遺脱審理不盡ノ不法アリト云フ所以ナリト云ヒ「第二點饗應費約束ノ件本件ニ付テモ原判決ニハ第一點同様ノ不法アルモノニシテ破毀ヲ免レスト信ス一、被告人原貫一郎ハ檢事取調以來終始一貫賄賂ノ約束ヲ否認シテ居ル然ルニ原審カ政治プロトカトシテ毫モ信用ナキ被告兒島某ノ自白ヲ唯一ノ證據トセラレタコトハ遺憾ニ堪ヘヌ元來昭和六年三月中旬頃市會議員ノ同志二十數名カ料亭新花月ニ會合シタノハ(イ)市編入問題協議ノ爲テナクシテ市會ノ融和ヲ圖ル爲テアツタコト(ロ)又右會合ハ兒島某ノ云フカ如ク原ヤ森安ノ發起テナク議員小山美登四ノ發起ナリシコト(ハ)會員ノ饗應ニアラスシテ一人前金二圓五十錢ツツノ割前ナリシコトハ證人小山美登四同川口魁ノ證言被告森安豊次郎ノ供述等ニ依リ洵ニ明瞭テアル二、若シ原貫一郎等ノ發起ニカカリ會費カ平井、宇野兩村ノ負擔トナルヘキモノトセハ一、第一其ノ金額ノ取極メカナクテハナラヌ二、出席者一同カ割前ヲ出金スル筈ナク又現ニ不足シタル宴會費ヲ小山某一人ノ負擔トスル道理ナシ三、又眞ニ約束カアツタモノトスレハ後日兒島カ宇

證據調ノ限度及證據ノ取捨判斷ト上管理由 共同被告人ノ訊問ト其ノ範圍

野村長ニ請求シタ際其ノ支出ヲ拒否スル筈カナイ(證人兒島喜多治證言御參照)三、又兒島某カ變應ヲ約束シタト云フ場所ニ付同人ハ豫審及檢事廷ニ於テハ原ノ宅ヲ約束シタト云ヒ第一審公判ニ於テハ岡山市役所ノ市政記者室テヤツタト云ヒ又新花月ニ會合シタ日ニ付テモ兒島ノ云フコトハ事實ト相違シテ居ル斯ク無罪ノ證據カ十分テアルニ拘ラス原審カ之ヲ閉却シタル結果審理ヲ盡ササリシモノト云ハネハナラヌ要之本件上告ハ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨事實ノ認定ヲ批難スルモノニアラサルヲ以テ慎重御審理アラント切望スル次第ナリト云フニ在リ

然レトモ凡ソ刑事ノ裁判ハ實體的眞實發見ヲ主義トシ裁判所職權ヲ以テ諸般ノ取調ヲ爲シ被告事件ニ付事實ノ眞相ヲ究明スヘク其ノ有罪ヲ斷スルニ當リテハ須ラク證據ニ依ルコトヲ要スヘキモ其ノ如何ナル程度ニ於テ證據ノ取調ヲ爲スヘキヤ又其ノ取調ヘタル證據ニ付如何ナル證明力ヲ付スヘキモノナリヤハ苟モ實驗上ノ法則ニ反セサル限り裁判官ノ自由ナル心證確信ニ委セラレタルモノナルコト刑事訴訟法第三百三十七條ノ明規スル所ナリトスサレハ事實裁判所カ此ノ法ノ精神ニ遵ヒ事實ヲ確定シタルモノナルトキハ訴訟關係人ノ申請シタル證據調ヲ排斥シ或ハ被告人ニ利益ト爲ルヘキ證據ヲ採用セサリシトスルモ審理不盡又ハ探證法則ノ違反ヲ以テ論スヘキニ非サルナリ所論ハ畢竟原審ノ職權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延テ事實ノ認定ノ不當ナルコトヲ論垂スルニ過キス記錄ニ徵スルモ其ノ事實ヲ確定スルニ付テノ法則ニ違反シタルコトヲ疑フヘキ顯著ナル事由アルコトナシ論旨採ルニ足ラス

【要旨第一】

被告人山崎定太郎辯護人秋山高三郎 赤井幸夫上告趣意書第一點原判決ハ無効ノ證據ニヨリテ罪ヲ斷シタル違法アルモノナリ原判決ハ被告人大森多三郎ニ對スル豫審第六回訊問調書同霜山健一ニ對スル豫審第五回訊問調書同森安豐次郎ニ對スル第三回訊問調書ヲ主ナル證據トシテ判示事實ヲ認定シタルモノナリト雖右各被告人ニ對スル豫審調書ノ内容ヲ見ルニ執レモ自己自身カ起訴セラレタル犯罪事實ニ何等ノ交渉ヲ有セス全ク上告人定太郎ト川口魁竝山口百治ニ關スル起訴事實ニ關シ同人等カ會テ見聞セル事項ニ付陳述ヲ爲シタルモノナリ斯ノ如ク右大森多三郎以下ノ人々ハ上告人川崎定太郎對川口魁竝山口百治トノ間ニ賄賂ヲ授受セラレタリトノ事案ニ付テハ全ク第三者ノ地位ニアリテ會テ見聞セル事項ノ陳述ヲ求メラルル次第ナルヲ以テ其ノ地位純然タル證人ナリ左レハ豫審判事カ右大森多三郎以下ノ人々ヲ訊問スルニ當リテハ之ヲ證人トシテ資格ヲ審查ヲ爲シ宣誓ヲ命シタル上陳述ヲ爲サシメサルヘカラサリシモノナリト然ルニ豫審判事ハ事茲ニ出テス唯單ニ同人等ハ他ノ事件ニ付當時起訴セラレアリトノ理由ノミニヨリ直チニ被告人トシテ前示上告人定太郎對山川魁竝山口百治ノミニ關スル事案ニ付訊問ヲ爲シタルハ違法ニシテ從テ右訊問調書記載ノ内容ハ無効ナリ從テ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル原判決ハ違法ニシテ此ノ點ニ於テ破毀ヲ免レサルモノト信スト云フニ在リ

按スルニ刑事ノ裁判ハ實體的眞實發見ヲ本義トシ裁判所ハ被告事件ニ付職權ヲ以テ諸般ノ取調ヲ爲シ事案ノ眞相ヲ究明スヘキモノナレハ檢事ノ提起シタル公訴ノ内容カ被告人ヲ特定シ特定ノ犯罪事實ヲ

【要旨第二】

指示シタルトキト雖裁判所ハ苟モ被告事件ニ關係アリト認メラルル一切ノ事項ニ付取調ヲ爲シ得ヘキ
 ヤ言ヲ俟タス例ヘハ本件ノ如キ市會議員ノ職ニ在ル公務員カ贈收賄ノ瀆職事實アリトシテ公訴ノ提起
 アリタル場合ニ於テ其ノ公訴ノ内容ニ從ヘハ甲被告人ノ瀆職事實ト乙被告人ノ瀆職事實トハ別個ノ事
 實關係ニ屬スルトキト雖苟モ當該被告事件ノ事實ノ真相ヲ認識スルニ必要ナル限リ甲被告人ニ對シ乙
 被告人ノ瀆職事實ニ關シ被告人トシテ訊問ヲ爲スヲ妨クルモノニ非ス蓋シ自己ノ被告事件ノ事實ニ非
 サル事項ニ對シテハ被告人トシテ訊問ヲ爲シ得サルモノトスルニ於テハ刑事裁判ノ本義ヲ沒却スルニ
 至ルヘケレハナリ故上ノ見地ニ基キ本論旨ノ當否ヲ考フルニ所論被告人大森多三郎ニ對スル豫審第六
 回訊問調書同霜山健一ニ對スル豫審第五回訊問調書及同森安豐次郎ニ對スル豫審第三回訊問調書ニ於
 ケル訊問答述ノ内容ハ偶々當該被告人ハ第三者ノ地位ニ在リテ曾テ見聞セル事項ノ陳述ヲ爲シタル外
 觀ナキニ非サルモ其ノ實當該被告人ニ對スル被告事件ノ事實ノ真相ヲ認識スル上ニ於テ極メテ必要ナ
 ル事項ノ問答ニ屬スルモノト認ムヘキカ故ニ所論ノ如ク全然公訴事實ニ沒交渉ナル問答ナリト論スヘ
 キニ非スサレハ所論豫審調書ヲ目シテ無効ナリト云フヲ得ス論旨理由ナシ(其ノ他ノ上告論旨及判決
 理由ハ之ヲ省略ス)

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第四百四十六條ニ則リ主文ノ如ク判決ス

檢事棚町丈四郎關與

○瀆職偽證被告事件 (昭和八年(九)第一一八六號 棄却)
(同九年三月二十六日第二刑事部判決)

【上告人】 (東京控訴院檢察長 辯護人)
 被告 丸野久太郎
 中島守利
 外十八名
 辯護人 丸野久太郎
 丸山耕策
 寺田綱一
 今村力三
 外五十名

【第一審】 東京地方裁判所 【第二審】 東京控訴院

○判示事項

檢事ノ連續犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意
 繼續ノ收賄 收賄罪ト職務執行ノ正否 收賄者ノ何人ナルカヲ知
 ラサル贈賄共謀者ノ責任

○判決要旨

檢事ノ連續犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意繼續ノ收賄
 贈賄共謀者ノ何人ナルカヲ知ラサル贈賄共謀者ノ責任

一 檢事力或ル犯罪事實ニ付公訴ヲ提起シタル後該事實ト連續犯ノ關係アリト認メタル他ノ犯罪事實ニ付審判ヲ求ムル爲新事實ヲ指定シ之ヲ裁判所ニ通知スルトキハ其ノ通知ニ係ル事實ハ爾後前起訴狀中ニ記載アリタルト同一ノ效果ヲ生スルモノトス【要旨第一】

二 市會議員ノ任期終了後改選ニ依リ直ニ再ヒ同市會議員ニ就職シタル者力前任期中ニ行ヒタル收賄行爲ト後任期中ニ行ヒタル同行爲トハ犯意ノ繼續スルニ於テハ連續犯タルモノトス【要旨第二】

三 公務員其ノ職務ニ關シ謝禮ヲ收受スル以上其ノ職務上執リタル措置力正當ナルト否トヲ問ハス收賄罪ヲ構成ス【要旨第三】

四 市會議員ヲ買収スヘキコトヲ共謀シ買収資金ヲ共謀者ノ一人ニ交付シタル者ハ其ノ何レノ議員ニ交付セラルルカヲ知ラサルモ共犯者ノ爲シタル賄賂ニ付責任ヲ免レス【要旨第四】

【參照】 刑事訴訟法第二百八十八條 公訴ノ提起ハ豫審又ハ公判ヲ請求スルニ依リテ

之ヲ爲ス

同法第二百九十一條 公訴ヲ提起スルニハ被告人ヲ指定シ犯罪事實及罪名ヲ示スヘシ

被告人ノ指定ハ氏名ヲ以テシ氏名知レサルトキハ容貌、體格其ノ他ノ徵表ヲ以テスヘシ

刑法第九十七條第一項 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

同法第九十八條第一項 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

同法第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

同法第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

○ 事實

第二審ハ左記ノ如ク事實ノ認定及法律ノ適用ヲ爲シ被告人大野敬吉 小森七兵衛 倉田金三郎ヲ各懲役七月ニ被告人大井善藏 中島守利 村山賢作ヲ各懲役五月ニ被告人矢野鉉吉ヲ懲役四月ニ被告人三木武吉ヲ懲役三月ニ被告人坪野房治 戶倉嘉市 増田由太郎 平林發司 小原要三郎ヲ各懲役二月ニ被告人片山久藏 天野富太郎 細谷鎌太郎 小幡敏男 小嶋龜藏ヲ各懲役一月ニ處ス被告人坪野房治 片山久藏 戶

檢事ノ連續犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意繼續ノ收賄 收
賄罪ト職務執行ノ正否 收賄者ノ何人ナルカヲ知ラサル賄賂共謀者ノ責任

倉嘉市 細谷鎌太郎 増田由太郎 平林發司 小原要三郎 小嶋龜藏ニ對シテハ裁判確定ノ日ヨリ二年間 被告人小幡敏男ニ對シテハ同一年間夫レ夫レ本刑ノ執行ヲ猶豫ス被告人坪野房治ヨリ八百圓被告人片山久藏 平林發司 小原要三郎ヨリ各千圓被告人大野敬吉 矢野鉞吉ヨリ各五千圓被告人小森七兵衛ヨリ三千五百圓被告人大井善藏ヨリ三千八百圓被告人中島守利ヨリ四千圓被告人戸倉嘉市ヨリ二千圓被告人天野富太郎 細谷鎌太郎ヨリ各五百圓被告人村山賢作ヨリ三千圓被告人小幡敏男 小嶋龜藏ヨリ各三百圓被告人倉田金三郎ヨリ五千五百圓ヲ追徴ス(押收物件ノ處分及訴訟費用ノ負擔ニ關スル部分省略)被告人瀧澤七郎 藤浦富太郎 豊浦與七 飯岡清雄ハ各無罪トストノ判決ヲ言渡シタリ

第一 舊日本橋魚市場ハ東京市日本橋區内本小田原町長濱町外三ヶ町ニ跨リ約二萬坪ノ廣大ナル地域ニ開設セラレ三百年ノ古キ沿革ヲ有セシモノナルカ明治二十二年頃ヨリ東京市區改正條令ニヨリ移轉問題起リシモ種々ナル事情ノタメ遷延シ來リタルトコロ大正十二年三月中央卸賣市場法公布セラレルヤ東京市ニ於テハ直ニ中央卸賣市場開設ノ準備ニ著手シ諸般ノ基礎的調査ヲ爲シ居リタル折柄偶々同年九月大震災アリ市内ニ散在セル右日本橋魚市場外各卸賣市場罹災シタルニヨリ之ヲ好機トシ當時食糧品ノ配給杜絶セシ爲メ應急處置ヲ兼ネ中央卸賣市場開設ノ前提トシテ取敢ヘスバラツクノ假設市場ニ罹災市場ヲ收容セント企テ大正十二年十二月一日右魚市場ヲ同市京橋區築地四丁目一番地海軍用地ノ一部ニ移轉セシメ茲ニ東京市魚市場ヲ開設シ當時芝浦埋立地ニ於テ假ニ營業ヲ開

始シツツアリシ舊日本橋魚市場ノ營業者タル同市場組合員全部ヲ之ニ收容スルニ至レリ然ルトコロ前記舊日本橋魚市場ニ於テハ古キ慣習ニ依リ認メラレタル所謂板船權平田船權ト稱スルモノ及冷蔵庫ナルモノアリテ其ノ所有者及價格ハ同組合ノ調査ニ依レハ板船權者ハ二百十四名其ノ價格ハ約七百九萬圓平田船權者ハ十三名其ノ價格ハ約四萬八千圓冷蔵庫ノ所有者ハ原審相被告人高村増太郎外一名其ノ價額ハ約五十萬圓ナリト稱ス右板船權ノ所有者タル原審相被告人高村増太郎同篠崎將次及板船權ノ賃借人タル原審相被告人相川源八等其ノ他組合員中斯ル權利ヲ有セシ者等ハ右移轉ニヨリ前記ノ如キ價格アル權利ヲ一朝ニシテ喪失スルニ至リタルヲ以テ移轉ノ際市理事者カ同市場ノ損害ニ對シテハ相當ノ補償ヲ爲スヘキ旨言明シタルトコロニ基キ該權利ニ對シ東京市ヨリ補償金ノ交付ヲ受ケンコトヲ企圖シ大正十三年三月三十日右組合ノ臨時總會ヲ開キ委員ヲ選ヒ市ニ對スル交渉ノ件ヲ決議シテ愈々運動ヲ開始シ當時ノ市會議員被告人坪野房治等ノ斡旋ニヨリ東京市理事者ニ對シ屢々補償金交付方ヲ陳情シタルカ東京市會ハ大正十四年二月十二日同市參事會ニ於テ市設卸賣市場使用條例設定ノ件ヲ審議スルニ當リ舊日本橋魚市場廢止ニ付テハ理事者ハ市場營業者ノ板船權補償ニ關シ相當考慮セラレンコトヲ望ムトノ希望條件ヲ付シ尙同年三月二十八日ノ同市會ニ於テ舊日本橋魚市場廢止ニ付テハ理事者ハ市場營業者ノ板船權、平田船權及冷蔵庫權ノ補償ニ關シ考慮ノ上相當ノ措置ニ出テラレンコトヲ望ム旨決議シ時ノ市長中村是公ハ之ニ鑑ミ大正十五年三月二十四日市

檢事ノ連犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意繼續ノ收賄 收
賄罪ト職務執行ノ正否 收賄者ノ何人ナルカ知ラサル賄賂共謀者ノ責任

參事會ノ同意ヲ得テ同市會ニ舊日本橋魚市場ニ於テ大正十二年九月一日現ニ板船權、平田船權ヲ有セシ者ニ對シ百萬圓ノ範圍内ニ於テ補償金ヲ交付セムトスル所謂板船補償案ヲ提案シ該案ハ同月三十日ノ市會ニ於テ當時ノ市會議員被告人瀨川光行同坪野房治同大野敬吉同小森七兵衛同村山賢作同倉田金三郎同田中康三同三枝米太郎等十九名ノ委員附託トナリ同調査委員會ニ於テ數次審議ヲ重ネタルモ大正十五年六月市會議員ノ任期滿了ト共ニ審議未了ニ終リ次テ西久保弘道市長ニ就任スルヤ昭和二年一月二十九日改メテ同市會ニ舊日本橋魚市場ニ於テ大正十二年九月一日現ニ板船權、平田船權ヲ有セシ者及臨時江東青物市場ニ收容セル各青物市場ニ於テ特殊權利ヲ有セシ者ニ對シ九十萬圓ノ範圍内ニ於テ交付金審査委員會ノ審査ヲ經テ市長ニ於テ決定シタル交付金ヲ支給セントスル所謂板船補償案ヲ提案シ同案ハ昭和二年二月二日ノ市會ニ於テ當時ノ市會議員被告人五木田治郎吉同大井善藏等十五名ノ委員附託トナリ該案モ亦數次審議セラレタルカ年度内タル同年三月中審議完了セサルノ故ヲ以テ市長ニ於テ一旦同案ヲ撤回シ昭和二年三月三十一日更ニ同一内容ヲ有スル補償案ヲ同市會ニ提案シ同案ハ同年四月十八日ノ市會ニ上程セラレ當時ノ市會議員被告人小坂久萬吉同五木田治郎吉同小森七兵衛同大野敬吉同瀨川光行同大井善藏同倉田金三郎等十五名ノ委員附託トナリ同委員會ハ小坂久萬吉ヲ委員長トシテ數次審議ノ末昭和三年二月二十八日同調査委員會ニ於テ原案ニ對シ冷蔵庫業ヲ營ミシ者ニ對シテモ亦補償スヘシトノ修正案可決セラレ續イテ同年三月三十日

ノ市會本會議ニ於テ漸ク二票ノ差ヲ以テ原案ヲ更ニ修正シ前掲板船權、平田船權ヲ有セシ者及臨時江東青物市場ニ收容セル各青物市場ニ於テ特殊權利ヲ有セシ者ニ對シ七十萬圓ノ範圍内ニ於テ交付金ヲ支給セムトスル修正案ノ通過ヲ見ルニ至レルカ被告人小森七兵衛同坪野房治同五木田治郎吉同大野敬吉同瀨川光行同倉田金三郎ノ六名ハ大正十一年六月以降昭和三年十二月二十一日内務大臣ヨリ東京市會ノ解散ヲ命セララル迄被告人村山賢作ハ大正十一年六月以降大正十五年六月迄被告人茂木久平同大井善藏ノ二名ハ大正十五年六月以降昭和三年十二月二十一日迄孰レモ東京市會議員タリシ者ナルトコロ

(一) 被告人小森七兵衛ハ大正十四年頃ヨリ原審相被告人高村増太郎等ノ請託ヲ受ケ前掲魚市場ノ特殊權利者ニ對スル補償金交付ノ提案方ニ付東京市理事者側ニ對スル運動ヲ爲シ大正十五年三月以降屢々同市理事者ヨリ右補償金交付案カ同市會ニ上程セララルヤ前記ノ如ク之カ調査委員ニ舉ケラレ其ノ審議ニ關與シ同案通過ノ爲賛成盡力シタルモノナルカ右高村増太郎ヨリ

(イ) 大正十五年五月中旬頃ヨリ同年九月中旬頃迄ノ間前後三回ニ互リ東京市京橋區木挽町二丁目十三番地ノ當時ノ自宅外一箇所ニ於テ大正十五年六月施行ノ東京市會議員選舉ニ立候補シタル際其ノ選舉運動應援費等ノ名義ノ下ニ現金及小切手ニテ合計金千百圓ヲ

(ロ) 昭和二年六月頃前記自宅ニ於テ其ノ頃施行セラレタル衆議院議員補缺選舉ニ東京府第四區

檢事ノ連續犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意繼續ノ收賄 收
賄罪ト職務執行ノ正否 收賄者ノ何人ナルカヲ知ラサル賄賂共謀者ノ責任

ヨリ立候補シタル際其ノ選舉運動應援費名義ノ下ニ金六百圓ヲ

(ハ) 昭和三年二月十四日頃及同月十八日頃ノ二回ニ前同所ニ於テ同月二十二日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ東京府第三區ヨリ立候補シタル際其ノ選舉運動應援費名義ノ下ニ合計金五百圓ヲ孰レモ其ノ職務ニ關シ賄賂タルノ情ヲ知悉シナカラ之ヲ收受シテ收賄シ

(二)(三) 省略)

(四) 被告人大野敬吉ハ大正十五年三月末頃以降屢々前記高村増太郎ヨリ前掲補償案ニ對スル賛成並市會通過ノ盡力方ノ請託ヲ受クルヤ之ヲ應諾シ該補償案カ市會ニ上程セラルルヤ前記ノ如ク其ノ調査委員ニ舉ケラレ同案審議ニ際シ之ニ賛成シ案ノ通過ニ盡力シタルモノナルカ

(イ) 被告人坪野房治ニ對シ自己カ常務取締役ヲ勤ムル株式會社市村座名義ノ額面五千圓ノ約束手形一通ノ割引方ヲ前記高村増太郎ニ依頼セラレ度キ旨懇請シ右坪野房治ノ容ルトコロトナルヤ大正十五年四月十日頃同市京橋區南小田原町一丁目十一番地ナル當時ノ坪野房治ノ居室ニ於テ右高村増太郎ニ對シ右坪野ヲ介シテ金融方ヲ要請シ高村増太郎ヲシテ之ヲ承諾セシメ即時株式會社市村座代表取締役星野欽治大正十五年四月十日振出額面五千圓ノ約束手形一通ト引換ニ金額四千六百六十八圓五十錢ノ小切手一通ヲ右星野欽治ニ交付セシメ以テ其ノ職務ニ關シ賄賂タルノ情ヲ知悉シ乍ラ右財産上ノ利益ヲ受ケテ收賄シ

(ロ) 被告人倉田金三郎ト共謀ノ上大正十五年五月十七日頃同市本郷區駒込千駄木町四十一番地ノ當時ノ右倉田金三郎居室ニ於テ金五千圓ヲ昭和二年五月頃同市日本橋區長濱町一番地大増事務所ニ於テ金千圓ヲ孰レモ右高村増太郎ヨリ其ノ職務ニ關シ賄賂タルノ情ヲ知悉シ乍ラ兩名ニテ收受シテ收賄シ

(五)(六)(七)(八)(九) 省略)

(十) 被告人小坂久萬吉ハ東京市會議員ニ就任中高村増太郎 篠崎將次等ノ請託ヲ受ケ西久保市長ノ提案ニ係ル前掲九十萬圓ノ補償案ヲ審議スルニ當リ昭和二年四月以降同案ノ調査委員會ノ委員長トナリ之ニ賛成スルト共ニ委員會ノ經過及市會各派ノ情勢等ノ報告ヲ爲シ極力該案ノ通過ニ盡力シタルモノナルカ

(イ) 右篠崎將次ヨリ昭和二年五月頃同市深川區相川町ノ當時ノ自宅ニ於テ其ノ職務ニ關シ賄賂タルノ情ヲ知悉シ乍ラ金五百圓ヲ借受ケ財産上ノ利益ヲ受ケ以テ收賄シ

(ロ) 高村増太郎 篠崎將次ノ兩名ヨリ昭和二年六月中右自宅及同市京橋區南小田原町一丁目三番地ノ當時ノ篠崎將次ノ居室ニ於テ前後三回ニ互リ其ノ職務ニ關シ賄賂タルノ情ヲ知悉シ乍ラ合計金四千圓ヲ收受シテ收賄シ

(ハ) 高村増太郎 篠崎將次 相川源八等ヨリ昭和二年十二月頃政友會東京支部長タル被告人中島

檢事ノ連續犯通知ノ效力 市會議員ノ改選前ト後トニ於ケル犯意繼續ノ收賄 收
賄罪ト職務執行ノ正否 收賄者ノ何人ナルカヲ知ラサル賄賂共謀者ノ責任 收